塩竈市長期総合計画特別委員会会議録

令和3年9月27日 ～ 令和3年12月13日

塩竈市議会事務局

塩竈市長期総合計画特別委員会会議録目次

【令和3年9月27日（月）】…… 1日目

正副委員長互選 3

【令和3年10月18日（月）】… 2日目

議案説明（議案第64号） 9

資料要求 17

【令和3年11月5日（金）】…… 3日目

質疑

鎌田礼二委員 21

小高洋委員 25

浅野敏江委員 32

伊勢由典委員 39

阿部眞喜委員 50

志賀勝利委員 55

伊藤博章委員 72

【令和3年11月19日（金）】… 4日目

質疑

菅原善幸委員 81

伊勢由典委員 87

志賀勝利委員 104

【令和3年11月30日（火）】… 5日目

質疑

浅野敏江委員	127
小高洋委員	133
辻畑めぐみ委員	147
曾我ミヨ委員	156

【令和3年12月13日（月）】… 6日目

質疑

志賀勝利委員	171
小高洋委員	179
小野幸男委員	187
伊勢由典委員	195
浅野敏江委員	203

採決	205
----	-----

令和3年9月27日（月曜日）

塩竈市長期総合計画特別委員会会議録
（第1日目）

塩竈市長期総合計画特別委員会第1日目

令和3年9月27日（月曜日）午後3時40分開会

出席委員（18名）

阿部 眞 喜 委員	西村 勝 男 委員
阿部 かほる 委員	小野 幸 男 委員
菅原 善 幸 委員	浅野 敏 江 委員
今野 恭 一 委員	山本 進 委員
伊藤 博 章 委員	香取 嗣 雄 委員
志子田 吉 晃 委員	鎌田 礼 二 委員
伊勢 由 典 委員	小高 洋 委員
辻 畑 めぐみ 委員	曾我 ミヨ 委員
土見 大 介 委員	志賀 勝 利 委員

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

市長 佐藤 光 樹	副市長 佐藤 洋 生
市民総務部長 荒井 敏 明	健康福祉部長 小林 正 人
産業環境部長 小山 浩 幸	建設部長 相澤 和 弘
市立病院事務部長 本多 裕 之	水道部長 鈴木 宏 徳
市民総務部 政策調整監 佐藤 俊 幸	市民総務部 総務課長 鈴木 康 弘
市民総務部 財政課長 高橋 数 馬	健康福祉部 長寿社会課長 中村 成 子
産業環境部 商工港湾課長 伊東 英 二	市民総務部 総務課長補佐 兼総務係長 伊藤 勲
教育委員会 教 育 長 吉木 修	教育委員会 教 育 部 長 鈴木 康 則
監査委員 福田 文 弘	

事務局出席職員氏名

事務局 長	川 村 淳	議事調査係長	石 垣 聡
議事調査係主査	工 藤 聡 美	議事調査係主査	工 藤 貴 裕

会議に付した事件

付議議案について

- ・議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて

午後3時40分 開会

○阿部議長 ただいまから、塩竈市長期総合計画特別委員会を開会いたします。

本日は、正副委員長の互選をお願いいたします。

それでは、臨時委員長を年長者である香取嗣雄委員をお願いいたします。

臨時委員長と交代いたします。よろしくをお願いいたします。

○香取臨時委員長 それでは、年長のゆえをもちまして、私が臨時委員長の職務を行います。

委員長が選出されるまでの間、議事をとらせていただきます。

これより正副委員長の互選を行います。互選の方法をいかがいたしますか、お諮りいたします。

志子田吉晃委員。

○志子田委員 正副委員長の選任につきまして、臨時委員長の指名により選考委員を挙げていただき、選考をお願いしたいと思います。以上でございます。

○香取臨時委員長 正副委員長の互選については、臨時委員長の指名により選考委員をあげ、選考の上、互選をお願いしたい旨の発言がありました。さよう取りはからうことにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○香取臨時委員長 異議なしと認め、正副委員長の互選につきましては、さよう決定いたしました。

それでは、選考委員を指名いたします。

選考委員には、小野幸男委員、伊勢由典委員、土見大介委員、今野恭一委員、志賀勝利委員以上5名の方に選考委員をお願いいたします。

それでは、別室にて選考をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

午後3時43分 休憩

午後4時11分 再開

○香取臨時委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、選考委員の代表の方より、選考結果のご報告をお願いいたします。

志賀勝利委員。

○志賀委員 それでは、選考委員会の結果をご報告いたします。

選考委員で慎重に審議した結果、本特別委員会の委員長には土見大介委員、副委員長には小高洋委員のご両名を選考いたしましたので、ご報告いたします。以上です。

○香取臨時委員長 ただいま志賀勝利委員のご報告のとおり、委員長には土見大介委員、副委員長には小高洋委員を選任することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○香取臨時委員長 異議なしと認め、さよう決定いたします。

それでは、土見大介委員に委員長就任の挨拶をお願いいたします。

○土見委員長 ただいま、委員長に選任いただきました。土見大介です。第6次塩竈市長期総合計画の策定、十年間にわたる大きな計画、その責任の重さを非常に今痛感しているところでございます。この十年間社会情勢的には厳しいものもあろうかと思いますが、市役所の皆様、市民の皆様、この計画の策定に関わられた多くの皆様の夢がしっかりと実現された十年後になるよう誠心誠意努力してまいりたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

○香取臨時委員長 次に、小高委員に副委員長就任の挨拶をお願いいたします。

○小高副委員長 ただいま副委員長にご指名をいただきました。小高洋でございます。今後十年間ということで、非常な困難も予想されるわけですが、そういった中でも今回の計画、大変重要な計画でありますので、そこに向けてしっかりと審議できますように委員長と二人三脚で取り組んでまいりたいと思います。皆様のご指導、そしてご協力を心からお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○香取臨時委員長 それでは、委員長と交代いたします。

暫時休憩いたします。

午後4時11分 休憩

午後4時11分 再開

○土見委員長 これより付託議案の審査に入ります。

なお、本特別委員会は、委員会条例第18条の規定により公開制とすることにいたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、本委員会を公開制とすることに決定いたしました。

傍聴者の方に申し上げます。携帯電話等をお持ちの方は電源を切るようお願いいたします。

なお、撮影及び録音については、許可いたしませんのでご協力願います。

また、マスクの着用にご協力を願います。

本特別委員会に審査を付託されました議案は、議案第64号第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについての一件であります。

お諮りいたします。本特別委員会に審査を付託されました議案第64号については、閉会中の継続審査とすることにいたしたいと思っておりますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、本特別委員会に審査を付託されました議案第64号については、閉会中の継続審査とすることに決定いたしました

以上で本日の会議は終了いたします。ありがとうございました。

午後4時18分 終了

塩竈市議会委員会条例第29条第1項の規定によりここに署名する。

令和3年9月27日

塩竈市長期総合計画特別委員会委員長 土 見 大 介

令和3年10月18日（月曜日）

塩竈市長期総合計画特別委員会会議録

（第2日目）

塩竈市長期総合計画特別委員会第2日目

令和3年10月18日（月曜日）午後1時06分開会

出席委員（18名）

阿部 眞喜 委員	西村 勝男 委員
阿部 かほる 委員	小野 幸男 委員
菅原 善幸 委員	浅野 敏江 委員
今野 恭一 委員	山本 進 委員
伊藤 博章 委員	香取 嗣雄 委員
志子田 吉晃 委員	鎌田 礼二 委員
伊勢 由典 委員	小高 洋 委員
辻畑 めぐみ 委員	曾我 ミヨ 委員
土見 大介 委員	志賀 勝利 委員

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

市長 佐藤 光樹	副市長 佐藤 洋生
市民総務部長 荒井 敏明	健康福祉部長 小林 正人
産業環境部長 小山 浩幸	建設部長 相澤 和弘
市立病院事務部長 本多 裕之	水道部長 鈴木 宏徳
市民総務部 政策調整監 兼政策課長 佐藤 俊幸	市民総務部 危機管理監 井上 靖浩
市民総務部 総務課長補佐 兼総務係長 伊藤 勲	教育委員会 教育委員長 吉木 修
教育委員会 教育部長 鈴木 康則	

事務局出席職員氏名

事務局 長	川 村 淳	議事調査係長	石 垣 聡
議事調査係主査	工 藤 聡 美	議事調査係主査	工 藤 貴 裕

会議に付した事件

付議議案について

- ・ 議案第 6 4 号 第 6 次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定める
ことについて

午後1時06分 開会

○土見委員長 ただいまから、塩竈市長期総合計画特別委員会を開会いたします。

出席者の方々に申し上げます。本日の会議は、過日作成いたしました、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた塩竈市議会運営指針に記載のとおり、感染症対策を行い開催しております。

発言の際も、マスクを着用したままで結構ですので、ご案内申し上げます。

また、体調管理の観点から、水分補給を行うための飲料の持込みを許可しておりますので、ご案内申し上げます。

本日の審査の議題は、閉会中の継続審査となっております「議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて」の1件であります。

これより議事に入ります。

議案第64号について、市当局より説明をお願いいたします。佐藤市長。

○佐藤市長 塩竈市長期総合計画特別委員会のご審査を賜るに当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本特別委員会で審査をお願いいたします案件は、議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについてであります。

本計画は、10年後の本市の都市像を「海と社に育まれる、楽しい塩竈」と定め、その実現のための基本的施策を総合的かつ体系的にお示ししようとするものであり、新たなまちづくり、そして市政運営の指針となる、極めて重要な計画でございます。

詳細につきましては、この後担当より改めてご説明をいたさせますので、よろしくお聞き取りの上ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○土見委員長 佐藤政策調整監兼政策課長。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 それでは、私から議案第64号につきまして、ご説明を申し上げます。

資料につきましては、資料No.28及びNo.29をご用意いただきたいと思います。と存じます。

まず、資料No.29の1ページをお開きいただきたいと思います。と存じます。

こちらは、9月定例会におきましても説明に用いました、第6次塩竈市長期総合計画の構成図でございます。

定例会におきましては、提案理由とともに、図中央にございます基本構想を中心に、ご説明を申し上げたところでございます。

本日は、この図の右側にございます、前期基本計画の8つの分野の施策を中心に、概要をご説明申し上げます。一部、定例会での説明と重複いたす部分がございますが、ご了承いただきたいと存じます。

前期基本計画の体系といたしましては、まちづくりの方向性として、第1章子供の分野から、第8章浦戸諸島まで、それぞれの分野で施策体系を定め、施策を横断的に展開することにより、ページの中央にございます、基本構想の目指す都市像「海と社に育まれる楽しい塩竈」と、将来人口5万人を実現しようとするものでございます。

それでは、続きまして、前期基本計画の8つの分野の施策について、概要をご説明いたします。

恐れ入りますが、資料No.28の35ページをお開きいただきたいと存じます。

まず、第1章子供の分野の、子供たちの笑い声があふれるまちについてでございます。まちづくりの方向性を、健やかに育つ・育てる環境づくりとし、第1節から第3節まで3つの施策体系を設定しております。

また、ページ下段には、SDGsの17のゴールのうち、該当する項目のアイコンを示してございます。

36ページをお開きいただきたいと存じます。

施策の体系の第1節「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築では、(1) 子供と子育て世代への支援の充実として、妊娠期から子育て期に係る全ての子供の健康、発達、育児などの相談体制の充実と、ワンストップで切れ目のない支援についてなど、4項目を掲げております。また、(2) 働きながら安心して子育てができる環境づくりでは、多様化する就労形態に対応した保育サービスなど、3項目を掲げ、(3) 全ての子供たちの健やかな成長に向けた支援の充実では、家庭状況に応じた相談や、生活の安定、自立に向けた支援など、3項目を掲げております。

続いて、37ページ、第2節未来を担う子供を育むための学習環境の充実では、(1) 個性を生かす学びや協同的な学びの充実として、5項目。(2) 豊かな歴史文化との触れ合いと世界に目を向けた学びの推進として、3項目。(3) 安全・安心で快適な教育環境づくりとして、2項目を掲げております。

続きまして、38ページをお開きください。

第3節地域全体で子育てや教育を支える体制の充実では、（1）学校・家庭・地域が連携した子供の育ちと子育て支援の充実として、3項目。（2）子供たちの安全確保体制の充実として、2項目。（3）地域と連携した家庭教育応援体制の充実では、2項目を掲げております。

39ページは、子供の分野の成果指標でございます。指標名および基準値と、前期基本計画の目標となる令和8年度における目標値を示しております。また、SDGsの推進に資する指標をSDGsローカル指標と位置づけ、該当する指標にはSDGsの各目標のマークを示しております。この分野では、1の「子育て支援の充実」の満足度を21.5%から25%に高めるなど、12項目を設定しております。

続きまして、41ページをお開きいただきます。

第2章福祉の分野でございます。福祉の分野の、みんなが生き生きしているまちについては、まちづくりの方向性を、健康で安心して暮らせる地域づくりとし、3つの施策体系を設定しております。

42ページをお開きください。

施策体系の第1節みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実では、（1）高齢になってもいつまでも生き生きと暮らせる地域づくりとして、高齢者が知識や経験を生かし、担い手として地域社会に参画できる環境をつくるなどの4項目。（2）障害のある人も生き生きと暮らせる共生社会づくりとして、心のバリアフリーと情報のバリアフリーの推進などの4項目。（3）生活困窮者の自立と社会参加に向けた支援の充実では、生活困窮者の自立に向けた就労支援や生活支援の強化などの2項目。（4）地域福祉の推進では、民生委員、児童委員の方々などとの連携を深め、地域課題の早期発見と早期対応に取り組むなどの2項目を掲げております。

43ページをご覧ください。

第2節健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出では、（1）体の健康づくりとして、楽しみながら継続して健康づくりに取り組める環境をつくるなどの3項目。（2）心の健康づくりとして、心の健康に関する知識の普及啓発などの2項目。（3）食から始まる健康づくりとして、調和の取れた食生活の定着推進など、3項目を掲げてございます。

続きまして、44ページをお開きいただきます。

第3節安心できる地域医療体制の充実では、（1）保健・医療・介護分野でのネットワーク化の推進として、多様な職種・機関との連携協働による地域包括支援ネットワークの構築を図ることや、（2）休日・夜間の安定的な医療提供に努めることのほか、（3）市立病院を中心とした地域医療体制の充実として、医療と介護・保健分野の連携強化による、市立病院を中心とした地域医療体制の充実などの3項目を掲げております。

45ページの、福祉の分野の成果指標につきましては、1の社会的な活動を行っている高齢者の割合を43%から63%に高めるなど、10項目を設定しております。

続きまして、47ページをお開きいただきたいと存じます。

第3章生活の分野でございます。快適に住み続けられるまちにつきましては、まちづくりの方向性を安全で安心なコンパクトさを生かした住環境づくりとし、3つの施策体系を設定しております。

48ページをお開き願います。

第1節災害などに対する強さとしなやかさを持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくりでは、（1）市民一人一人の防災・減災意識の向上として、防災訓練や防災教育の充実を目指すなどの2項目。（2）地域防災力の強化として、自主防災組織の育成や消防団員の確保による防災力の向上などの3項目。（3）犯罪が起こりにくいまちづくりの推進として、関係機関との連携強化、防犯カメラや防犯灯の整備支援などの4項目。（4）新型感染症への対応として、速やかにワクチン接種体制を構築できるようにするなど、新型感染症の発生に備えることをはじめ、2項目を掲げております。

次に、49ページの、第2節コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成では、（1）地域特性を生かした、安全・快適で魅力のある住環境の整備推進として、本市の特性を最大限に生かした住環境の整備に努めるなどの5項目。（2）気軽に集える憩いの空間の創出として、伊保石公園についてより市民に親しまれる環境の創出に努めるなどの2項目。（3）安全で安心な生活基盤の確保として、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指すなどの4項目。（4）公共交通体系の充実強化として、市内4駅を起点とした公共交通体系の充実などを掲げております。

次に、50ページをお開き願います。

第3節豊かな自然と調和した環境に優しい循環型社会の形成では、（1）自然環境の保全と活用として、自然景観や親水空間の保全に努めるなどの2項目。（2）循環型社会の実現と

して、地域特性を生かした再生可能エネルギーなどの活用についての調査・研究を進めるなどの4項目を掲げております。

51ページの、生活の分野の成果指標につきましては、1の自主防災組織結成団体数を83団体から90団体に増やすなど、12項目を設定しております。

続きまして、53ページをお開きいただきたいと思います。

第4章産業の分野でございます。産業の分野の、活気があり、誇りを持って働いている人がたくさんいるまちについては、まちづくりの方向性を活力に満ちた産業づくりとし、3つの政策体系を設定しております。

54ページをお開きいただきたいと思います。

第1節数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造では、(1)多彩な地域資源を生かした食のまちづくりとして、食に関わる様々な産業の連携促進により、食のブランド力向上と、新たな地域資源の創出の支援などの5項目。(2)水産品・水産加工品の流通拡大として、魚市場における衛生管理の徹底や、積極的な漁船誘致活動などによる水揚げの推進など、3項目を掲げております。

55ページの、第2節商工業者の持続的な経営安定や事業承継、新規創業への支援の充実による地域活力の向上では、(1)「チャレンジしたくなるまち」に向けた魅力向上として、誰もがチャレンジしたくなる創業支援体制の構築などの2項目。(2)地域経済の基盤強化、(3)の個店の魅力がつながる商店街づくりとして、それぞれ1項目を掲げております。

次に、56ページをお開き願います。

第3節海と港を生かした活力づくりや新たな産業と若者も満足できる雇用の創出では、(1)海・港への愛着づくりと塩釜港区の利活用として、北浜緑地公園を中心とした親水空間、港奥部のイベントスペース、マリゲート塩釜の観光拠点機能の一体的な活用を図ったベイエリアの再生などの3項目。(2)地域特性や地域課題を踏まえた雇用創出と産業共創として、人材不足の解消に向けて多様な人材が活躍できるよう、制度拡充などについての働きかけや、雇用環境の整備などの4項目を掲げております。

57ページの、産業の分野の成果指標につきましては、1の全水揚げ量に占めるカツオ・マグロー本釣り漁業水揚げ量の割合を20%に高めるなど、6項目を設定しております。

続きまして、59ページをお開きいただきたいと思います。

第5章交流の分野でございます。交流の分野の、何度でも訪れたいまちにつきましては、ま

ちづくりの方向性を、観光交流による賑わいづくりとし、2つの施策体系を設定しております。

60ページをお開き願いたいと存じます。

第1節地域資源を最大限活用した観光メニューの創出では、(1)“塩竈でしか味わえない”魅力ある観光メニューの創出として、4つの観光拠点を中心に歴史や文化、多彩な食などの地域資源を結びつけたストーリー性のある観光メニューの創出を図るなどの3項目。(2)観光拠点の魅力の磨き上げと回遊性の向上として、「鹽竈神社と門前町地区」については、商店街などの関係団体と連携しながら、特色ある体験など、様々な活動を楽しんでいただける環境を整えるなどの5項目を掲げております。

61ページの、第2節塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・広域連携による交流人口の拡大では、(1)塩竈ブランドの確立として、歴史や食を生かした塩竈ブランドの確立と発信。(2)戦略的なプロモーションの推進として、観光情報の発信手段の多様化と内容の充実を図り、ターゲットを意識した情報発信に取り組むなどの2項目。(3)笑顔でのおもてなしとシビックプライドの醸成として、関係団体との連携強化や人材育成などの2項目。(4)つながりの強化による発信力の向上による、交流人口と関係人口の創出を掲げてございます。

62ページをお開きいただきたいと存じます。

交流の分野の成果指標につきましては、1の観光客入り込み数を244万2,000人に増やすなど、4項目を設定しております。

続きまして、63ページをご覧ください。

第6章文化の分野でございます。文化の分野の、日常に彩りがあるまちにつきましては、まちづくりの方向性を、生涯にわたって学び合える風土づくりとし、3つの施策体系を設定してございます。

64ページをお開きください。

第1節豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実では、(1)塩竈に息づく歴史・文化の保存として、貴重な文化財を市民の共有財産として守るなどの3項目。(2)歴史・文化の活用によるシビックプライドの醸成として、塩竈の人・歴史・文化・自然について学ぶ機会を提供するなどの3項目を掲げております。

65ページをご覧ください。

第2節生活に潤いを与える生涯学習・生涯スポーツの展開では、(1)生涯にわたって楽しく学べる環境づくりとして、様々なメニューによる学習機会の提供に努めるなどの3項目。

(2)生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりとして、一人一人のニーズに沿ったスポーツに親しめる機会の提供などの2項目。(3)生きがい創出と地域の活力向上として、1項目を掲げております。

66ページをお開きいただきたいと存じます。

第3節芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成では、(1)創造性豊かな人材育成の支援として、子供の頃から良質な文化・芸術に触れる機会を提供することで、創造性豊かな人材の育成に努めるなどの2項目。(2)スポーツを通じた人材育成の支援として、1項目。(3)文化の創造や発信の促進として、一流アーティスト・アスリートに触れる機会を提供するなど、2項目を掲げてございます。

67ページの、文化の分野の成果資料につきましては、1の「歴史の継承と文化の振興」の満足度を28%に高めるなど、7項目を設定しております。

続きまして、69ページをお開きいただきたいと存じます。

第7章協働の分野でございます。協働の分野の、みんなが主役になれるまちにつきましては、まちづくりの方向性を、様々な個性がつながり役割を發揮できる環境づくりとし、3つの施策体系を設定してございます。

70ページをお開きいただきたいと存じます。

第1節塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実では、(1)まちづくりに関わりたくなる環境づくりとして、多様な学習機会の提供などの2項目。(2)市民活動団体との協働・連携の推進として、政策形成過程への市民活動団体の参画促進などの2項目。

(3)相談支援体制の充実と、気軽に集えて活動できる環境づくりとして、協働による地域課題の解決に向けた、相談支援体制の充実などの2項目を掲げております。

71ページの、第2節大学や企業等との交流・連携・共創と、多様化する社会への理解促進では、(1)協働・共創によるまちづくりとして、多様な主体が参画した協働・共創によるまちづくりの推進などの2項目。(2)性別に関わらずみんなが等しく活躍できる社会づくりとして、家庭内の役割を協働して担えるよう、意識啓発と学習機会の提供に努めるなどの3項目。(3)多文化共生社会への理解促進として、国際理解や国際交流を促進するための関係機関との連携強化などの2項目を掲げております。

72ページをお開きいただきたいと存じます。

第3節効果的・効率的で透明性の高い行政経営では、（1）効果的な情報発信と情報共有として、時代のニーズに応じた効果的な情報発信などの2項目。（2）きめ細やかで持続可能な行政経営として、計画的な財政運営などによる持続可能な行政経営に努めるなどの4項目。（3）広域的な協力・連携による行政サービスの向上として、周辺自治体との広域的な連携による共通課題の解決や、行政サービスの向上に努めるなどの2項目を掲げております。

73ページの、協働の分野の成果指標につきましては、1の市民活動団体登録数を100団体に増やすなど、6項目を設定してございます。

続きまして、75ページをお開きいただきたいと存じます。

第8章浦戸諸島についてでございます。浦戸諸島の分野の、自然と調和した和やかな暮らしと癒やしがある島については、まちづくりの方向性を、人々が住まい・集える持続可能な島づくりとし、3つの施策体系を設定してございます。

76ページをお開き願います。

第1節健康で安心して住み続けられる生活環境の充実では、（1）市営汽船の利便性確保と経営安定化として、市民の利用ニーズを踏まえた、快適な移動環境の提供に努めるなどの3項目。（2）安定的な医療・福祉サービスの提供として、年間を通じた定期的な診療体制の維持・提供を図るなどの3項目。（3）移住者の受入環境づくり、（4）特色ある教育の充実、（5）先端技術の活用による島生活の充実については、それぞれ1項目を掲げてございます。

77ページの、第2節浦戸産品の高付加価値化や担い手育成による産業の振興では、（1）浦戸のブランド化推進と6次産業化支援として、浦戸の海産物・農産物について、関係機関と連携した浦戸ブランドの磨き上げを行うなどの2項目。（2）浦戸産業の魅力発信と担い手の確保・育成として、浦戸産品の価値を広く発信し、産業の担い手確保に努めるなどの3項目を掲げております。

78ページをお開き願います。

第3節浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進では、（1）個性ある地域資源をつなぎ合わせた交流活動の推進として、各島が持つ資源の掘り起こしを行い、浦戸諸島一体での交流活動を推進することの1項目。（2）浦戸ならではの観光メニューの創出として、訪れる人々に浦戸ならではの癒やしや楽しさを与えられる観光メニューを創出するなど

の3項目。(3)時代のニーズに沿った受入環境づくりとして、島のよさや島の暮らしを体験できる滞在・体験型のメニューの充実などの2項目を掲げております。

79ページの、浦戸諸島の分野の成果指標につきましては、1の市営汽船乗船客数をはじめ、7項目を設定しているところでございます。

以上、前期基本計画の概要につきまして、ご説明をさせていただきました。ご審議方、どうぞよろしくお願いをいたします。私からは以上でございます。

○土見委員長 以上で、議案第64号についての説明は終了いたしました。

次に、資料要求を行います。当委員会により要求する資料については、お手元にご配付の、塩竈市長期総合計画特別委員会資料要求一覧のとおりとなっております。

なお、日本共産党塩釜市議団から11件、創生会から7件の資料要求がありましたものを、重複などの内容を精査し、塩竈市長期総合計画特別委員会として当局に要求するものであります。

当局において、内容の確認をお願いいたします。佐藤副市長。

○佐藤副市長 ただいま、資料要求のございました内容につきまして、3点ほど確認をさせていただきたいと存じます。

お手元の資料要求一覧の2番、延長保育・低年齢児保育・一時預かり保育・病後児保育の活動内容と実績(震災前年度から)、保育待機児童数、保育施設数、受入可能数(震災前年度から)につきましては、市内にあります保育施設を対象として調整をいたしますが、延長保育については、子ども・子育て支援新制度導入後の平成27年度以降の実績を、また、一時預かり保育については、公立保育所で実施しておりますうみまち保育所、旧新浜保育所になりますが、こちらの年間延べ利用児童数を提出させていただきたいと考えております。

次に、17番、第6次長期総合計画期間内の財政計画につきましては、第6次長期総合計画、前期基本計画の計画期間であります令和8年度までの財政見通し、当初5年間になりますが、こちらを提出させていただきたいと考えております。

最後に、18番、第5次長期総合計画の各基準値と今後の方向性と達成状況の分析結果につきましては、第5次長期総合計画を総括した概要版がございますので、これを提出させていただきます。

なお、要求のありました資料につきましては、11月2日の正午までに議会事務局に提出させていただきます。

私からは以上でございます。

○土見委員長 お諮りいたします。資料については、ただいま市当局から回答のありました内容で要求することにご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、本件についてはさよう取り扱うことに決定いたしました。

お諮りいたします。本日はこれで会議を閉じ、11月5日午前10時より再開したいと思います。が、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、さよう決定いたします。

なお、11月5日は長期総合計画基本構想について質疑を行いますので、関係職員の出席をお願いいたします。

以上で本日の会議は終了いたします。

お疲れ様でした。

午後1時36分 閉会

塩竈市議会委員会条例第29条第1項の規定によりここに署名する。

塩竈市長期総合計画特別委員会委員長 土 見 大 介

令和3年11月5日（金曜日）

塩竈市長期総合計画特別委員会会議録

（第3日目）

塩竈市長期総合計画特別委員会第3日目

令和3年11月5日（金曜日）午前10時00分開会

出席委員（18名）

阿部 眞 喜 委員	西村 勝 男 委員
阿部 かほる 委員	小野 幸 男 委員
菅原 善 幸 委員	浅野 敏 江 委員
今野 恭 一 委員	山本 進 委員
伊藤 博 章 委員	香取 嗣 雄 委員
志子田 吉 晃 委員	鎌田 礼 二 委員
伊勢 由 典 委員	小高 洋 委員
辻畑 めぐみ 委員	曾我 ミ ヨ 委員
土見 大 介 委員	志賀 勝 利 委員

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

市長 佐藤 光 樹	副市長 佐藤 洋 生
市民総務部長 荒井 敏 明	健康福祉部長 小林 正 人
産業環境部長 小山 浩 幸	建設部長 相澤 和 弘
市立病院事務部長 本多 裕 之	水道部長 鈴木 宏 徳
市民総務部 政策調整監 兼政策課長 佐藤 俊 幸	市民総務部 危機管理監 井上 靖 浩
健康福祉部次長 兼子育て支援課長 小倉 知 美	市民総務部 総務課長 鈴木 康 弘
市民総務部 財政課長 高橋 数 馬	健康福祉部 長寿社会課長 中村 成 子
産業環境部 水産振興課長 鈴木 陸奥男	産業環境部 商工港湾課長 伊東 英 二
産業環境部 観光交流課長 布施 由貴子	市民総務部 総務課長補佐 兼総務係長 伊藤 勲

教育委員会
教育部長 吉木 修

教育委員会
教育部長 鈴木 康則

教育委員会教育部
学校教育課長 白鳥 武

教育委員会教育部
生涯学習課長
兼生涯学習センター館長 鈴木 和賀子

事務局出席職員氏名

事務局長 川村 淳

議事調査係長 石垣 聡

議事調査係主査 工藤 聡美

議事調査係主査 工藤 貴裕

会議に付した事件

付議議案について

- ・議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて

午前10時00分 開会

○土見委員長 ただいまから、塩竈市長期総合計画特別委員会を開会いたします。

出席者の方々に申し上げます。本日の会議は、過日作成いたしました、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた塩竈市議会運営指針に記載のとおり、感染症対策を行い開催してまいります。

発言の際にも、マスクを着用したままで結構でございますのでご案内申し上げます。

また、体調管理の観点から、水分補給を行うための飲料の持込みを許可しておりますのでご案内申し上げます。

本日の審査の議題は、閉会中の継続審査となっております「議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて」の1件であります。

これより議事に入ります。

本日は、基本構想についての質疑を行います。ご発言のお一人の持ち時間は答弁を含めて60分とさせていただきますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。なお、質疑の際は資料No.及び該当ページをお示しの上ご発言くださるようお願いいたします。

それでは質疑に入ります。鎌田委員。

○鎌田委員 おはようございます。

長期総合計画の基本構想について質疑をさせていただきます。

10年前も、振り返ると同じ質疑をしているんですけども、これが一番私は大事なかなと思っていて、本日はこれのみにしたいと考えています。やはり将来人口を（「資料の番号をお願いします」の声あり）資料の23ページです、将来人口をどう見積もるかということが一番のポイントになるかと思えます。やっぱり目標値をどこに持っていくのかね、読みとしては5万人だということに書いていますけれども、将来人口ね。でも、塩竈市はほかの資料やら何やらでは、文献やら何やらでは5万人だといっても、本来だったら6万人を目指すとか7万人を目指すとかそういう目標値を設定して、そこにみんなで努力して進むという形が本来の形かなと思うんですが、この目標値、どういうふうに設定されているのか、その設定の経緯、考え方をまずお示しいただきたいと思えます。

○土見委員長 鎌田委員にご確認をお願いします。資料の23ページですね。

○鎌田委員 はい。何ページでもいいんですけども、目標値を、経緯を知りたいと思えます。

○土見委員長 それでは、ご答弁をお願いいたします。荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 まず、今回の人口5万人としたという考え方をご説明申し上げたいと思います。

もともと人口推計につきましては、国立社会保障・人口問題研究所での推計値をまず参考とするというのを前回も今回も基本とさせていただいております。今回の推計値であります、10年後の目標年度であります令和13年度、この人口問題研究所、いわゆる社人研と言っているところの発表では4万8,000人という推計が出ておりました。そこで今回、この4万8,000人という推計、令和3年度と比較いたしますと5,000人減少するという非常に大きな問題でございますので、特に年少人口それから生産年齢人口、これが大きいということが既に分析の中では分かってきたというところなんです。こういったところを含みまして、これからの長期総合計画の課題となります子育て世帯の移住定住の促進、それから産み育てやすい環境を整えるということを今回大きなテーマとして、まず長期総合計画の中に盛り込ませていただいたと。そういう形で、人口減少を抑制する、それから人口増加策を実施する、この両輪で行うことで、今回、令和13年の将来人口をまず5万人と努力目標として掲げさせていただいたと。これは審議会の有識者の皆様からも特に果敢な努力目標だというご評価もいただいたと。それでも、5万人でも厳しいというお話を受けながらも、やっぱり塩竈市としての大きな目標をまずは5万人とさせていただいたという、審議会の中での議論の経過も含まれてございます。

以上です。

○土見委員長 鎌田委員。

○鎌田委員 そういった現状を踏まえてということですけども、やはり私は、何か自分で取り組もうとか何かをやろうという場合は、実現可能そうなレベルに目標値を持ってくるんじゃない、必ずそれより低いなというね。現実に10年前の構想もそうでした。実際、目標値からかなり離れた数値になってきているわけですね、下がっているわけです。ですから、やっぱり目標はやっぱり大きなものを持つべきだと私は思うんですよ。それに向かって努力をしますと。それがもう実現可能そうな、可能そうということもありませんけれども、今の説明を聞きますとね。それでも私はやっぱりこういった構想の、何でもそうですけれども、目標値としてはあまりにも低過ぎるんじゃないのと。やっぱり、目標をかけ離れたくらいの、極端な話ですよ、大きな目標を持ってそことにかく全力で取り組むんだという、そういう意志が私は大切だと思うんですよ。ですから、この目標値の設定について私はかなり不満を持っているんです。

10年前もそうでしたけれどもね。市長はいかがですかね、この目標値についてね。私はやっぱり高い目標を持って、それに本当に傾注していくべきだと、全市としてね、そう思うわけですけれども。この目標値設定、これで将来の動きが変わってくるんじゃないかと私は思うんですよ、持っている目標によってはね。どうでしょうか、市長の見解を聞きたいなと思うんですが。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 ただいまのご質疑でございますが、今回第6次長期総合計画を策定するに当たって、これまでの運営の仕方、動かし方というものを、僕としては初めて経験をさせていただきました。当初は、出てくれということで呼ばれて、たしか二、三回出席させていただきましたが、議論を聞いている中で、これは市長がいないほうがいだろうという判断をさせていただきました。あくまで、審議会に選んでいただいた皆さんや有識者の方々のご判断が、どのような目標を持って塩竈市の在り方を考えていらっしゃるか、冷静に市長として受け止めたほうがいだろうと、それで出席をやめさせていただいて、完成したときも、当然諮問を受けてその答えが返ってきたわけですので拝見をさせていただきました。そのときにも、この人口目標設定5万人ということについては、柳井先生からからり挑戦的な設定ですということと報告を受けさせていただきました。前回の、第5次の長期総合計画の立てた目標と実際どうだったのかを見た場合に、前回は5万5,800人を目標にして約1,600人下回りましたということとございました。これは多分見方の考え方一つだと思います。高い目標を持ってそれに向かって突き進むのか、現実をある程度どのように受け止めて、その受け止めた数字に対してどのような設定をしていくか、こういった見方があると思っております。僕としては、今この時点で高い目標を持つということは当然必要だと思っておりますが、その一方で、現実を考えたときにどこまで高い目標設定であればそれに向かっていけるのか、現実的に10年という、長いスパンなのかある意味では短いスパンなのか、そのことを考えるとどの程度がいいのかということについては、ある意味では回答を持ち合わせていないと思っております。そういった中であって、この5万人ということは、僕にとってもある意味では高いとは言いませんけれども、目標の設定値としては低くもなく高くもなく、ただ高いほうに近い数字だと捉まえているというのが今の心境でございます。

○土見委員長 鎌田委員。

○鎌田委員 どうもありがとうございます。繰り返しになりますけれども、私としてはやっぱり

現在の人口より多い、それを目指すべきだと、目標値にすべきだという考え方ですね。

そして、今回こういった形で決まってきたわけで、これが私の意見で覆るわけでもない話ではありますけれども。これ、この委員会ではなくて、この長期総合計画をつくるに当たってつくっていますよね、組織をね、そこで審議されてきたわけですからけれども、ほとんどはやっぱり行政主導だと思うんですよ。もう最初からこの5万人を行政側から出しているんじゃないかと思うんですが、実際どうだったのか。これ、審議会の中で5万人にしようという、そういう意見がどんどん出てこの5万人になったのか、行政側からもう実態がこうですから5万人しかないということで、しかないということはないんですけれども、行政側から出された数値なのか。この進め方は今までどうだったのか、目標値設定に当たってです。その経緯をちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 もちろん、人口の非常に大きな目標設定ということでありますので、審議会の皆さんにその裏づけとなる根拠となるその考え方、そういったところもお示ししたという経過がございます。例えば、今回の資料でもご提示させていただいておりますが、長期総合計画特別委員会資料というものにまとめておりますが、こちらの20ページから21ページの中で、これは考え方、事務局で整理をいたしまして、事前に正副会長さん方にもお示しして審議会に臨むという手順も踏みながら、ご議論が積極的にできるような、そういった資料もまとめてご議論いただいてきたという経過でございます。そういう中で、先ほどお話ししました4万8,000人、プラスの分としてこの資料の20ページには、①の子育て世帯に選ばれるまちを目指した上で年間30世帯の105人の増を目指すとか、②の子供を産み育てやすい環境をつくるとして令和13年度までに10年間で135人の出生増を目指すとか、こういった考え方を積極的にまずお示しして、こういった数値に基づきまして21ページで対策後の数字として令和13年度4万9,952人と、こういった裏づけの数値を全部明らかに、根拠的なものを全部お示しした上でご議論いただいてきたという中でございます。そういう中で5万人に設定するということは、先ほどもちょっとお話ありましたように、有識者の会長さんからもかなり果敢なる目標値設定であるというご評価もいただいた上でも、じゃあここはしっかりと5万人というものをまずは目指しましょうという結論に至ったという経過でございます。

以上です。

○土見委員長 鎌田委員。

○鎌田委員 分かりました。そうすると、行政主導で来た話じゃないかなって私としては捉えま
す。再度言わせてもらおうと、やっぱり現人口より少ない人口を目指すというか、それ自体が
僕は気に入らないというか、そう私は思っています。本来だったら、現在より大きな人口を
目指すべきだと考えています。

これで私の質疑は終わります。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 それでは、引き続きお伺いしてまいりたいと思います。

先ほど、鎌田委員からも人口というところでお伺いがあったわけではありますが、第6次長期
総合計画、今回の案におきましては資料No.28の15ページのところで、先ほどお話ございまし
たとおり5年後、令和8年のところで5万1,500人、令和13年においては本市将来人口5万人
ということで目標ということで立てられているということではありますが、これまでの推移と
いう点では要求させていただきました、お出しいただきました資料の11ページ、そこ以降に
おいて一定程度本市の人口推移というものが示されているわけであります。そういったと
ころで、まず、初めにちょっと整理をしておきたいと思うんですが、これまでの本市の人口推
移、この人口推移についての捉え方、どういった形があって、どういったものがあったこう
なったのかというところの出発点をちょっとお聞きをしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 ただいまの、長期総合計画特別委員会資料の11ページのご質疑というこ
とで承りました。

こちらの11ページの資料をご覧くださいますと、真ん中にありますまず自然増減というもの
が、平成22年度から令和2年度までの間にどんどん減少幅がまず大きくなっていっていると。
非常に危機感を覚えるような減少数値になっております。例えば平成22年はマイナス283人、
いわゆる自然減が283人であったのに対しまして、令和2年度ですとその自然減が468人とい
うことです。年間でお生まれになるお子さんの数が300人を切ってくるような状況に変わっ
てきていると。ここは非常に、子育てに不満をお持ちなのか、様々な理由があって今こうい
った自然減というのが激しく進んでいるという現状です。ただ、一方でという話になりますが、
社会増減のほうをご覧くださいますと、平成24年度まではマイナスの傾向であったというこ
となんです、平成25年度以降、それから平成30年度以降の様々な施策を講じてきていると
いう中身になります。平成25年度のほうは、恐らくこちらは震災の関係で2年間その状況を

見据えた上で、例えば就労人口でありますような、外国人の方も含めて徐々に増えてきているというのがございます。残念ながら国別でいきますと中国ではなくてほかの東南アジアのほうの国の方の国籍の人口が増えてきているという統計もございますので、そういった傾向で増えてきていると。自然増減、転入のほうが上回ってくるような話。それから平成30年度近辺になりますと、こちらのほうでも塩竈市子育て・三世代同居近居住宅取得支援事業、そういった住宅施策ですね、そういった助成事業を展開することによって何とか社会増減が上向きになってきているという傾向になっております。これによりまして、実は年少人口のところの割合も若干上向いてきているというのが今の塩竈市の人口の構成の現状となっております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。一口に人口減少ということではありますけれども、先ほどおっしゃられたとおり、いわゆる人口の増減、その様々な要素という意味ではまさにおっしゃられたとおりなんだろうと。やはり懸念されるのは、その中でも新たに産み育てられるようなそういったところの環境をどう整えていくのかということが今後必要になっていくんだろうというのは私も同じ思いでございます。

それで、じゃあ、その少子高齢化あるいは人口減少ということで、まさにこれは喫緊の課題となるわけで、この進行にどうやって歯止めをかけるのかということですが、改めて令和13年人口5万人ということで、この同じ資料の10ページでは、出生との関係で見ましたときに合計特殊出生率が1.24あるいは1.25という数値でこれまで来たということがありまして、こうした数値を基にして、同じ資料の後ろのほうでございますが、この場合の推計、対策の方向性、対策を行った場合の目標ということで、18ページ以降ですかね、そういったところにそういう見通しといいますか、先ほど荒井部長がおっしゃられた一連の対策の詳細といいますか、その中身があるということでありました。それで、本計画における10年後の人口目標5万人というところで、私もその5万人の根拠をということでお聞きをしようとしたんですが、先ほどその点については鎌田委員のご質疑の中で一定程度お答えはいただいたように思います。それで、その5万人というところについて、あくまで5万人を目指すというところよりも5万人を最低限確保しなければいけないというところでの意気込みで、ぜひこれはやってほしいなど。途中で、推移によっては目標値も変えていくようなことも踏まえ

ながら、ぜひそのあたりは取り組んでいただきたいと思うんですが、この対策の方向性について、例えばこの資料の20ページを見させていただきますと、その方向性について大きく2点あるということでした。1つ目は、この20ページ①にございますとおり子育て世帯の移住定住の促進ということで、2つ目に②ということで子供を産み育てやすい環境を整える、いわゆる出生数の増というところの2つの対策がここには載っているということです。それで、このそれぞれについてちょっと考え方等をお伺いしたいと思うんですが、まず一つ、年間30世帯105人の転入増というところがまず一つあって、これを一つの5万人というものの根拠ともされているんだと思うんですけれども、この考え方についてちょっと整理をしたいのですが、これはどういった観点からの数値なのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 先ほどと重複をちょっとする形になりますが、本市では今、塩竈市子育て・三代同居近居住宅取得支援事業ということを実施しております。1世帯当たり50万円の補助金を出すということです。今、こちらの表にあります下の括弧書きの米印、アスタリスクになりますが、1世帯当たり3.5人を想定していると。これは、就労される若い方々を呼び込むための事業ということでありますので、主に1世帯当たり3人から4人の方、そういった子育て世代の方々に転入していただきたいということで、1世帯当たり3.5人、それが30世帯。これは、実績によります。大体年間30世帯以上、時には130人を超える転入者、この事業による転入者もいらっしまったことがありますので、そういった実績を踏まえた上で今回このような数値の設定をさせていただいたという経緯でございます。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。それで、年間30世帯105人というところで、先ほどおっしゃられたとおりこれまでの同居近居の事業についての実績を踏まえての数字だということだったんですけれども、今後10年この移住定住という方向性に沿って見たときに、これまでの実績ベースで、じゃあこういった数字を一つの目標にするというのは考え方としてはあるのかなとは思いますが、そのほかに施策の方向性として移住定住というものについて、何となくこの事業の枠内に収まってしまうような印象を受けたんですが、そのあたりについてお考えがあればちょっとお聞きをしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 ご心配されるのはごもっともかなと伺いました。もちろん、この事業だけで人口増というものがこの目標を達成できるという考え方にはならないと思います。問題なのは、こういった施策、これに基づくいろいろ政策のこれからのマッチング、一つ一つの事業をそういった形で成熟させていくということが必要かとは考えております。でありますので、この事業を一つの大きなこれまでの基軸としながらも、これに付随する形の中でどういう分野でどういう人口増対策が取れるか、そういった皆さんにお越しいただける環境をどうやって整えるかというそのマッチング、こういったところに向けまして実施計画、来年度以降の予算事業、そういったところに反映させていくという考えでございます。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。そのあたり、ちょっと気になったのでお聞きをいたしました。

それで、続いて、この②のところなんです、10年間で135人の出生数増ということで、ここにも①の転入世帯ということで、これも同居近居の関係で転入されてきた方ベースの一つの考え方なのかなと思ったんですが、ちょっとそのあたり整理をさせていただければと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 これはあくまでもこのほかの考え方、今までは転入によります人口増加、ほかのまちから呼び寄せるといいますか、こちらにお越しいただくと。それから、あとはここにお住まいになっている方々、そういった方が子育て環境の整備をきちんとやることによって、支援を整えていくことによって、安心してこの塩竈市で産み育てられる、そういった事業の展開によりまして、その合計特殊出生率、これを引き上げていこうという考え方でございます。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。①、②、移住定住あるいは実際の出生率の向上というところで2点、ほかに何かあるのかってなかなかこの場で私も持ち合わせていない難しさがあると思うんですけども、こうした2つの対策を今後整えていくに当たって、しならば何が必要なのか、何が求められているのかと。それを、どのようにつかんで今後実施計画なりなんなりそうい

ったところに反映させていくのか、そのお考えがあればちょっとお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 やはり、こういった事業、新しい施策をつくっていくためには様々なご意見は頂戴するということになろうかと思っております。一つは、今回の長期総合計画を策定するに当たりまして令和元年度で住民のアンケート調査、あるいは企業も子育てに全く関係ないとは言えませんのでそういった企業のアンケート、そして何よりもワークショップですね、市民の皆様に公募でお集まりいただく中でのワークショップの中でもいろいろご意見を伺ってきたという経緯がございます。そういった経緯の中で、様々な塩竈市の考え方をお示ししながらご意見を求めていく中で一番いい施策というものを選んでいく、探していくという努力というのがこれから必要かと思っております。具体的にこういう事業だというのがまだお示しする段階にはございませんので大変恐縮でございますが、そういう議論の中でいい施策をどんどんどんどんつくり上げていく、そして皆さんに共感を得ながら塩竈市にお住まいになっていただくような、そういった事業展開を考えていきたいと思っております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。それで、今一連お話をいただいて、いろいろと考えておったんですが、一つばつとこの資料なり今回の考え方を見させていただいたときに、やはり移住定住というところについて、例えば施策の比重といたしますか、そういったところがどういったバランスでお考えなのかなとも思っていたんですが。いわゆる移住、ほかの市町村、ほかのまちから塩竈市にぜひ来ていただくというところについて一つ心配事もありまして、塩竈市だけが決してそういうことをやっているわけではないという中で、単純に人口の奪い合いということになってしまつては、全体で見たときに果たして意味があつたのかということにもなりかねないなとも思っております。あるいは、施策合戦といたしますか、財源競争といたしますか、そういったところにも陥りかねないのかなという心配もありまして、そのあたり、塩竈市としてこういう移住施策をやっていますよと、それは決して塩竈市だけのことではないので、そういった観点で見た場合に最終的には財源の豊かなところが勝つてしまう、一人勝ちになってしまうと、そういったような心配もあつたんですが、そのあたりのお考えがあればお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長　ちょっと国策にもなってくるお話なのかなとお伺いいたしました。やはり、均衡ある国土の発展のためには全地域での人口増、人口の確保というのが必要となっているのが今お話のとおりかなと承りました。ですので、人口の奪い合いという考え方ではなくて、やっぱりそれぞれのまちの中の魅力、それぞれに魅力が違っていると思います。そういう個性というものを輝き出すと。その中で選んでいただけるような、そういったまちを目指すと。奪い合うという表現が好ましいとはちょっと私も思っておりませんので、やっぱり魅力を感じていただけるようなそういった塩竈市にしていくという考え方がまず一つあるんだなと思っております。

それから、全体的な話になりますと、今回の選挙でも新しい内閣もできましたように、子育てのほうにかなり支援をしていく考え方がお示しされています。そういったところにも、国策にこちらも乗れるような、乗っていけるような事業の展開というものをつくり上げていくと。そういう中で、魅力を上げていくと。その中で子育ての支援、安心というものをつくり上げていくと。両方、いろいろな多方面からそういった政策が必要なのかなと思っております。

以上です。

○土見委員長　小高委員。

○小高委員　分かりました。それで、極端な話かも分からないんですが、移住定住の促進というところでほかの自治体の施策なんかも見ておりますと、例えば塩竈市の同居近居のように引っ越してこられたら例えば幾ら幾ら支給されますよとかそういったものもあれば、例えばおうち丸ごと支給するような形なんかもあったりして、なかなかそういったところで、いわゆる移住に伴うインセンティブと言っちゃうと悪いんですけども、そういう施策について実際これは転入増につながっているという側面もあるんだらうと、そこは決して否定をするものでもないし、そういったことを申し上げるつもりもないんですが、やはり塩竈で産み育てたいということでの希望というものをどう増やしていくといたしますか、ぜひ塩竈で長期的な視点で人生の拠点を置きたいということまで含めて、そういったところでの施策展開というのがやはり根本的には必要なのかなと思っておりました。

そういった中で、ちょっと資料No.29を見させていただきますと、例えば1ページのところで本総合計画の組立、構成が載っております。序論を踏まえて、基本構想においてまちづくりの方向性ということで示されております。

それで、12ページ以降のところを見させていただきますと、いわゆる発展のまちづくりの方向性のイメージということで示されているわけでありまして、そういったところで実際の基本構想の中では6ページ以降で施策体系の柱等をお示しいただいたということではありますが、ぜひ塩竈で産み育てると、さらに言うならば先ほど申し上げたとおり長期的な視点で塩竈に人生を置くということについて、一人の人間として人生設計を考えると行ってしまうとあれなんです、その日常生活あるいは出産から子育てと、その中にはもちろん保育もあるし教育もあるし、あるいは働き方、健康、あるいは老後の暮らし、まさに今、目の前にあるコロナ禍のようなあるいは災害のような非常時も含めて、塩竈で生きるんだ、暮らすんだということで、ずっとそれぞれの分野、ステージにおいてイメージできるような施策の示し方というものも必要なのかなと思っておりました。そういった点で、まちづくりの方向性と施策というのが、自分で今後、私が塩竈で文字どおり生きていくんだと、暮らしていくんだと、そのときに、そこにまちづくりあるいはその方向性、施策がどのように関わってくるのかがイメージできることがやっぱり重要なんじゃないかとも思います。まさにそれが一緒になってつくり上げるまちづくりなのかなとも捉えておまして、ぜひそのあたりご留意をいただきたいと思うんですが、そのあたりちょっと、質疑として分かりにくいかもしれませんがお考えをお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 資料No.29の1ページのお話です。

ここの基本構想の中にありますように、分野として8分野、8つの塩竈物語ということで審議会の皆様にお選びいただいた中身です。やっぱり、これらの施策というのが一つ一つがつながっていくということによって、今の委員のおっしゃられた話になるのかなと思います。ただ、実際の事業については、やっぱり緊急性、その時代の流れ、そういったところを見据えた上で、事業というものは予算化したいというか構築されるべきという考えもありますので、その流れによっていろいろとその辺の変化は、こちらのほうも考えていくということになろうかと思っております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。なかなか、みんなで作るというところも今回大きなテーマの一つかなと思って読ませていただいたんですが、じゃあ私が塩竈市で生きる、塩竈市で今後暮ら

すに当たってどのように関わっていくのかと。あるいは、この施策はどのように関わってくるのかというあたりがやはりイメージできないと、なかなかシビックプライドというんでしょうか、何ていうんでしょうか、そのあたりにも結びつかないような話になっちゃうのかなという懸念もあったので、ちょっとそのあたりお伺いをさせていただきました。

それで、資料No.28の4ページのところには、まさに基本理念のところ、今ある個性を大切にしと、先ほど塩竈の魅力ということでお言葉もございましたが、まさにそういったことなんでしょうと思います。今ある個性を大切にし、そしてみんなでつなぎ合わせて新しい魅力をつくり上げていくと、未来に続くまちづくりとうたわれております。そういったところにおいては、やはり一人一人が様々な分野で参画をしていく、あるいは発言をしていく、意見を出していく、そういったことが必要だろうと思いますので、ちょっとそのあたり、今後の展開の中でぜひ捉えてほしいなと思いました。まちづくりの目標とその方向性、この後ろに載っていますが、そのあたり、それに基づく施策の体系等は基本計画のほうで一定詳細出ておりますので、そちらの時間のほうでお伺いしたいと思います。

以上で終わります。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 おはようございます。私からもいろいろ何点かお聞きしたいと思います。

まず初めに、まちづくりの基本理念といたしまして、資料No.28の目指す都市像の部分で、4ページ、5ページに値しますが、今小高委員からもお話ありましたようにまちづくりの基本理念、その中に今ある個性を大切にみんなでつなぎ合わせて新しい魅力をつくり上げていく未来に続くまちづくり、この中にたくさんの要素が含まれているように思われます。その中で、今ある個性を大切にというところが、塩竈市の現状、そしてこれまで先人が築かれてきたこの文化と歴史を大切にしていくという意味合いが含まれていると思います。そこで、お聞きしたいと思いますのが、市民がこのまちを誇りにし、そして歴史、文化を大切にするというその要素といいますかそういった土壌は、今、本当に市民の間の隅々までこれが行き渡っているかどうか、その辺が大変疑問であり心配なわけで、確かにこの言葉の中には今ある個性を大切にというので何となくすっと入ってくる気もしますが、もう一步現状を見たときに、例えば鹽竈神社の社をはじめ、様々な文化、遺跡、私たち市民がもっともっとそれを誇りにしなきゃならない材料はまちにたくさんあるはずなんです、それがもしかして埋もれていて、子供たちにそれが伝わっていなかったり、また私たちも先人にお話をお聞きする機

会が失われていて、市民全体が塩竈市の魅力を本当に心の底から感じ取られているかどうかというのが大変心配でありまして、このことを基にして次の第6次長総に行くときに、これまでの反省を踏まえてこの今の現状、魅力ある塩竈をどのように伝えていくか、まずもってそこからスタートだと思いますので、その辺についてのお考えをお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 今回の都市像というものを審議会の皆様にご決定いただく経過の中で、やはり市民の皆さんはまずどのようにお考えになっているか、思っていच्छるか、この塩竈市のイメージというのがどのような形で心の中に残っているかというアンケート調査というものをさせていただきました。そのアンケート調査の中で、キーワードという形の中で塩竈市の印象を確認をさせていただいております。その結果なんですが、やはり海それから港、社、歴史、これが上位を占めていたということ、こういったところで市民の皆さんの、あとワークショップの中でも、今度は先ほどの個性というのがありましたが、やっぱり楽しみながらこれから塩竈市で暮らしていきたいというものを一つの考え方にいたしまして、そこから海と社、そして楽しいというキーワードにこちらをまとめまして、最終的に審議会で海と社に育まれる楽しい塩竈ということでご答申いただいたという経過でございます。

以上です。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 ありがとうございます。確かに、塩竈市をほかから見たときも一番のイメージはやはり海とかそれからお寿司とかおいしい物、また鹽竈神社には参詣したい、そして松島があって、松島湾の美しさというのはすぐにイメージされるものだと思います。表から見たときの塩竈市のイメージが果たして私たちここに住む塩竈の人たちが本当にそれを誇りに思っていて、いろいろなところに私たちの塩竈はこういうんですよということをきちんと言える住民の方、市民の方がどれだけいるかということも実は心配なわけでありまして、イメージするとそういったことが出てきますけれども、じゃあ実際の生活の中でもしかして市民のほうは、いや坂が多くて道路が狭くてこうでねと、割とイメージがダウンするようなことを私たち、ややもすると口にしてしまうことも多いのではないかと。その中で、せっかくのこの塩竈のよさがかき消されてしまって、私たちの心に残ってしまうんでないかというのが心配があります。このようにアンケートを取ると、確かに塩竈ってこうだよって改めてイメージされると思うんですが、それが日常の中で市民の口から本当に塩竈ってこんなにすばらしい

ところなんだっていうことが常に発信できるような、そういったまちづくりをやはり考えていかなければ、表面だけのパッケージというのは変ですけども、イメージだけで住民が本当にここに暮らしやすいついていうものは持たないと思いますので、ぜひ本当に心からこの塩竈市を誇りに思って、実はうちの塩竈って鹽竈神社が中心にあるけれども、歴史も様々あって、文化もこんなふうにあって、浦戸の寒風沢なんかこんな貴重な島なんだよっていうことが改めて隅々まで分かるようなそういった教育といいますか、そういったものが自然に湧き出るような構想というものを考えながら続けていっていただきたいなと思っております。

この中でもう一点が、やはり未来に続くまちづくりということで、継続だけでなくてここにあるのは恐らくSDGsを基本的に考えて持続可能な開発ということもあって、先ほど人口減少のことも多くありましたけれども、たとえ人口が減っていこうとこのまちに住み続けて持続していく、そしてそれを未来の子供たちにバトンタッチしていくという私たちには使命があると思いますので、そういった意味でこの未来に続くまちづくりって、ここには希望がうたわれているように思うんですが、その辺の考えはどのような考えですか。お聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 やはりこの塩竈市というものが、多くの皆様に育てられてきて、そして私たちがそれを引き継ぎ、そして次の世代が引き継ぐと。その物語はずっと続くんだというところを大きく意識していただいて、こういう言葉を審議会の皆様には選んでいただいたと私は理解してございます。

以上です。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 ありがとうございます。そこで今、まちづくりの目標ですね、次の6ページに当たりますけれども、まちづくりの目標と方向性、8つの分野があってそれぞれ子育て世帯のことがまず大きな取組として、私たちもこれは一番これからの施策の中で重要な分野かなと思っておりますし、またそれぞれの現実的な生活とか産業、当然そういった交流文化についても一つ一つ大切なテーマであります。今回、私も以前に一般質問で第6次長期総合計画に対して当時まだちょっと耳新しかったSDGsについてぜひ第6次長期総合計画を策定するに当たりこのSDGsを一つの物差し、目標として、一緒にその中に取り込んでいってはいかかなということ、以前、何年か前の一般質問でさせていただきましたが、今回、見事に

各分野においてSDGsの17の目標のアイコンは組み込まれていると思いますが、果たしてこのSDGsと今回の第6次長期総合計画、ちょうど目標の年度が、2030年がSDGsの目標の年ですが、塩竈市の第6次長期総合計画の最終年度が2031年、ほぼかぶっている期間であって、まさに世界的な流れ、それから各自治体においても、自分のまちは、国と、世界と国の目標値と、それから自治体独自のその目標値とを掲げて、しっかりと取り組んでいるという流れが今できておりますけれども、本市においてのこのSDGsの取組、取り入れ、そしてこれを目標値とするときの考え方、これはまた審議会の方とはまた別にですね、多分当局のほうでもいろいろ考えていると思うんですが、その辺についての取組、考え方についてお聞かせください。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 今おっしゃったとおり、SDGsの最終年度2030年ということで、ほぼ今回の計画、1年度ずれということになります。今回、SDGsの単なるアイコンを使っているだけではなくて、やはりローカルSDGsの考え方を盛り込みまして、塩竈市としてもSDGsに貢献できる数値とはどういうものがあるかというところの整理も行ってございます。そういった中で、数値もお示ししながら、これをするによってSDGsのこの分野が貢献できるんだという表現をさせていただいておりますので、やる事業がそれぞれがSDGsの何らかに貢献できるような、そういった示し方を工夫させていただいております。

以上です。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 本当にこのことは大変貴重であって、この自治体、まちづくりだけではなくて、塩竈市が持続可能な開発をきちんとやっていくということを表明できることは、これまでの長期総合計画の中で一味も二味も違って、本気になってこの塩竈市の持続可能な開発を市民とともに取り組んで、いろいろなところにこのSDGsの効果が表れている、また目標値に一步でも近づいているということを示すことが、先ほど私が思いました塩竈市に対する誇り、市民の誇りというのはそういったところに生まれてくるのではないかなって考えさせていただきました。そういった意味で、単に国また世界の目標値の17というだけでなく、塩竈市がそのためにどういった事業の中で、例えば子育て支援、先ほどから移住問題とかいろいろございました、その中で子育て支援その一つにとっても国やまた県で決まった事業をそのまま塩竈市が受けるというのではなくて、塩竈市独自の中での子育て支援というのはどうい

ったものかということ、あらゆる、例えば代表の方だけでなく、それこそ今、子育て真っ最中の方たちにいろいろな機会を捉えてお聞きしたり、困っていることをすぐ相談してもらような、今、女性のための窓口つくっていただいています、そういったものも常につながりようなそういったツールから考えていただければ、回答はそこに出てくるのではないかなと思います、その辺についての取組、また感じ方というのをちょっと市長のご意見もお聞きしたいと思いますのでよろしくお願いたします。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 第6次長期総合計画、10年間の策定でございます。ただ、スタート地点があるのも事実でございます、そのスタート地点がどの位置にあるのかということは大変重要だと思っています。じゃあ、子育て支援をするのにどの地点からこの塩竈市はスタートしているのか、それもこれまでの経緯経過も含めて、そこからのスタートで10年後にどういうまちづくりにもっていくか。ただその10年というスパンは僕にとってはやはり相当短いような長いような、長いような短いような気がいたしています。今、住んでいる人たちに満足をしていただければ、またここから出ていかれるだろうという心配もある、将来に対して不安もある、当然なりわいとか住みやすさとかそれぞれが思い描く家庭像をお持ちの皆様方がこの塩竈に来ていただくための様々な事業、または皆さんが思っていたような仕事があるとかですね、住みやすいとか、そういうものを本当につくり出していかないと、間違いなく出ていく人が多いわけですから、その現実をしっかりと我々としては認識をしなきゃいけないというのがスタート地点になるだろうと思っています。この10年の計画の中で、正直申し上げまして、今、これまでの整理をしています。整理と同時に、これまでなし得なかった、なし得ることができなかった事業についての精査、もしくはどうしても遅れてしまった、例えば老朽化した施設に対する修繕とか補修とか、今一生懸命そういうところにも取り組んでいるという事実がございます。それをしっかりとさせていただいた上で、次なるところに進んでいかないといけないというのも、今の偽らざる気持ちでございますので、それと同時にやはり遠い将来に向かってしっかりとした目標の上に立たないと、皆様方に現実だけ押しつけて、塩竈市は将来こうなるというものもきちんと指し示めさないと難しいと思っていますので、その辺のバランスが正直難しいと思いつながら、こういう計画も策定しているというのが事実でございますので、そのことはご理解をいただきながら少しでも希望を持っていただけるような計画になるようにいろいろな方のお知恵を拝借させていただいた、そしてまとめ

ていただいたというのがこの計画になっていると思っております。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 大変ありがとうございました。確かに今、現状、毎日毎日生活しています。生活しているし、いろいろな問題点も毎日毎日起きていると思います。そういったものに取り組みながら、また将来の希望に結びつけるような事業も同時に種をまいていかなきゃならないという、この2つの作業が同時にあるので、当然当局、またこの長期総合計画の中で決まったからこのとおりにいくというわけでは当然ありませんし、そのことをまた市民の皆様にも広く知っていただきながらご協力いただいたり、また様々な企業そして団体の皆様と連携を図りながら、塩竈市だけで進める事業ではございませんので、特にSDGsにおいては各企業、今、取り組みながら、その企業のアピールといいますか、向上するためにもこのSDGsに取り組んでいる企業はたくさんございます。大きい企業も小さい企業も今それに取り組もうとしているところが、いわば体質改善をして、これまで気がつかなかったところを気がつきながら、そして直すところを直しながら、皆さんに貢献できることは何かっていうことを、そろそろ皆さんが目覚めてきたというのは変ですけれども、広くSDGsもだんだん分かってきて、何っていうお声もたくさん出てくるような流れになってきたと思いますね。ですから、そのことに塩竈市もしっかりと乗りながら、全国でも優秀な優れたSDGsのところモデル的なところも宮城県の中においても2市あります、そういったところもしっかりと連携取りながら、図りながらやっていただきたいし、もう一点お願いしたいというか、お考えをお聞きしたかったのは、このSDGsの推進といいますか、先ほど部長がアイコンを置いているだけでないよというお話がありました。この取組の進捗具合を、どこがしっかりとチェックしていく機能があるのか。例えば、東松島市においては、大分前からSDGs推進室という室を設けて、人数は少ないでしょうけれども、SDGsってどういうものかっていうことからまた市民に分かりやすい講演をしたり、吉本興業の、大阪お笑いの方ですけれども、SDGsに関する漫談をやっている方をお呼びして市民に分かりやすく話したりと、こう取り組んでいるわけでありまして、ぜひそのことも塩竈市の中で考えていくとすれば、しっかりとこの10年間で、同じ期間SDGsの最終目標の年と塩竈市がほぼ同時でありますので、その辺の進行具合などチェックしながら行って初めてその効果が出てくるのではないかなと思いますので、その辺についてのお考えをお聞きしたいと思います。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 まさに大切なところだと思っております。私どももやはり持続可能な社会をつくり上げていく、そのための一つの自治体でございますので、しっかりとその責務は果たしていかなきゃいけないと考えています。特に進行管理につきましても、非常に重要だと思っております。ただ、正直申し上げますれば、市役所の今の体制自体がその進行管理に耐えうるだけの組織であるかといったら、残念ながら今その力は持ち合わせておりません。既存の事業の中で、その進行管理をしっかりとすることに実は今注力を置かせていただいております、市長として。そのところをしっかりとさせていただいた上じゃないと、なかなか次の事業、また新しい事業ということについての進行管理がしっかりとできるのか、ただ対策室だけをつくって人を配置してそれで終わりでは結果何もならない現状になりますので、僕とすればこういった目標を掲げさせていただいた以上ですね、今浅野委員からも指摘のあるとおりしっかりと進行管理をさせていただかないとまずいだろうと思っております。数字だけ羅列しても、そこは大変、評価されなければ、市民の方に実感を味わっていただかないとただの計画倒れに終わってしまいますから、そうならないようにするための、今まさに産みの苦しみを味わっているところでございますので、しっかりとした進行管理を、今、やらさせていただいているものをさせていただくことで、次なる、当然並行してやらなきゃいけない、もしくは将来に向かってやらなきゃいけない計画等々もありますので、その体制ができるように、早急にそういった体制ができるようにつくり上げる、もしくは人が足りないときには外部からそういった方を入れてでもですね、しっかりとした進行管理はさせていただきたいと思っておりますので、ぜひいろいろなアイデアとか先行事例の自治体のお話とかですね、どんどん教えていただければ、職員をその場に派遣して勉強させたいとも思っています。そういったことをすることで、ほかの自治体がどのような進捗状況で、例えば長期総合計画なりSDGsに対する取組なりですね、やっておられるのか、やはり目標を見せるということも今非常に重要だと思っておりますので、そういったことも積極的にぜひさせていただきたいので、ご指導いただければと思っております。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 ありがとうございます。大変、市長の心強いというか、決意を伺えまして、本当にこの10年間というのは長いようであつという間の10年間になり、本当に計画の中で何ができたかって最後に指折り数えてしまうような状況でなくて、市民の方たちがその過程の中でも、その10年間生きているその1年1年、1日1日が満足して、塩竈が何か新しいものを作って

いるよねってわくわく感があるのが本当に先ほどの構想にあるように、楽しい、結果がよかったから楽しいのではなくて、そこに向かっていく充実感というか、一緒に歩んでいるということが市民の中に実感として湧いてきたときに、市民の中からの力が2倍にも3倍にも出てくるのではないかと。決してこれは当局、また市長はじめ皆さんが本当に苦しんで苦しんでっていうだけではなくて、この第6次長期総合計画、未来に向かっての希望の計画だと私は思っています。ぜひ、マイナス、人口が減っていく、少子高齢化がある、また福祉が増大する、いろいろなマイナスの要素はたくさんあると思いますが、その上を突き破っていつてこの塩竈に住んでいてよかったと思えるような、住民のそういった満足度を得られるためのこの計画だと思っておりますので、ぜひ楽しい塩竈の実現のために皆さんと一緒に努力していただければと、また私たちも努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

私の質疑はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○土見委員長 ここで暫時休憩いたします。再開は、11時5分、10分間弱の休憩となります。よろしくお願ひいたします。

午前10時55分 休憩

午前11時05分 再開

○土見委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑を続行いたします。伊勢委員。

○伊勢委員 私からも、この理念ですか、都市像についてちょっと関わる質疑をさせていただきます。

そこで、先ほど浅野委員から非常に重要な指摘がされたと私は思っているんですね。進行管理についてどうするかということについて示されて、SDGsとの関連ですね、東松島市等の紹介などもございました。そこで、なかなか厳しいなど、市長の見解をお聞きすると我が市にとっての耐えうる組織としてはなかなか厳しいなど。そして、当然ながら対策室の場合に外部からの人も入れてと、人材も入れてというご発言がございました。そこで、私も関連していろいろ国との関係でちょっと調べてみたんですけども、内閣府で2014年に同じような見解を述べているんですね。やっぱり、こういった総合計画、都市像あるいは町の基本理念、そういうものを実現する上で、やはり総合的な施策推進、それから関係部局との連携、

それから少子化対策がポイントなわけですから関連する予算の起案、あるいは少子化対策に従事する人員の負担をどう解消するかと、この4つくらいが内閣府の中で示されて、こうした理念、方向性をどこで推進、進行管理するのかということが相当、当時の内閣府ですから少しいろいろな形で発展をさせられていると思うんですが、そこも含めて非常に重要な、やっぱり総合計画ですから、実施計画も立てなきゃない、あるいは政策も発展させなきゃない、そうすると今の例えば政策課だけではなかなか大変だと私自身も思うんですよね。そこで、改めて前段の市長の回答を踏まえつつ、今後の進行管理、推進するための進行管理としてどのような考えを今後対処させていくのか、その辺の考え方だけちょっと示してください。

○土見委員長 伊勢委員、まず資料の番号とページをお願いします。

○伊勢委員 28ページの15番の、5万人の将来人口想定を踏まえた形での質疑です。28番、15ページ。

○土見委員長 資料No.28の15ページですね。それでは佐藤市長、お願いいたします。佐藤市長。

○佐藤市長 進行管理という言葉聞いてちょっと反応してしまいましたけれども、今まさに、その進行管理という言葉の持つ重みをかみしめているところでございます。もう皆様ご承知のとおり、塩竈市の長期総合計画は市にとっては最上位の計画になります。これに併せて関係する各部各課、そして全庁を挙げてその進行管理と運営について責任を持たなきゃいけない計画になります。ですから、まずは関係する部局で、この最上位計画に併せた形での進行をどのように進めていくかということも、10年の一つの経緯経過、計画の中で進めなきゃいけない、それを前期後期に分けています、5年、5年。もしくは重大な事案が起きたときにまたそれがスパン的には短くなるかもしれない。そういったことの進行管理を、人事異動もある中でどのように継続をして、担当する部局、それを総合的にマネジメントする担当、こういったものをしっかり置くことが重要だろうと思っています。それが今の市役所にできるかどうかも含めてですね、しっかりと見直さなきゃいけないと感じているところでございます。この計画をつくる、そして今ご審議いただいて皆様方のこれからの議論の中身によってまた改善するところは改善をさせていただく、どのように進めていくかということになりますので、進めていくときにやはりしっかりしたものを皆様方にも当然この計画に沿ってこういうふうに進めていると。さきの議会でも伊藤議員からもご指摘があってですね、1つの案件についてやはり反省をさせられるところがありました。こういった一つ一つの流れを当然しっかり踏まえた上で、市役所としての進行管理、流れ、動き、時の状況に合わせた形の変

化、こういったものを適時的確に担当職員が変わったとしても継続をして進めることができるような組織運営をつくるということは、口で言うのは簡単ですが実際にやるのはむずかしいとも理解しています。ですから、議会の皆様方にもぜひですね、そういった視点からも私ども執行部に対する厳しい目線で、指摘で、改善するための様々なご指摘もいただきたいと考えているところでございます。今までの反省としては、例えば何か公園を造る、一つのものをつくるにしても、市役所が公園にはブランコが必要だ、滑り台が必要だ、そういう固定概念だけで造り上げて市民の方に提供させていただいていたというのが、分かりやすく言うことが多いと思います。ただこれからは、本当に市民の人が何を望んで、公園に何が必要かっていうことをまずはしっかりお聞きさせていただくことが重要だろうと、今さらながら感じておりますので、計画も一緒でございますね、ですから今回の審議の先生方にいろいろ、若い人も含めてご指示、ご指導いただいてこのような形の計画が出来上がりましたので、この計画をしっかりと生かすというのが我々の責務になってきます。進行管理も含めて、人事の配置も含めて、しっかりとこれから取り組まさせていく体制を、並行してつくり上げていきたいと思っておりますので、そのような考えで先ほどの進行管理のご答弁もさせていただいたということをご理解いただきたいと思います。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。そこで、資料に沿って質疑をさせていただきます。主に使うのは28番ですね。それで、先ほど6ページのところでまちづくりの目標と方向性ということで分野は8分野になっています。そこで、最初の7ページのところで、まちづくりの方向性というものが示されておって、(1)施策の柱ということで、妊娠から子育てまでの切れ目のない支援体制の構築ということになっております。その①のところ、とりわけ今年度新しく創設された子育て世代包括支援センターが中心と、関連機関とのつながり云々ということで、様々な、安心して妊娠・出産・子育てができるようなそういったものをということで示されております。資料をちょっと見ますと、資料の該当する1ページのところで具体的な事業がどのようになってきたのかというのはこれで分かりました。1ページ見ますと、妊婦さんから乳幼児、児童も含めて下のほうで1,588人くらいの方々の様々な支援をやっているというのはこれで理解ができました。そこで確認をしたいんですが、このセンターについて、子育て世代包括支援センター、新たに創設されたこの目的、役割について、どのような捉え方でいけばいいのか、ちょっと確認をさせていただきたいと思っております。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 子育て世代包括支援センターの目的につきましてご質問をいただきました。

4月に壺番館の1階に塩竈市子育て世代包括支援センターを立ち上げたところでございます。通称にこサポと言われているところでして、妊娠期から子育て期までの母子保健などを実施しているところでございます。こちらの事業としましては、実際様々な、妊娠したときから悩み、あるいは相談したい点とか様々あったところでございますので、そういった部分を一括で全てを、妊娠したときから全てをこちらで一括で支援していくと。そういったことによりまして、お母さんあるいは子育てしている親御さんが安心して子育てをする部分の支援をしていくといった内容でございます。事業の中身につきましては、こちらのほうに書いている内容でございますが、新たな事業も含めまして安心して子育てをしていただくというのが大きな目的でございます。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 一つの中核といいますか、子育て支援のための中核になる施設だなと捉えました。

そこで、もう一つ子育て支援にとって非常に大事なところでいいますと、私たちも少し国のほうの関係機関のところで勉強させてもらったわけですが、特に周産期医療というものが非常に重要だと。特に、妊娠から出産に至るまでの関係で周産期医療というのが欠くべからざるやっぱり取組になっていくだろうと思うんですね。ただ、周産期医療は宮城県内でいうと8つくらいですかね、何かいろいろ調べてみると、公共のものはね、大体そんな感じのようですけども。塩竈市としてその周産期医療についての対応と、安心して妊娠・出産を迎える上でそうした周産期医療というのはどのような形で塩竈市は現状なっているのかちょっと確認だけさせてください。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 周産期医療につきましてご質問いただきました。

ただいま質問あったとおり、県内では周産期医療の医療機関がほぼ仙台市に集中していて、約6つの医療機関があるところでございます。二市三町あるいは塩竈市内には周産期医療と言われている機能のある医療機関はございません。ただ一方、その周産期医療につきまして、これまでお子さんを妊娠、出産するときに、一般的には医療機関、産婦人科関係が多分、塩竈市の妊娠した方につきましては行っている……、ただ、産婦人科の中でも2つ実は

機関が分れていまして婦人科と産科ということになっていますが、そういった医療機関の中の、特にですね、妊娠して出産するまでを特化してサポートしていく、そういった医療機関が周産期医療ということになりまして、難しい出産等も含めましてサポートしているというのが今の現状ということになります。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。現状はなかなかそういうものがない、ただ婦人科等々、2つあると、産婦人科と婦人科、分かりました。これは非常に大事な案件で、子育て支援の上でもやっぱり周産期医療というのを一つ視野に入れていただいて、これはやっぱりなかなか、県も絡む話なので、我が市だけでは一概にすぐ解決するとはちょっと思われませんが、大事なところで、やっぱり子供さんを安心して妊娠して産み、育てていくということも含めて、ぜひ、その辺などもぜひ今後対処方よろしくお願いをしたいと。そして、やっぱり理念の中にぜひ組み込んでいただくような形になればいいなと私自身は思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、同じ7ページのところで②ですね、保育サービスをはじめ子育て支援の充実云々と、私はそのとおりだと思います。改めて、そういった子育て支援についての大事なテーマをここに掲げられております。ただ、やはり政府、内閣府の中での関係でいうと待機児童の解消というのは一つの課題になっているようですね、国としても。もちろん、我が市の場合も同様で、そうすると今回のまちづくりの方向性の関係で、保育サービスを充実させる、支援を充実させるというのはそのとおりなんですけど、現実資料なんかを見ると、1ページ、2ページですか、例えば2ページのところで、資料の5番のところですかね、受入れ体制はあるけれども待機児童なんか書かれていて、待機児童ですね、10名規模なのかな、待機、大体ここ数年ですね、そういう状況が見受けられています。そうすると、どっちが先かということなんですけれどもね、保育施設をさらに今後理念的に増やしていくのか、あるいは方向づけとしてこれを解消するということがまちづくりとの絡みでセットになると思うんですが、その辺の捉え方だけちょっと教えていただければと思います。

○土見委員長 すみません、伊勢委員に申し上げます。本日は基本構想の話ですので、そこまでくると基本計画に入ってしまうので、そこをご留意いただいて、質疑をお願いいたします。それでは、ご答弁をお願いいたします。小林部長。

○小林健康福祉部長 ただいま、待機児童の件、ご質疑いただきました。

待機児童、いろいろな原因でというお話になると思うんですけども、施設の受入れ体制、あるいは保育士の人員不足等あるところがございます。ただ、この基本構想にあるとおり、やはり子育てしやすい環境づくりという部分では保育所の待機児童のゼロを目指すというのが私たちの基本的な考え方だと思っております。そのためにどのように対策をしていくのかがってというのは今担当課のほうでも考えているところがございますが、やはりおっしゃるとおり、施設の在り方あるいは見直し等につきましても今後考えていくというのが、今現在考えているというのが現状でございます。

以上でございます。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 補足をいただきます。もう議員の皆様方ご承知のとおりでございますが、今後保育の在り方については、今すぐどうのこうのではなくて、方向性とすればやはり民間の方々に中心になって保育施設を運営していただく、造っていただくということは紛れもない事実かと思えます。私どもが造らせていただいてもやはり国の補助メニューはございませんので、独自の支出ということになってまいります。ただ、一方で言えることは、現状を見たときに、もう皆様ご承知のとおり、香津町、清水沢、今東部保育所を1億円かけて改修させていただいておりますけれども、老朽化した施設、この在り方についてやはり真剣に今、市役所として反省をしながら、次どういう対応をさせていただくか考えています。それと同時に、東部保育所も今後、今、改修をさせていただいていますから、改修した後およそ25年建物がもつと言われておりますので、当然民間の方々に公設民営なのかどうなのか、これは議論をまたぐところがございますけれども、やはり民間の方に委託をしていく方向性で持っていくのが普通の今の世の中の流れだろうと考えています。ですから、香津町にしても清水沢にしても昭和50年代にできた建物でございますが、子供がかawaiiそうなくらいひど過ぎる状況の中で、今、保育の職員の皆さんに頑張って子供さん方を育てていただいています。そのことを冷静に受け止めながらも、やはり私としては様々な人脈を通じて、民間、しっかりしたところにやはり運営形態、もしくは村井知事もこれからは子育てに力を入れていくと、いろいろな形で子育てもしくは一時預かり所みたいなところを補助金を出しながらも造っていくと宣言をされておりますので、私としては塩竈市に進出している企業やこれから進出する企業もしくは施設等々について積極的に働きかけをして、保育施設を造っていただけないか、もしくは

今ある塩竈の公共の保育所についても受け入れてもらえるような話を、拙速ではなくて、今後のことも見据えながら対応を考えたいと思っておりますので、そういった方向性の中で進めさせていただきたいと。ただ、拙速にやる話ではございません。しっかりと、議会の皆様と市民の方々にご説明をさせていただきながら、その方向性をお示しをさせていただいて、理想どおり行くかどうかはこれは分かりませんが、しっかりと目標を持って進めていく強い決意を持っております。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 じゃあ、その点を今後の議論の、次期計画の中でさらに深めていければよろしいのかなと思います。

そこで、資料のところでは人口の減少対策と人口動向ということで、長期総合計画特別委員会資料の21ページのところに載っております。前段、小高委員からも様々議論がされましたので重複は避けますが、今回例えば上の、21ページの表で見ると、下のほうがいいのか、つまり令和2年の対策後の①合計特殊出生率比較でいうと、令和2年度で1.24、そして令和13年度で1.61と、こうあるんですね。かなりこれ、私的には非常にハードルが高いかなとちょっと思うところなんです。今回、全体の10年計画を示されておりますので、21ページのところで示されたここら辺の捉え方、人口想定は5万人ということですので、これは議論はこれ以上避けますが、合計特殊出生率の関係でいうと一つハードル高い案件ではないのかと、これをどう掲げて理念上も示したのか、ちょっとその辺の考えだけお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 合計特殊出生率につきましては、まずは国の考え方、そういったものも参考にさせていただきながら審議会の皆様にご提示をさせていただいたと、まず大きな経緯があります。そういうご議論の中で、20ページにもありますけれども、②のほうで10年間で135人を増やしていくんだという数値をまず大きく目指していきたくところになります。確かに、数字的には委員の皆様からもかなり果敢なる挑戦的なような話、果敢なる評価だということもいただいておりますので、こういったところをやっぱり積極的にこれからの施策の中に盛り込んで、これを目指すという数字にしてございます。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 そうすると、先ほどの例えば年間30世帯、105人ですか、20ページのところね、あるいはその②のところの令和13年度までの10年間で135人の出生増を目指す。これがこちらのほうの合計特殊出生率の下段の表の1.64ということで、両方つながっていくのかちょっと違うのか、教えてください。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 それでは、長期総合計画特別委員会資料20ページのほうでご説明申し上げます。大きな3番、①②とございますが、一つは①のほうがいわゆる社会増減という捉え方でいただければ分かりやすいかなと思います。できれば転出を抑えるために転入を多くしたいというために、子育て世代の皆様はこちらにお越しいただく、そういう施策を展開するんだという考え方。②は、こちらは塩竈市の市民の方がここで産み育てるという考え方、いわゆる自然増というところを目指すというところの内容にしてございます。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 ちょっとその辺がよく分からなかったので、確認、お聞きしたわけ。そうすると、30年間で105人というのは転入ということを前提にこういった増加を目指すんですよということで捉えていけばいいということですね、分かりました。

そこで、全体としてはかなり果敢な挑戦をやはりするんだなと思いますので、今後いろいろな施策をぜひやっていただきたい。ただ、最近の国の動向で見ると結婚出産も晩婚化が多いとちょっとお聞きしているのね。総括質疑でもちょっと触れたような気がするんですけども、30代以降の方々の出産、第2子、第3子方が多くなってきているということもありますので、今後の施策、そうなっちゃうと具体論に入っちゃうので、その辺の捉え方だけ、それでいいのかどうか、ちょっと確認だけさせてください。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 今のお話はそのとおりでございまして、まず結婚する年齢そのものがやっぱりだんだん遅くなってきている、それに伴って出産のほうの年齢も平均の年齢がだんだん増えてきているという実情にございます。こういった実情を捉まえながら、次の施策をどうするべきかということは実施計画の中でいろいろ整理していきたいと思います。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。そちらも含めて、そのように捉えているというのは確認をしましたのでそれで終わらせていただきます。

次に、次のページですね、資料No.でいうと28のところの10ページのところですか、まちづくりの方向性ということで、ちょっと改めて読まさせていただきました。それで、失礼、8ページですね、失礼、ごめんなさい。そこで、この8ページのところですね、私、ちょっと気になる場所があって、特に資料でいうと資料のほうにも、独り世帯の増加が顕著だというのがたしか示されていたと思うんですね。人口増加策の関係で、お独り暮らしの方も含めてその人口の……4ページのところで、平成23年度ざっと3,000世帯が、今、令和2年度で4,200世帯と、非常に独り世帯の方々が増えている。そこで、それはそういう傾向が見受けられるということで捉えました。そこで、やはり、今回のまちづくりの関係で、そうした独り世帯の方々への支援というのは欠くことができないなと思ったんですね。そうすると、そういった社会的孤立を防ぐための例えばやり方として、介護と医療の連携というのが欠くことができないとどこかでこの項目でも触れられていますが、その辺はどのように今後理念上生かしていくのか、その辺だけちょっと示していただければと思います。

○土見委員長 小林部長。

○小林健康福祉部長 まず、ご質疑いただきました独り暮らしが増えているといった部分です。こちらのほうに記載のとおり、今後方向性としましては、健康増進あるいは健康寿命の延伸による元気高齢者をいかに創出していくのかといったことが本当にこれからの10年での課題かなと考えているところでございます。逆に、このためにどのような事業を展開していくのかといったところでございますが、やはり介護に落ちる前に、元気高齢者を、多くの方々が元気でこの地域で暮らせるような取組をしていく必要があるといったところでして、まさに健康と介護が連携しながら、介護予防に積極的に取り組んでいくといった事業を展開していくという形で考えているところでございます。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 これは一つ大事なポイントなのかなと改めてつくづく考えさせられましたので、ぜひ社会的孤立にならない様々な対応方をよろしくをお願いをしたいと思います。細目に入っちゃうと今度実施計画上の議論になっちゃいますので、それはそれで終わります。

次に、3のところで、快適に住み続けられる町ということで考え方が示されております。そ

こで、(2)のコンパクトで生活充実が云々と書かれていまして、下のほうに④、塩竈市としては非常に恵まれた交通環境、様々な交通機関が行き交う駅の強化、各交通機関の連携強化に努めると。これ、どういうことを意味さすのか、ちょっと確認させてください。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 ここは塩竈市の特性であつたりとか、あとはいろいろな環境の特性をちょっと網羅させていただいたと。もともと塩竈は仙台市という大きな都市の近郊であると。それから非常にコンパクトなシティとしての利便性も高いと、そういう強み。それから、その中でも特に特色ある中身としてその食・自然・歴史・文化というところを併せ持った中で塩竈市のいろいろな施策を検討していく考え方、そういう中での一つという捉え方にさせていただいているというものです。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 これはまちづくりにとって大事なポイントですので、あとはこれ以上重複避けますので、今後もさらに議論は深めていきたいなと思います。

それから、10ページのところで、若者も満足する雇用の創出というところが、たしか触れていたような気がするんですね。(3)のところで、港を生かした活力云々と。そして若者も満足できる雇用。これも大事な定住にとっては一つのやっぱり大事なポイントだと思うんですが、そこも踏まえて理念の中で2点掲げられていると。海辺の空間の一体的な活用、そして塩釜港区、港湾機能でしょうね、これを生かした云々と、あとは地域の雇用環境の整備、若者の魅力と、この辺は理念上の考え方ですから、一応理念としてこういうものも掲げますよということですけども、これもこういったものが審議会で示された中でどのように捉えていけばいいのか、確認だけさせてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 まさにこのあたりは、塩竈市の特色を表しているんだろうなと考えております。やはり、海辺の空間という非常に魅力ある空間を、そういった意味では活力に満ちた産業づくりという中でどのように活用していくかということから出てきたのがこういった特性を生かしながら、やはり若者の満足できる雇用環境にもつなげていかなければならないですし、あとやはり塩竈市の港湾機能を生かして港町としての魅力もさらに高めていかなければならないんだろうなと。そういったところからこういった文言をつくらせていただい

るところでございますし、こういったものをベースにやはりこれから計画の分野、実施計画の中で施策を組み立てていかなければならないと考えております。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。やっぱり若者が地元で働くような形態というか、産業というようなね、なかなかうまく現時点で成功はしていないと私の捉え方はそう思うんですね。例えば塩釜高校の皆さんが仙台に行っちゃうとかね。やっぱり地元の雇用にまだまだつながらないけれども、やっぱりそこは魅力ある、前段の議論があるように、やはり地元の企業の皆様と若者がいつでも働ける環境づくりを、ぜひ理念も生かしながら、今後進めていただければなお幸いかなと思います。

それから、次の11ページのところで観光、これも一つのストーリー性なんでしょうね。やはり塩竈のまちの一つのメニュー、観光メニュー、地元にとってはやはり塩竈のよさをどう生かすかということになるかと思えます。先ほど、鹽竈神社とかあるいは社、海、港、こういうものが一つのポイントになるよという話はされていたと思えます。そこで、新たな展開として、(1)の地域資源を最大限活用した観光メニューの創出の②鹽竈神社と門前地区等々ですね、こういったものが改めて示されていますが、これも長期総合計画との関係でこういったことを示されましたので、そこも含めて今後どのようなストーリー性を持たせていくのか、その辺だけ確認させてください。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 もうここに記載をさせていただいた地域、地区については、非常に塩竈にとって今後観光という一つの目的に向かっていった場合に大事なエリアだと思っております。特に、単純に鹽竈神社、陸奥国一之宮でございます。最盛期には220万人以上の方々においでをいただいたと。ただ、昔から指摘されているのはご参拝に来られた方が下りてきてなかなかやはり商店街に足を運んでいただけないような地域的な特性があると、地区的なですね、地形的な。そういったことが指摘されて久しいわけです。そんな中にあっても、今本町地区を中心に個々の皆さんが努力をしていただいて、新たな人が並ぶようなコーヒーショップだったり、ジェラート屋さんだったり、チョコレート屋さんだったり、本当に努力をしていただいていると思っております。どうやったら神社に来られた皆さんが塩竈市内を歩いていただけるようになるか、まさに大きな、門前町地区をどのように作り上げていくかということは非常に重要な視点だと考えておりますので、全国の門前町を見ていただければもう皆さんもお分か

りだと思えます。全然違いますよね。ですからその問題を根本的に解決しなきゃどうしようもないなと考えています。10年でできるか分かりませんが、今道路も含めてこの一帯の在り方について、実は昨日も国土交通省の道路の所長さんたちとも議論をさせていただきましたが、ぜひ積極的に陸奥国一之宮を形成をする門前町をしっかりとつくり上げていく、それが中心市街地、中心地をまた再び活気のある地区に持っていくためのスタートになるだろうと考えておりますので、全力を挙げたいと思えます。それと同時に、ここに記載していますベイエリアとマリゲート、市場、浦戸、今一つずつではございますけれども、動き始めております。こういった種をしっかりと植えさせていただくことを、この計画の中でお示しをさせていただいて、そこからどのような芽が育つのか、どのような形に10年後に持っていけるのか、しっかりと見定めた上で、全力を挙げてこの10年間の間に一つの流れというものをお示しできるようにさせていただきたいと考えております。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 様々、現段階での努力も生かせればなと思えます。分かりました。

そこで、13ページ、これで大体終わるかなと思うんですが、様々な個性がつながる役割を發揮できる環境づくりと、その中で（2）大学と企業の交流・連携・共創というのが初めて触れたような気もするんですが、改めてこれらは今後、こういったものが理念なり都市像をつくる上でどのようにマッチングしていくのか、その辺だけ教えてください。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 まちづくりというのがずっと継続して続いていくという中で、やはり民間の皆様、あるいは有識者、学識者の皆様のお力添えというのがぜひとも必要になってまいります。そういう意味で今後のまちづくりにあっては行政、議会、それから市民だけではなく、様々なそういった手法を活用して、大きなまちづくりを進めていくという考えの下に、こういった協力をしながら皆さんと一緒にまちづくりを進めるような内容に、今回の内容についてはまとめさせていただいたというものでございます。

以上です。

○土見委員長 ほかに。阿部委員。

○阿部（眞）委員 資料No.1番のところからまず質疑させていただきたいと思えます。

私も何度か足を運んでオブザーブさせていただいておりましたので、中身というところは非常に若い方からもご意見が活発的に出ていた会だなと思っております、決して定められた

ことを「はい、そうですね」と言っているだけではなくて、どんどん意見を抽出して、それを反映させていただいているという内容だなということは重々理解をさせていただいておりますので、それも踏まえてご質疑等させていただけたらと思います。

資料No.1 番の第6次長期総合計画の基本構想素案……、違いますか、これ、違うんですって。じゃあ、それも踏まえてちょっとご質疑させていただきたいんですが、じゃあ、根本的になんですけれども、何回か集まってお話をされていたということで10年計画になるかと思われまますけれども、この10年計画の在り方で、中身を見ると社会的に何か情勢の変化があった際には修正を加えるということでは書いてありますけれども、例えばですけれども、こういうコロナとか東日本大震災とかそういうことなんだろうなどは理解はしておりますが、10年という中で、じゃあ10年前にSDGsだったりとかDXとかそういうものはもちろん予測ができなかったことがすごいスピードで新しく出てきたときに、この10年計画というところの中に、例えば7年目、8年目にそういうものが登場した際に果たして対応できるのかというのが少し不安なところがあるんですけれども、この10年計画の中でその対応と、社会的にすさまじくスピードが、いろいろなものが入ってくる中での対応はどのようにお考えなのか、まず教えていただけますか。

○土見委員長 佐藤政策調整監兼政策課長。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 お答えさせていただきます。

お手元にお配りしております資料No.の29、こちらの3ページをご覧くださいと存じます。

こちらに、計画の構成ということで記載をさせていただいております。下の図をご覧くださいと存じますが、図1として総合計画の構成と期間ということになっています。今回の長期総合計画につきましては、3層構造という形にいたしまして、本日ご議論いただいております基本構想が一番上に、そしてその下に後段ご議論いただきます基本計画、そしてさらには実施計画ということで、現在の第5次長期総合計画と同じ階層建てになっているという状況になります。その下に、この10年間の考え方ということで記載をさせていただいたところがございます。基本構想につきましては、10年間の流れということになります。ただし、ご議論の中で、やはり今ご指摘いただいたようなやっぱり世の中の流れというのがとても早いということもありますので、第5次長期総合計画では基本計画も同じ10年というスパンで組み立てさせていただきましたが、今回の第6次につきましては基本計画を前期5年、あと後期5年と5年ずつに分けさせていただいているということです。さらに、今ご指摘いただ

きましたように社会情勢等によって大きな変化があった場合、こちらにつきましてはその基本計画の部分で修正というのをちょっと念頭に置きながら進めていこうとは考えているところです。基本構想といった部分につきましては、ただいまご議論いただいておりますようなまちづくりの基本的な目標であったり人口であったりという大きな幹の部分を決めさせていただくという内容になります。ですから、今ご指摘をいただいたような社会情勢の変化の取り込み、こういったところは基本計画のほうで少し対応させていただきながら柔軟に考えさせていただければと、そのような余地は残しておるという形でご理解いただければと存じます。

以上でございます。

○土見委員長 阿部委員。

○阿部（眞）委員 ありがとうございます。その際には、今までのメンバーさんがそのまま継続してこの10年間に携わっていくのか。それとも急遽、新しく人をまた集めてそれを見ていくのかというところではどういうお考えなのか教えていただけますか。

○土見委員長 佐藤課長。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 先ほど、市長からのご答弁で進行管理という言葉が出たところでございますが、私どもといたしましては今回携わっていただいた審議会の皆様、これは第5次長期総合計画でもそうでしたが、やはり進路の、どういう進み具合をしているかという進行管理の一部になるかと思いますが、進路の報告会というのを例年行っております。今回につきましてもやはり、組み立てていただいた皆様には我々がどういう取組をその後しているかというところをつぶさにご報告をさせていただくような機会というのを、継続的にはつくっていかねばならないだろうと考えてございます。基本的に、今のところは同じメンバーでお集まりいただくようなことは考えてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○土見委員長 阿部委員。

○阿部（眞）委員 了解しました。40歳で参加されている方は、10年後50歳ですし、20歳で参加されている方は30歳ですし、そういう中では新しくまた入って行く環境というものもお考えになっていたほうがよろしいのかなというところだけはちょっとご意見させていただけたらなと思います。非常に若い方たち本当にご意見、すごい意見出ておりましたので、そう

いうのも、この絵とかのものを見ると多分若い方たちから出ているんだろうなというのも非常に多く見られますので、そういうところをぜひ参考までにしていただけたらなと思います。

そこでなんですけれども、10年計画、なぜそういうことを言うかという点ですね、浅野委員からもあったようにSDGsが立ち上がった際に東松島市が手を挙げて、まず認定のまちということで、国からたしか、忘れましたが最初の初年度でたしか5億円くらいの補助がでるような形の補助金だったと思います、SDGs認定都市になると。そういうところで、じゃあ塩竈市、これSDGsって2030年までというところを考えればちょうどよいような感覚ではあるんですけれども、やはりそういうときに柔軟に対応できないなと思うんですね。私もSDGsでアマモの再生プロジェクト、海を守るっていうこと、14番でいいんじゃないかって当時の市長にも言いましたけれども、そういう際にSDGsというところではその時の第5次長期総合計画に入っていないというところもあってか反応が非常に悪かったというところもあるので、その新しい何か取組があった際に非常に動きにくいものであってはならないと思いますので、そこも踏まえて今後見ていっていただきたいと思いますが、いかがお考えか教えていただけますか。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 もちろん、そういう新しい時代の潮流というのはどんどん動いている、技術革新もどんどん進んでいます。そういった考えというのは長期総合計画で固められた中身ということではなくて、時代の潮流をきちんと捉まえて、やっぱり次の世代、次の物語をつくっていくという計画でありますので、そういった新しいものとそれからマッチングしたその施策というものの展開をやっぱり進めていくということは、これは変わらないと思っております。

○土見委員長 阿部委員。

○阿部（眞）委員 中身を見ると非常に幅広く、広く捉えている部分が多くあります。塩竈市のちょっとしたところまで目を配っているような中身でもあると思いますので、何かあった際にはそういうひもづけして捉えられる中身だと思いますので、ぜひ新しいものをキャッチして、じゃあ第6次長期総合計画どうなんだというところを常に気を配っていただけるような形をやはり職員の皆様で考えていただければなと思っております。よろしく申し上げます。

そこでなんですけれども、SDGsのことはよく分かります。非常に入っらっしゃるというのは分かるんですが、例えばその他として、例えば女性の社会進出だったりとか、障害者

の方の雇用のパーセンテージ何パーセントにしましょうとか、国で定められているものというのいろいろあると思うんですけれども、今、新しいものなのかSDGsに非常にここは特化をされていますけれども、その他のそういう数値というのが見えていないなど。今まで既存であったものもやはり塩竈市はどうなのというところを、やっぱり何パーセントまで上げていくというか、国が定めている目標に向かっていくというところが非常にちょっと見えにくいなと思っているんですけれども、そういうものは今後どのように数値を上げていくか、追加できるものかどうか分かりませんが、そういうお考えというのはどうなのか教えてくださいいただけますか。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 SDGsのように非常に全庁的に、全国、世界にわたるものというのはいちいちちゃんと長期総合計画に盛り込むという考え方は大きく必要かなと思います。あと、例えば、男女の共同参画でありますとか、一部個別になる、個別計画に内容が落とされるようなもの、こういったものは既に国の指導もありますけれども、個別計画として策定していくという内容になります。例えば、今、男女共同参画の第2期分を今策定中であります。そういったものを長期総合計画に合わせる形で期間も同じように設定し、そしてこの動きに合わせて新しい感覚、新しい考えの下、そういったものの計画も併せて今同時に動いているというものもございます。以上です。

○土見委員長 阿部委員。

○阿部（眞）委員 かしこまりました。ありがとうございます。

それと、この中身を見ると、市役所としてやるSDGsの中身だなというところは重々理解はしているんですが、まち全体を考えたときに、例えば企業でこの17項目を達成するために一つ一つやられている企業や指針を立てている企業がいらっしゃるんですけれども、今後やっぱりそういうところも市の一部と、一体となってという考え方をすれば、もっと幅を広く、こういうことも、この企業が達成しているのなら市も例えば支援をして、一緒に達成できたものだっていう形の考え方というものもあると思うんですよ。そういう企業が、ちょっと市内ではないですけども、例えば……病院さんだったりとか大きな大手の自動車会社さんだったりとか、そういった立てているのをやはりしっかりと学んで、各企業で落とし込んでやっていらっしゃる企業って市内に多数ございますので、そういったところの連携というところも必要かと思うんですけれども、そういう考えがあるか教えてくださいいただけますか。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 SDGsの考え方というのは、まず広く周知する、浸透させるということが非常に大事かと思います。企業に関しましては、地元の企業さん、大きなところもあれば非常に小さいところもあるということでありますので、SDGsをこちらで周知活動をする、積極的にまずやりながら、そしてSDGsに関しての取組、そういったもの例えばですがアンケート調査を継続的に行うとか、そういう中で企業さんの動き、そういったものをキャッチングしながら次の施策につなげていくというふうにしていきたいと思います。

以上です。

○土見委員長 阿部委員。

○阿部（眞）委員 ぜひ、SDGsをまず広めるという荒井部長の話もありましたので、子供たちのところから教育の部分も含めてですけれども、例えば水道の蛇口を止める、使うときだけひねるといったところだけでもSDGsだと先日吉本興業の芸人が言っておりましたので、私も講演を聞いてきましたけれども、ちょっとしたことが実はSDGsにつながっているんだよというところからのスタートところではいろいろな、先ほど浅野委員からもありましたけれどもやり方があるなと私も思っております。まず広く広めていくことで、その中でこれが実は第6次長期総合計画に携わっているんだということをやっぱり市民に伝えていくということが、郷土愛の醸成だったり、シビックプライドの醸成につながっていくんだと思いますので、ぜひ市民みんなで作くり上げた第6次長期総合計画だと思っておりますので、これが10年後達成できることを祈念して私の質疑を終わりたいと思います。

以上でございます。

○土見委員長 それでは、暫時休憩いたします。再開は、午後1時といたします。

午前11時55分 休憩

午後1時00分 再開

○小高副委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

基本構想についての質疑を続行いたします。なお改めて、質疑の際には資料No.及び該当ページをお示しの上、ご発言くださるようお願いいたします。

それでは、質疑を再開いたします。志賀委員。

○志賀委員 私からは資料No.28の7ページからですね、8つの分野について一つ一つお聞きした

いと思います。

まず、妊娠から子育てまで切れ目のない支援体制の構築というところで、安心して妊娠・出産・子育てができるまちをつくりたいとあるわけですが、藤倉にあった産婦人科が産院をやめた。年間大体300人くらい取り上げていたということらしいんですが。それで、現在残っている産院さんで、塩竈市内の新生児を取り上げるのに十分な能力があるのか、ないのか、ちょっとその辺の現状をお聞きして、それと将来的に、産科というのは非常にリスクの高い医療になっちゃったんですね、ちょこちょこ訴訟問題が起きているということもあります。そういったところでなかなか、そういふを目指すのは結構なんですけど、環境的に難しい状況になりつつあるのかなと。そういった中で、こういったものを確保するためには、どういうことを、手だてを考えていかなければいけないかというところを考えていらっしゃるのか、いらっしゃらないのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○小高副委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 志賀委員からは、市内の産科の状況ということと、あと今後の対策というご質問をいただきました。

今現在は、市内で出産できる病院というのは坂病院、あるいは大井産婦人科、あとは遠藤マタニティーが多賀城のほうと連携を図りながらということで出産できる体制が取られている状況でございます。ただ、一方、午前中もお答えしたところなんですけど周産期医療という部分がありまして、なかなか出産が難しい方、これが仙台市に集中しているという状況もございます。そういったリスクのある方はこちらの仙台市の周産期ということになると思うんですが、なかなか現状ではその周産期関連の病院が、塩竈市あるいは二市三町に来るのかというところと厳しい状況ではないのかなと捉えているところがございます。今後とも、県とも連絡を取りながら今後の動き等を図りながら情報提供していきながら、少しでも多くの方がこの地域で出産できるような体制づくりというのは進めていきたいとは考えております。

以上です。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 厳しいということは捉えていらっしゃる。そうすると、捉えているのであれば今のうちからどういうことができるのかなと、どういう対策が立てられるのかなと、起こってからではなくて今のうちに考えておかないと、結局泥縄式で間に合わない。そうすると、実際に効果が、こういうことを上げて、ただの空念仏に終わってしまいかねないというこ

とがあるので。というのは今まで私がこの10年間見ている、ずっとその繰り返しの繰り返しですね。空念仏上げて、結局十分な対策を立てられないまま過ぎてきていると。それで、やれることは、国から来た予算がついたときだけやって、自主財源ではほとんど事業らしい事業が行われてこなかったというところに起因して、こういった塩竈市の人口減、自然減ということが大きくなっているのかなど。それはたしかに人口構造という問題もあるんでしょうけれども、我々議員、いろいろなところに視察に行って、定住人口促進に成功している自治体もあるわけですね。これはかえって村とか町のほうが成功しているんですね。だけどやっぱり、それなりの自主財源での努力をしているということも分かっているわけですし、やはりそういった自治体のどういうことに取り組んでそれが成功しているのかということ、やはり市の担当の方はきちんと勉強していただいて、そしてやはり塩竈市自体での自主財源でできる施策を考えていかないと、なかなか自治体間の競争には勝てていけないのかなど。やっぱり、今のところとにかく、先ほども市民総務部長おっしゃいましたけれども、結局人の取り合いになっているんですけれども、それはそこに勝たないと明日がないわけですよ。ですから、そのためにはどうしたらいいかと。そうすると、棚ぼた式に国の補助金が下りるのを待っていたのでは、それはかなわない。もっと自分たちで積極的にどうあるべきかということ、やっぱり市の職員の方々に考えていただいて、ぜひ今までにない施策というものを、せつかくこういう長期計画を出すんですから、実現はすぐできなくても目標として掲げて、我々に示していただきたいと思うわけですがいかがでしょうか。

○小高副委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 まさにおっしゃるとおりだと思います。目標を持つことは絶対に必要だと思いますが、目標を達成するために今何をすべきか、何をしなければいけないのか、そして政策を育てる、その視点が今の塩竈市役所には全く欠けております。単年主義、予算が単年度で消化されるのであれば単年で終わるんです。失敗したらそれで終わり。これでは間違いなく将来に向けた塩竈市の在り方なんて議論する前に、その年度年度壊れた物を補修するだけで終わっているのが今の塩竈市役所だと思っています。その、今市長としてトップにいるわけですから、まさに僕の責任でもあるわけですので、それをしっかりと責任を果たす意味でもこれからは政策を育てる、目標に向かって今なすべきことをしっかり一つずつ積み上げていく、このことが今の塩竈市役所に非常に重要な視点だと思っています。その上でもまさに長期総合計画を達成する意味でも、今足元の状態がどうであるかということ、市役所の一人一人

が、職員一人一人がもう一度見直すべきだと思います。その上で、この目標に向かってどうやったらしっかりと計画を達成するためのプロセスをつくり上げていくことができるのか、今まさにその部分と闘っているところでもございますので、しっかりと市長としての責任を、残り任期2年ありますのでその2年の中で達成できるように、目標として頑張っていきたいと考えてございます。まさにおっしゃるとおりだと思います。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 今市長の決意をお聞きしましたけれども、できれば我々、私も産業建設常任委員として各地を定住人口促進のあれで視察して歩いているわけですよ。一応、視察の報告書を書いているわけですよ。ところが今の塩竈市のシステム上、議員の視察報告書が事務局で眠ったまま職員の方々に生かされていないという現状があるのではなかろうかなと思います。ですから、担当の方、議会事務局に行って過去のそういった関連文書を読むことによってヒントが、いろいろなヒントがこれは出てくるかと思えます。そういうところを得て、また実際にその自治体にコンタクトを取って、どういった方向でやっているんだということを聞くことによってやっぱり生の声が聞こえるし、じゃあこういうことだったらこういう財源があればこういうことができるんだと、じゃあこういう財源を何とか確保するためにどうしたらいいんだというところをやっぱり考えていかないと、いつまでたっても堂々巡りで何も進展しない。アドバルーンだけ上げてあとはガス抜けてしぼんで地上に落下するだけということになりかねませんので、やっぱりアドバルーンを上げたらそのアドバルーンが天高く飛んでいけるようなやっぱり案をきちっと考えていただいて実行していくようにしていかないと、現状は抜け出せないだろうと。かつては塩竈市、ここに来れば飯が食えると、食えばぐれのないまちだったというまちでしたけれども、いまやここにいたのでは食えばぐれてしまって住んでいられないというまちに変貌しつつあるわけですから、それを食い止めるためにはやはり積極的なそういう政策を打ち立てていかないと、国の財源頼みでは差別化ができない。差別化するためには、自分の財源で何かやっていかなきゃいけないということになるわけですから、そのところをしっかりと考えていただければなと思います。

それと、次に、未来を担う子供の育むための学習環境の充実ということで、郷土を愛する心や未来を担う力ということを書いてあります。この郷土を愛する心、どうやったら育つのか、教育長ちょっと教えていただけませんか。

○小高副委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 郷土を愛する心というのはなかなか難しいところではございますけれども、今、学校では新学習指導要領の下、中学校だと9教科やっていますけれども、それ以外に総合的な学習でいろいろふるさと学習とかですねそういうものも含めて行っております。ただ、ふるさと学習だけじゃなくて、福祉的な部分の体験学習とかそういうのも地域の方々と連携しながらやっているところがございます。その辺のふるさと学習、そういう部分をさらに今後も継続してやっていく、さらにコミュニティスクール、地域学校協働活動を今来年度から全部の学校で進めていくところですので、そこに地域と結びつくことが郷土を愛する心につながっていくかなと思います。地域の方々が学校にどんどん積極的に入ってくる、地域の方々の意見を聞いて学校運営をしていく、そういう形を進めていきたいと考えております。

以上です。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 ちょっと、いろいろな学習学習ということで、学習で果たしてその地域を愛する心が生まれるのかって、私はちょっと違うんじゃないのかなと。これは、日常生活に根差した活動の中で生まれてくるのではなからうかと私は感じているわけですね。そこでやはり、以前にもここで話ししましたけれども、我々子供の頃は塩竈の3つのお祭りのときには2時間授業で終わって、それで昼飯を早く食べて神社の坂をおみこしさんが下りてくるのを見て、1日中それにくっついて歩いてたと。それがやっぱり郷土愛の源ではないのかなと。それと、盆踊りも各地であって、その時期になると盆踊りが催される、ところが今、町内会も機能しなくなりつつあって、盆踊りもやるところが減ってきているということになると、本当に子供たちが集まってわいわい騒ぐ、それが一つの郷土愛の目覚める、育む原動力ではないのかなと私は思うんですね。ということは、やっぱりそういったものを、郷土の行事をしつかりと子供たちに根づかせていくということが大事なんじゃないかなと思うわけですよ。こういった立派な言葉を並べるよりも、やっぱりそういうところから地道にやっていったほうが、いくことが、私は効果があるのではなからうかと。教育長がおっしゃったようなことで学習学習ってやっていると、学校の勉強の延長であって、子供たちのそこに楽しみが出てくるのかというと、私はちょっと、そうではないんじゃないかなとは思いますが、それは私の感じですけどもね、いかがでしょうか、その辺。

○小高副委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 委員のおっしゃるとおりだと思います。私も、塩竈生まれ塩竈育ちで、子供の頃は学校は午前授業で、お祭りのときは100円持って遊んでいたほうですけれども。実は、今、私最初に話したコミュニティスクール、学校運営協議会の中で一小はもう既にそれで動いているんですけれども、この3月、4月にその地域の方々を集めて運営協議会、学校で会議したときに、塩竈一小学区に鹽竈神社があって子供たちがさっぱりそこに、行ったことはあるんですけれども学校としてはない、何とかしたらいいっちゃってということが地域のほうから意見が出て、校長は早速もう4月にお花見に全校で遠足ということで地域の方々の協力も得ながら、子供たち1年生から6年生まで鹽竈神社に遠足に、花見に行かせたという対応をしております。まさにそういう、地域の方々の意見を学校のそういう授業以外で、子供たちの活動に取り入れていく、それを少しずつ重ねていくことが郷土愛につながっていくかなと思います。この間、秋休みがあったのでそのときには塩竈に新しく入ってきた先生方を対象に観光ボランティアの方々に入ってもらって、二十数名先生方が門前町、鹽竈神社の視察見学もさせていますので、そういう形で少しずつ郷土愛につながっていく活動をしていければいいかなと思っております。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 今、たまたま先生方の協力を得てということであれとお話ありましたが、またふとそれを聞いて思ったんですが、やはり学校の先生方も年に3回のお祭りのうち1回くらいはおみこしを担いでみるというのもいいんじゃないかなと。やっぱりあれは、担いだ人間じゃないとその重さが分からないんですよ。ぜひ、そういうことも取り入れて、そして担いだ先生が子供たちに実体験をお話しすると。それで、そのときに鹽竈神社が何たることかということもお話しして、おみこしがどういうものであるかということもお話ししていただくと、より地元のそういった行事に対して子供さんたちが興味を持っていただけるのではないかなとふと思ったんですが、そこはどんなものでしょうかね、やっぱり先生方のあれもあるでしょうけれども。

○小高副委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 公教育の場で、あまりその辺、宗教、神道関係に関しては、なかなか積極的に進めることが難しいところかなと思います。ただ、先生方が個人の考えでやるっていう分には全然止めるものではございません。

以上でございます。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 そういったことを呼びかけていくということは、これは当然、別に参加者を募ることには問題はないと思うんですけどもね。そういったことで、やっぱり先生方が興味がないことは子供たちも興味がない、伝わらないですし、やっぱりそういうところから一つ一つ進んでいかないと、なかなか解決できないのかなと。特に、教育界では左翼思想の強い方が多いので、神社になると今度右翼のほうになりますから、なかなかそういうところで思想的には難しいけれども、でもそれを乗り越えていかないと郷土愛というのは多分出てこないでしょう。これは、幾ら口できれいごとと言ったって出てこないと思います。これやっぱり人間の心から根づくものですから。これは右翼左翼関係ないですね。やっぱり自分の郷土を愛するという気持ち、そこから多分私は出てくるのではないかなと思っておりますので、その辺も今後検討してみてください。

あと、ICT、これも創造性を広げるとともに安全安心で快適な教育環境をつくり出すとうたってあるわけですが、今、電車に乗ると座っている人の7割近くがもう携帯をずっと見ているわけですね、無言でね。この人たち目を悪くしないのかなと思うんですけども。やっぱり視力を弱らせるというのもこれは健康を害するわけですし、悪くなって初めて困ったなと感じるわけですがそのときは遅いわけですね。ですからやっぱりそうなる前に、ちゃんと健康を保つということも教えていかなきゃいけないので、そのICTの教育の中でそういった目の保護ということも十分に、今いろいろ光を遮る眼鏡とかなんとかあるようですから、そういったところもしっかりと取り組んでいただければと思いますが、その辺は当然やられているんでしょうね。

○小高副委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 スマホとか端末の画面を見てという視力低下に関しては、もう既に文部科学省からもいろいろ指示が出ておまして、それである程度使ったら目を休めるということは各学校にも通知しております。なお、定例の教育委員の会議の中でも高橋先生とかはお医者さんなのでその健康を害することということで眼科校医さんからの情報とかも提供させていただいておりますので、その辺は校長会とか養護部会等を通して徹底して話をしておりますので。なお、これからもずっと続いていくことですので、十分そこは、常に忘れずに定期的に子供たちの健康に関して指示していきたいなと考えております。

以上です。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 今や、世を挙げてデジタル化ですけれども、やっぱりアナログも必要なときもあるかと思しますので、その辺も両方大事にして、子供さんたちの健やかな成長を考えていただければと思います。

次は、資料No.28の8ページですね、みんなが生き生きしているまちということで、健康で生きがいのある暮らしや地域と協働した支え合いを充実させ、高齢になっても住み慣れた場所で生き生きと過ごせるまちをつくりますと書いてあるんですが、これが生き生きと生活するというのはどういう状態を生き生きと生活すると考えているのか、ちょっと教えてください。

○土見委員長 小林福祉部長。

○小林健康福祉部長 生き生きした暮らしの考え方だと思いますけれども、これにつきましては元気でいつまでも地域で暮らせる高齢者が多くおられるような形の取組を行っていきたいということでございます。具体的は、介護にならずに、介護保険なども利用せずに、高齢者アンケート等を取ってもやはり自宅でいつまでも元気で暮らしたいといった結果もございまして、そういったお一人お一人がその地域で介護にならずに元気に暮らしていただけるような取組をしていきたいといったことで考えております。

以上です。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 先ほどの伊勢さんの質疑の中で別の資料を見ますと、独り暮らしの方が4,000世帯くらいいると。その4,000世帯を超える方々に対して、生き生きと暮らしていただくためにどういった施策を考えていらっしゃるのかちょっと教えていただけますか。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 まず、基本的には、去年のアンケート等でも出てきたところなんですけど、この独り暮らしの方の約半分くらいが外出しないで家でテレビを見ている等、ほぼ交流の機会が少ないといった部分がございますので、そういった部分ではぜひ外に出ていただいて、交流の機会を増やしていく等ですね、様々な事業をちょっと考えているところでございます。例えば、今やっている事業としましてはダンベル体操とか、あとは生きがい教室だとか、そういったことを色々やっているところでございますが、さらに元気に暮らしていけるような対策を考えていきたいと考えております。

以上です。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 私も選挙でずっとあちこち歩いていますと、結局お年寄りの方々はお茶のみ話する場所がないという声がよく聞こえてくるんですね。なかなか今、人の家に行って気軽にお茶飲んで話ししてという、何か全体的な世間の風情がなくなってきているので、結局そういうところをじゃあ何でカバーできるのだろうかという、やっぱり日常的にどこかに集会的なものを設けて、そこに日常的に集まって茶飲み話できるような場所が私は市内に必要ではなかろうかなと前々から思っていたんですが、前の佐藤 昭市長のときに仮設住宅をばらすときに仮設住宅をそういった集会所用に使って市内に何か所がそういうのをつくって見たらどうですかというお話をしたんですが、全く相手にされることなく終わってしまいました。結局、ずっと同じ問題をこうやって抱えてきているわけですが、そうすると今から今度またやろうとするとお金がかかる、だから一つの方法としてはあとは各地区に昔お店屋さんやっていて、今お店やめているという方々がいらっしゃるわけですね、そういう方々は例えばお店解放してもいいですよという考えの方もいらっしゃるわけですよ。ですから、そういった場所を探して、選んで、それでその地域のコミュニティーの場所として使わせていただくということも、手段としてはあろうかと思しますので、そういうこともちょっと検討されてはいかがかなと思いますがいかがでしょうか。

○小高副委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 物すごい大事な視点だと思っています。というのも、私も市長になってからいろいろな方とお話をさせていただく中で、例えば病院の待合室、診療が終わってもなかなか帰らない、そこに来ていただいているほかの患者さんと話すことが楽しいとかですね。自分自身でも考えたときに、ちょっと表現が不適切かもしれませんが、落選をしたときにその日から、その瞬間からすることがないんです。そのときが一番大変でした。朝起きて、まず何をして、じゃあ出かける準備が、仕事がある方は時間どおりに動かれると思いますが、仕事が終わってじゃあここから何をしようか、この生きがいとかですね、自分が何かに頼りにされているとか必要にされている、そういったことを行政の中で工夫をしながら提案できないかと、このことは選挙のときにもお話をさせていただきました。大きなテーマだと思っていますし、大変難しい課題だとも思っています。ただ言えることは、浦戸のおじいちゃん、おばあちゃんたちもそうなんです、子供の声が天使の声だとよくおっしゃっています。地域の中でそういうおじいちゃん、おばあちゃんたちがこれまで暮らしてきた、または仕事上で経験を

してきたことを子供たちに教育の中で話していただく、そういったこともぜひ工夫としてやれるのではないかなとか、場所を提供させていただいてその中でお茶飲み話とかさせていただく場所も絶対に必要だろうと思っております。見守りの支援というのは、命に関わるところの支援という感覚なんです、私は。ただ、その前にやはり1日1日、1時間、10分、どういう形でもいいから私ども塩竈市役所が皆様に対して何かお願いをさせていただいて、お手伝いをしていただく、そういう役割を担っていただくことから少し考えさせていただきたいと思います。それを続けることが、ある意味ではこういった長いスパンで考える計画に生きてくるだろうと思っておりますので、そういった視点でもし志賀議員からも、また議員の皆様方からもいろいろあったら、全国的な事例も含めてご示唆いただければ大変ありがたいと思いますので、積極的にそういったご意見、お寄せいただければと思います。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 ぜひ取り組んでみていただきたいと思います。

次に、快適に住み続けられるまちというところで、強さとしなやかさを持ち安全安心に生活できる、災害に強い、これが都市基盤の整備や防災対策の充実を図るなど地域防災力の強化に努めますということなんですが、一応3・11の津波で海岸周りは防潮堤ができたというところで、そういった面では防災機能は高まったとはいえ、内陸部についてはまだまだ避難道路とかいうものが、当初予定していたものがほとんど出来上がっていないと。特に、北浜地区では山手に逃げていく道路の整備が何か所かあったはずなんですが、これがほとんど行われていない。それで、うちの地区でもパチンコ屋さんとの間の自動車学校の間の道路が幾らか拡幅はされたものの、あそこを交互通行するためには産業道路から左折しようとする道幅が狭くてなかなか対向車があると左折ができないという状況を見ているわけですね、毎日。果たしてこれでちゃんと災害に対して備えているんだろうかという思いもあるわけです。本来は、私の家の前の道路を左折できるようにすれば、道幅広いので自由に曲がれるはずなんです、ローソンと旧自動車学校のね。それがなぜかパチンコ屋さんの間の狭い道路が避難道路になって、それでどこにも逃げるわけでもない、逃げ道のない、突き当りは丁字路になっているわけですしそれで終わっていると。私は、災害後に県営アパートの裏山を通過して第三中学校に逃げられるような避難道路を造るべきでしょうというお話をしたんですが、それも何か地権者との間での話合いがつかないのという理由で頓挫していると。そうすると、我々が今住んでいる地区で災害時に逃げるときにどうやって逃げればいいのかと、避難

訓練は10年もたっているのに相変わらず新富町の裏道を歩いて、三小に避難すると。途中で死ねってということなのと私は思うわけですね。やっぱり、こういうことを上げているのであれば、それなりに各地、対象の地域住民が本当に安全で安心して逃げられるような方策を講じていかないと、結局ただの空念仏に終わってしまうのではないかなと思っているわけですが、その辺についていかがでしょうか。

○小高副委員長 志賀委員に申し上げます。本日は基本構想の審査でございますので、その範囲内にご留意してご質疑いただければと思います。ご答弁も、ご留意してご答弁をいただきたいと思います。佐藤市長。

○佐藤市長 補足があれば、担当から答弁をさせていただきます。命を守るというものが何物にも代え難い私どもにとっても一番大切な部分でございますので、命を守るための避難路の在り方だったり、逃げ方だったり、ハード、ソフト両面で最重要で考えるのは至極ごもつとまでございますので、理念だけではなくて、そこにつながるこれからの計画等々においてその目標値を設定したり、そういう方向性を上げていくということは非常に重要な視点だと受け止めさせていただきたいと思っております。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 次に、10ページに移ります。活気があり誇りを持って働いている人がたくさんいるまちというところなんです、残念ながら今の塩竈はそういう状況にはちょっとなくなっているのかなと。特に、水産業界の場合は、割と低賃金でなりわいになっているという状況もあります。それが現実だと思います。そういった中で、業界の方も頑張っていらっしゃるんですが、なかなかその頑張りが利かない状況下になってきているということがありますので、そういうところを支えていくために、やはりこういう言葉を並べているだけでなく、この並べた言葉にやっぱり職員の方々お一人お一人が具体的な対策案を考えていかないと実現ができないんだろうなと思います。よくこれから考えますという回答がちょこちょこあるわけですが、同じテーマがもう20年前、30年前から抱えているわけですよ。そうすると、これからでなくてももう既に考えてまとまって、市長が代わったからこの政策をぜひ、俺の考えを実施してもらいたいってというくらいの気持ちがないと、佐藤光樹市長はあと2年間で何もなされることなく終わってしまいますよ、職員の皆さん。それだけ皆さんの力が大切なわけですから、これから考えるじゃなくて、今まで考えてきたことをぶつけて、やっぱり実際の政策に生かしていただきたいなと思います。このブランド力の向上ということもあるんですけれ

ども、常に出てきます。だけど、ブランドを向上させるって具体的にどうするのかといったときに、その具体性がないんですね。ブランド力、ただ塩竈の名前を売り込めばいいというものでもありませんし。そういうところをお一人お一人が本当に考えていらっしゃるのか、あとは例えば産業環境部長さん、何かそれに対してお考えがあれば、1つでも2つでもいいですからちょっとご披露いただけませんか。

○小高副委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 活力に満ちた産業づくりということで、本当に塩竈市、水産のまちということでこれまで繁栄し、そして今ちょっと元気がなくなってきたという委員のご指摘がございました。本当に、私もちょっと間を挟みながら産業環境部に長いこと在籍しております、これまでも魚のブランド化ということで三陸塩竈ひがしものですか、あるいはICT化ということで輸出を幾らかでも進めたいということで進めてまいりました。委員ご指摘のようになかなか形としてこういった効果が、これだけ上がったんですよということにつながっているもの、つながっていないものがございます。なかなか役所だけでもちろんできるものでもございませんので、民間の方々のいろいろなアイデア、お考え、あるいは産官学といいますけれどもいろいろな研究機関ですとか大学の先生方との連携などをしながら、これもやはりまた進めていかなければならないんだろうなと思っておりますので、ご指摘いただいたように議員各位のいろいろなアドバイス等をいただきながら努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 具体的な考えはお持ちでないですか。なければ次の質疑に。

じゃあ、次、11ページですね、何度でも訪れたいまち、ストーリー性があり塩竈市でしか味わえない、訪れたい、塩竈でしか味わえないもの、何と何があるでしょうか。

○小高副委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 やはりこれは、市制施行80年周年を迎えております、これまですばらしく先人たちが築き上げてきた歴史、風土こそが塩竈でしか味わえないものではないかと思っております。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 その歴史と風土をどのように磨きをかけていけばいいでしょうか。

○小高副委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 やはり、かつては鹽竈神社の門前町として町並みもあり、人の流れもかなりあったわけでございますけれども、今時代を経て、やはり門前町としての人の流れですとかあるいは連担性ですとか、神社に至るにぎやかさというものが今途絶えてしまっているという部分があるかと思えます。そういったものを改めて再構築をしまして、鹽竈市はやはり門前町としてブランド力を持つという形にしていくことが、当面は力を入れるべき内容じゃないかなと考えておるところでございます。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 これ、あんまり突っ込むとまたあれなのかな、だからその門前町とするためにはどうしたらいい、どういう町並みにしたらいいのかということですよ。やっぱり、そういうところをそれぞれがイメージしていかないと、これから考えますでは、先ほど言ったように時間がたって終わって、自分たちの2年、3年の職務が終わってしまうわけですよ。そうするとさようならすると。そうすると何も結果残っていかないと構図になるわけですから、そのところをやっぱり1つ2つくらいは小山部長からこういうことを考えているんですという言葉が欲しかったわけですが、その域を出ないというところが今の現在の鹽竈市、今までの鹽竈市役所の弱さなのではないかなと私は思います。ですから、もっと日々の生活の中で、まちをどうしたらいいんだということを考えてください。私は議員になる前からいろいろなことを考えていました。だからいろいろなことを言えます。その差だと思います。決してそういう専門に勉強したわけではありません。ただ、新聞、いろいろな記事を見て関連性のあることを頭にたたき込んで、こうだな、こうだなということでやっているわけです。そのところが、やっぱり熱意が足りないのかなと感じております。ですから、今日からでも構いませんので、ぜひそういう、ほかのまちがどうやっているんだということを興味を持って、いろいろなことを学んでいただいて、そして鹽竈市のよくなる施策に生かして頂ければと思います。

次に、今度12ページ、日常に彩りがあるまちというんですかね、鹽竈に息づく歴史文化の保存とシビックプライドの醸成を図りますという立派な文言が並んでいるわけですが、私ちょっと理解が不能なので、もうちょっとかみ砕いた説明をしていただきたいと思います。

○小高副委員長 鈴木教育部長。

○鈴木教育委員会教育部長 私からお答えいたします。

このシビックプライドという表現が、今回の長期総合計画の一つのキーワードとして出てき

てまいります。シビックプライドとは何ぞやということなんですけれども、先ほどから議論になっていました郷土愛というのと似ているんですけれども、郷土愛というのは生まれ故郷ということで、生まれ育った方が自分のふるさとを愛してあげるとということなんですけれども、シビックプライドというのはそこに住んでいるよそから移ってきた方も自分のまちに誇りを持って、市民が誇りを持ってこのまちのことに関わりを持って、非常にまちづくりに感心を持って進めていくというのがシビックプライドということでございます。このシビックプライドを市民が持つことによりまして、移住してきた方が塩竈に愛着を持っていただいて、転出をしていくこととかを抑制していくという効果があると言われております。さらに、このシビックプライドが高くなっていくと、市のいろいろな行事に参加することによって当事者意識が芽生えてきて、ますます塩竈のことを好きになっていくと、そういう位置づけでございまして、その一つの手段として塩竈に残っております歴史文化、そういったものを保存、活用することによって、市民の方のそういったシビックプライドを醸成していこうという表現でございます。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 そこで、塩竈のそういったそういういいところ、歴史文化そういったものの情報の発信というのは現在どういう形でやられていますか。

○小高副委員長 鈴木教育部長。

○鈴木教育委員会教育部長 生涯学習の中でいろいろな文化財の発信でありますとか、文化財の保存、活用を含めて様々取り組んでおります。さらに、そういったものを一歩進めてこの次の10年間の中でも推し進めていきたいと考えております。

○小高副委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 補足をさせていただきます。シビックプライドには、今部長が漏れていたのであえて発言させていただきますが、塩竈に感心のある方、こういった方々の力をお借りするというのも意味合いに入っております。決して住んでいる方だけ、移住してきた方だけというわけではなくて、塩竈に感心がある、また関わりのある方々をどうやって巻き込みながら地域をつくっていくか、これが非常に重要な視点、あとは喫緊で申し訳ございませんが、一つの事例として80周年記念事業とさせていただきますが二小の壁画プロジェクト、これにつきましてはお子様方が描いたイラストにアサクラさん、タカダさん、そして塩釜高校の皆さん、そして最後にはサンドイッチマンさんまで入っていただいて、色塗りをしていただきま

した。殺風景な風景に気持ちの入った絵画が完成したと思っています。また、先日も、中之島緑地公園のほうで三小の皆さん、4年生の方に植樹をしていただきました。モミの木とツツジでございます。実はここにはエピソードがあって、10歳のお子様方に植えていただいた、10年後ぜひ成人式のときに式典の前後にその植えた前で写真を撮ってほしいというお願いを皆さんにしたら、もう大きな声で手を挙げていただいて、分かりました、はいっというお答えをいただいたと。こういったことを継続するのがシビックプライドにつながっていくだろうと。ちょうど、長期総合計画10年です。僕とすれば、10年後の成人式にその場所を訪れてもらって写真を撮っていただくなり、思い出を語っていただくなり、そしてその先にある新たなご家族ができたときに、またそこで写真を撮っていただくなり、自分のお子さんができたときに自分が子供のときにこれを植えたんだと、こういうある意味ではくさい話かもしれませんが、一つのストーリー性を持って地域の行事をつなげていくのがシビックプライドに結果的にはつながるだろうと思います。素直なお子様方の気持ちをそのままつなげられるような教育をしていくこと、これが今後の塩竈市の教育行政の柱になってほしいと、僕は考えてございます。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 ありがとうございます。

その次に、(2)で生活に潤いを与える生涯学習、生涯スポーツの展開ということが書いてあるわけですが、塩竈にはサッカーでは塩釜FCという団体が、少年サッカーチームが頑張っているわけですが、そのほかにも陸上競技で監督して名をはせている泉田さんという方が塩竈に在住されている。私、前にイズミダさんをお願いして、例えば塩竈市内の小中学校の駅伝大会をやるとかそういうことも、せつかくそういう人材がいるんだからいろいろノウハウいただいて活用する方法を考えたらどうでしょうかという提案をさせていただいたんですが、それも全く無視されたままです。こういう長期計画の中に一つ塩竈市内のイベントとしてそういうことも取り組んでみると。中学校までの駅伝はありますけれども小学校の駅伝はないわけですから。塩竈の場合、山坂が多いので結構ハードなコースが設定できるんじゃないかなと。それで小学校ができれば今度中学校できるということになるかと思えますし、それが全国大会を塩竈でやるというようなことも将来を見据えて、ちょっと、大きな夢を持ってそれこそね、取り組んでみるのも一つではないんだろうかと思えますので、こういった、それに代わる具体例がいろいろ考えていらっしゃるのであれば、何かあったら

教えていただけますか。

○小高副委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 今、中学校の部活動に関して文部科学省でも学校から地域に移行して
いこうという考え方になっています。今現在、教育委員会でも動いていきたいと、動こうと
して来週ちょっと中学校の校長を集めて話し合うんですけども、子供の数が減ってきて部
活が成り立っていない、一つの学校で成り立っていないので、複数の学校がまとまって
一つの部をやっていこう、そのためにはやはり地域の方々の力が必要だということで体協さ
んとかとも連携して今後進めていこうということを、今まさに来週動き出す予定でございま
す。そういう大きな部分のところを見て、子供たちのスポーツ活動、スポ少とかはまだお父
さんやお母さんが協力してやっている部分がありますけれども、そうじゃなくて中学校の部
活動をどのように地域と協力して進めていくかという動きを今まさに始めたところでござい
ます。その中で、体育協会さんも塩竈はしっかりした組織になっておりますので、そこと連
携してどういう形で塩竈市の子供たち、あとは一般市民のスポーツ活動を推進していくか
というのを、先ほど駅伝という話がありましたけれども、それだけじゃなくていろいろな面
でどういう形がふさわしいか、学校だけに頼ったスポーツじゃなくて地域全体で学校と協力し
てやっていく組織をどのようにつくっていくかというところを動き出そうとしているところ
でございますので、そういう状況です。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 とにかく、新しいことにトライしていただいて、それが……方向性を変えながらい
ろいろなことをやっていっていただくということにしていかないと、何も先に進まないと思
いますので、積極的にいろいろ取り組んでいただきたいと思います。

次に、13ページ、みんなが主役になれるまちというところなんですが、ここについても
(2)の大学や企業等との交流、連携、共創と多様化する社会への理解促進と書いてあって、
大学、企業等との相互の交流やつながりを深めると書いてありますが、今、具体的にどうい
う大学とかどういう企業とか、取組とかということがあるのか、ないのか教えてください。

○小高副委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 この(2)の大学と企業とというのは、教育部だけじゃなくて市長
部局も含めて全体的なところでございますけれども、ただ教育委員会としてはただいまちよ
っと計画があるのは2つの大学と教育委員会が提携して、まず一つは特別支援教育、特別支

援学級の子供たちだけでなくLDとかADHD、学習障害とか多動性のあるお子さんたちをどのように先生方が声がけ、どのような指導をしていったら効果的になるかというところを、専門的に研究している大学の先生と大学と連携して進めていこうかと考えております。あと、もう一つは教育系大学との連携で、大学院の学生さんの研究の場として塩竈市内の学校に入ってもらって、その学生さん、大学院生の授業研究を協力してやる、その中で現場の先生方も大学の先生方と専門的なところで研究していけるというシステムを、教育委員会としては今考えているところでございます。

○小高副委員長 志賀委員。

○志賀委員 今の教育長のお話、いいお話だなと思いました。ですからそれを進化させて、障害をお持ちのお子さんたちの教育の場としては塩竈の小学校がいいよというようなレベルになるまで頑張っていたいただきたいと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

次に、14ページ、(8)ですね、自然と調和した和やかな暮らしと癒やしがあるまちということなんですが、具体的に島民の、島のほうのことを言っているようですが、ここのところは今後島に対して基本的にどうしたいのか。言葉だけでなくね、実際にどうしたいのか。人口の維持をどうするのかとか、それから環境面をどうするのかということ具体的な目標を掲げていかないと、今のままではあと20年もしたら、現在ご存命の方皆さんいらっしやらなくなってしまう可能性があるわけですね。そうすると、10年計画だなんだって言っている状況ではなかろうかなと。やはりもうちょっと即効性のある、現実即した対策を立てていかないと、塩竈市にとって大事な観光資源でありそれから食の供給地でもあるわけですから、そういったところが失われてしまう危険性があると私は感じているわけです。その辺で、市長としてどの程度まで考えて、緊急性を持って考えていらっしやるのか。いや、10年間で考えたいのかということなのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○小高副委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 浦戸に関しましては、もうこれまでも議会の皆様方にご説明をさせていただいています浦戸再生プロジェクト、これは私が会長を務めております。これが一つの決意の表れだと認識をしていただければと思います。今まで何十年、浦戸に関する議論というものがないままにまわってまいりました。いろいろな方向性もあったと思います。それがじゃあ、どこまで実現してきたのかについては、これは計画のこれからの進行管理、進捗状況とも相まってくると思いますけれども、結果的に今この状況になっているという現実だけは目を背けられないし、

皆様方も私以上に理解されているところがあると思います。時間がない、もうそのとおりでございませう。島民の方々がそれを直接我々におっしゃっていただいています。そのことを踏まえた上で、今、ご承知のとおりふるさと財団からご支援をいただいて、コンサルの方々に入っていただいて、来年の2月、3月までに一つの流れをお示しさせていただくことになってございませう。それと同時にそこに大事な視点というものは、島民の方がまず何を望んでいらっしゃるのかということも当然のごとく聞いていただいた上で、何ができるのか、何をすべきなのかということもコンサルさんの視点からも我々にご教示いただきたいということで取りまとめを、今、していただいている最中でございませうので、今後、5Gの事業も始まっておりますので、こういったことも見据えながら、7つの法律に囲まれているこの浦戸諸島の様々な規制緩和に関しましても、宮城県もしくは国、まずは宮城県のハードルを越えないとなかなか国のご理解を得られないということも官邸のほうからご指示、ご指導いただいた経緯もございませう。しっかりと、私としてはこの計画と同時に市役所で何ができるのか、現実問題も正直あります、汽船をどうするのかですね、新しい船が造れるのか造れないのかそういうことも同時並行して考えさせていただきながら、よりいい方向での浦戸のこれからの再生に向けた取組を全力を挙げてさせていただきたいと。結果を出さないと駄目だと思っておりますので、しっかりと結果を出ささせていただきたいと思っております。

○小高副委員長 ほか、質疑ございませうでしょうか。

それでは、暫時休憩いたします。再開は2時5分といたします。

午後1時57分 休憩

午後2時05分 再開

○土見委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑を続行いたします。伊藤委員。

○伊藤委員 私から若干質疑をさせていただければと思っておりますので、市長、よろしくお願ひいたします。

まず、そもそも論からちょっとお伺ひしたいんです。それで、資料No.29の、せつかくですから、塩竈市長長期総合計画序論案というのがあるんですけども、その部分で、平成23年5月に地方自治法の一部改正がありまして、もともとの長期構想のほうの設置義務というのがなくなりました。それで、当時そのときはまだ我が市は、多くの自治体は第5次長期総合計

画が始まったばかりですから、どうするんだかなという感じだったんですけども、そこで今回こうやって出てきたわけですが、第6次を策定したわけですが、その背景についてご説明をいただきます。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 確かにおっしゃるとおり、平成23年の地方自治法改正によって基本構想の策定義務、これは完全に廃止されております。したがって、今回の長期総合計画を策定するに当たりまして、まず審議会の皆様にそういった事実、経緯というものをまずご説明をさせていただきました。そういう中で、各市様々な取組があると、全国の自治体の様々な計画というのがいろいろな種類があるんですね。そういったことも今回審議会の皆様に全ていろいろな各市の、今回の今までと違った計画になっているというところの自治体をピックアップさせていただいて、全部お示しさせていただきました。もちろん、その構造でありますとか、それから計画の年数、年数にあっても基本構想それから基本計画そのものの年数も様々あるということのご説明をした中で、今回、様々なご意見はございました。それで最終的には委員の皆様のご意見というところで意見を、アンケートのような調査をさせていただいた結果として、今回次の3ページにございますような3層構造ですね、基本構想それから基本計画、そして予算が伴う実施計画と、そして基本構想10年それから基本計画については前期5年、後期5年という計画に仕上がったという経過でございます。

以上です。

○土見委員長 伊藤委員。

○伊藤委員 もうちょっと、当時の5月2日時点で、平成23年ですね、総務省が出した通知がありますよね、長期総合計画について。これは、策定しなくてもいいよということになりました。ただし、改正法の施行後も法第96条第2項の規定に基づき、個々の市町村がその自主的な判断により引き続き現行の基本構想について議会の議決を経て策定することは可能であると。多くの自治体は、今これを根拠に策定しているようですね。で、次の段階で、審議会とかの話になってくるんですね。と、思っていたんですよ、流れとしては。そのほうがよほど分かりいいんでないかなと思っていたので。何でかっていうとね、なぜつらなければいけないかっていうところの根本理由をちゃんとしておかないと、これから塩竈市、その都度その都度何か屁理屈つけていくしかなくなってくるんですよ。10年たった、何年たったっていったときに。だから、そのことはちゃんと審議会にも諮りました、そこまでは一つ分か

っています、僕もそのときは聞いていました、審議会を傍聴していました。それで、次の段階は塩竈市には塩竈市長期総合計画審議会設置条例があります。これは、昭和54年1月に施行されていますよね。さて、ここでお伺いしたい。この審議会の設置に関して条例で定めている理由を教えてください。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 ちょっと、地方自治法の適用条項がちょっと今思い出せませんが、例えば議決であれば当然第96条という形になると思います。もともと、今回の審議会という皆様にお諮りしていますのは、こちらのほうからの諮問答申という形をお願いしております。そういう流れの中で、当然ながら審議会というのが条例で定めるべきそういう組織であるということを確認するということの必要性が出てまいります。当時、昭和54年というのも、恐らく同じようなそういった考えに基づきまして、審議会の在り方はご議論いただく諮問答申という形の中で条例で設置し、しかるべきその報酬等も全部規定するというような、そういう組織であることを明確にして、それで審議をいただくという事務処理を行ってきたということかと思っております。

以上です。

○土見委員長 伊藤委員。

○伊藤委員 これに関しては、附属機関という位置づけですよね、審議会というのは附属機関となりますよね。それでこれは、もともとは要綱でも定められていたところがあったんでしょう、各自治体を見る限り。様々な附属機関について。ですが、地方自治法上の附属機関に該当すると判断して、条例により設置していないことを違法とする裁判所の判例が出たと。これは、2審までで最高裁判例は出ていません。それで、全国が条例という形で設置が始まりました。条例で設置するというのは、さっき部長が言ったとおりそれだけ重いんですよ、附属機関の位置づけというのは。そこでです、一つお伺いしたいのは、たしか資料として出されていますが、資料No.29の審議会からの答申の資料を見ても、審議に当たっては、審議会の運営に当たっては新型コロナウイルス感染拡大など大変苦労があったと記載がされているかと思うんですが、そこで伺います。今回、たしかこの長期総合計画を庁内で立ち上げていったときに、まず何年間、職員さんがこの長期総合計画をつくるために関わったのか。それから、審議会の皆さんとの関係において、新型コロナとかいろいろな関係があり、対面でのそういう今まで当たり前になんかできなかったことができなかった、どういう苦労があったのかお知らせ

をいただけたらと思います。

○土見委員長 荒井部長。

○荒井市民総務部長 まず、今回のこの長期総合計画の策定の審議会、スタートが2年前になります。令和元年の11月から丸2年間ということになります。その間開催された回数としましては、答申を除きますと9回ということになっております。今、ご指摘がございました新型コロナウイルスというところで、実際対面での会議ができなかったという期間もございます。今年の1月から、次が実は5月の開催、本当は2か月に1遍程度の、あるいは1か月半程度で1回は必ずやりたいというスケジュール感だったんですが、やはりコロナの関係でできなかった期間が。ただ、完全に緊急事態宣言以外のケースですと、コロナ対策をしっかりする、例えばシールドもちゃんと置く、距離をおく、ディスタンスもおく、そういう工夫の中で何とか5月に開催し、7月開催、そして最後は9月ということで、2か月おきに開催をさせていただいたという経過でございます。

以上です。

○土見委員長 伊藤委員。

○伊藤委員 それで今回、自らが創意工夫をもってこの長期総合計画を策定しているよと、議会にそれを図って施行してくれというのが今回の流れだっというのはさっき説明いたしました。そのときに、相当2年という時間をかけました。これは多分、前回の第5次もそれくらいの時間がかかっていたのかと思うんですけれども、どうですかね、2年かけて計画づくりをして、第5次ときはまだ個別計画というのは少なかつたかと思います。様々ほかのものね。今回は相当国がいろいろなもので計画づくりを求めています。市長が、市役所の職員がちゃんとものを考えて、次につなげるような発想をしなきゃいけないといったときに、こういう計画づくりだけが毎日のように、毎日と言ったらおかしいけれども、庁内で調整を図ったり考えたりしなきゃいけなくなってきたときに、そういう時間というのが本当にあるんだろうかと思うんです、僕。なぜかというと、計画っていうのは職員全員、少なくともそこに参画をして中身を理解して、それでこれでやりましょうやということで提案が出てくるんだと思いますから。であれば、私どもたまたま、随分前に藤沢市を視察させていただいたんですけども、そのときに職員さんが言っていました。もう計画つくるのに大変な時間だと。労力がかかると。それを何とか削りながら、市長の4年間という任期に合わせて行動指針という形で新たな取組をしたということをおっしゃっていました。だから、今回、職員さん相当苦

労したろうなと思います。条例で定める審議会の、附属機関からの意見、これを尊重すれば、今回の構想、これはしっかりと受け止めて議会としても協力しなきゃない、やっていかなきゃいけないだろうなという思いなんですよ、僕。ただ、そのときに指導する立場の方々古い考え方で前と同じ形をどうしてもつくりななきゃいけないんだということではなくて、できればそこに創意工夫ということが今回出てくればよかったなというのが私の一つの感想なんですよ。このことだけは何とか、政務活動費を使って藤沢市も視察させていただいて勉強もしてまいりましたので、市長が掲げる、やっぱり新しい人になったんですからしっかりと新しい視点を持って、行政、塩竈市のまちづくりに取り組んでいただきたいと思いますので、そういった部分がもっと生かされるような計画づくりになるように期待をいたしますので、市長、職員の皆さんも頑張っているところもあると思うので、時間かけながらやったりね、いろいろしているので、こういったこともご理解いただきながら、ぜひ市長の考えを職員の皆様方がよく理解をして、しっかりと市民の生命、財産を守るという地方自治法の理念に基づいて、ぜひ塩竈市で新しい計画に基づいて進めていっていただきたいという思いがあるんですがいかがでしょうか。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 一つ言えることは、その思いは伊藤委員の思いとしてよく理解をいたします。私も、長期総合計画の策定の経緯というのは、僕は初めての経験でございます。就任してすぐ、単純に言えばそういうことになろうかと思えます。途中の経緯、前回の経緯については口頭で短時間で説明を受けたということになろうかと思えますが、やはりこの計画、計画ですからそれをどうやって実行していくかというほうがある意味では重要だろうと。当然、この理念を入れるために多くの審議会のメンバーの皆さん、もしくは関わった職員の方々の思いというのは十分に埋め込まれております。その埋め込まれた計画から、これから実行するに当たって、それぞれの担当職員のやはりこの理念に沿った形での動き方、行動の仕方、非常に重要になってくると思っております。しっかりと、それぞれの職員が、私も含めてこの計画の考え方に沿って、時代の流れに合わせながらも、苦勞しながらも、何とか一歩でも二歩でも実績が挙げられるように、この計画に沿う形で動けるように努力し続ける、このことが今後10年間我々に課せられた多くの課題だろうと思っておりますので、謙虚に受け止めて、真摯に実行させていただきたいと思えます。

○土見委員長 ほかに質疑はございませんか。（「なし」の声あり）

それでは、これより再質疑を行います。

ご発言のあるお一人の持ち時間は答弁を含めておおむね30分以内とさせていただきます。また、再質疑の対象は当局の答弁に対するものに限る、といたしますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。再質疑がある方はいらっしゃいますでしょうか。（「なし」の声あり）

それでは、お諮りいたします。以上で基本構想についての質疑を一応終了したいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、さよう決定いたしました。

さらに、お諮りいたします。本日はこれで会議を閉じ、11月19日午前10時より再開し、前期基本計画についての質疑を行いたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、さよう決定いたしました。

本日の会議はこれで終了いたします。

お疲れ様でした。

午後2時20分 閉会

塩竈市議会委員会条例第29条第1項の規定によりここに署名する。

塩竈市長期総合計画特別委員会委員長 土 見 大 介

塩竈市長期総合計画特別委員会副委員長 小 高 洋

令和3年11月19日（金曜日）

塩竈市長期総合計画特別委員会会議録

（第4日目）

塩竈市長期総合計画特別委員会第4日目

令和3年11月19日（金曜日）午前10時00分開会

出席委員（17名）

西村勝男委員	阿部かほる委員
小野幸男委員	菅原善幸委員
浅野敏江委員	今野恭一委員
山本進委員	伊藤博章委員
香取嗣雄委員	志子田吉晃委員
鎌田礼二委員	伊勢由典委員
小高洋委員	辻畑めぐみ委員
曾我ミヨ委員	土見大介委員
志賀勝利委員	

欠席委員（1名）

阿部眞喜委員

説明のため出席した者の職氏名

市長 佐藤光樹	副市長 佐藤洋生
市民総務部長 荒井敏明	健康福祉部長 小林正人
産業環境部長 小山浩幸	建設部長 相澤和弘
市立病院事務部長 本多裕之	水道部長 鈴木宏徳
市民総務部 政策調整監 兼政策課長 佐藤俊幸	市民総務部 危機管理監 井上靖浩
健康福祉部次長 兼子育て支援課長 小倉知美	市民総務部 総務課長 鈴木康弘
市民総務部 財政課長 高橋数馬	健康福祉部 長寿社会課長 中村成子
産業環境部 水産振興課長 鈴木陸奥男	産業環境部 商工港湾課長 伊東英二
産業環境部 観光交流課長 布施由貴子	教育委員会 教 育 長 吉木修

教育委員会
教育部長 鈴木康則

教育委員会教育部
学校教育課長 白鳥武

教育委員会教育部
生涯学習課長
兼生涯学習センター館長 鈴木和賀子

事務局出席職員氏名

事務局長 川村 淳

議事調査係長 石垣 聡

議事調査係主査 工藤 聡美

議事調査係主査 工藤 貴裕

会議に付した事件

付議議案について

- ・議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて

午前10時00分 開会

○土見委員長 おはようございます。

ただいまから塩竈市長期総合計画特別委員会を開会いたします。

本日の会議に欠席の通告がありましたのは、阿部眞喜委員の1名であります。

出席者の方々に申し上げます。本日の会議は、過日作成いたしました新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた塩竈市議会運営指針に記載のとおり、感染症対策を行い開催しております。発言の際にもマスクを着用したままで結構でございますので、ご案内申し上げます。

また、体調管理の観点から、水分補給を行うための飲料の持込みを許可しておりますので、ご案内申し上げます。

傍聴人の方に申し上げます。携帯電話をご持参されている方は、電源をお切りくださいますようお願いいたします。また、マスクの着用にご協力をお願いいたします。

本日の審査の議題は、閉会中の継続審査となっております「議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて」の1件でございます。

これより議事に入ります。

本日は、前期基本計画についての質疑を行います。ご発言の一人の持ち時間は答弁を含めて60分とさせていただきますので、ご理解のほどよろしくをお願いいたします。なお、質疑の際には、資料番号及び該当ページをお示しの上、ご発言くださるようお願いいたします。

それでは、質疑に入ります。菅原委員。

○菅原委員 それでは、改めまして、おはようございます。

それでは、私から、トップバッターとして、長期総合計画の資料No.28の前期基本計画の75ページから何点か質疑させていただきますので、どうかよろしくをお願いいたします。

この75ページでございますけれども、第8章、自然と調和した和やかな暮らしと癒やしがある島、浦戸諸島から、の中から質疑させていただきますので、よろしくをお願いいたします。ここに書かれているとおり、人々が住まい・集える持続可能な島づくりということでございます。第1節に、健康で安心して住み続けられる生活環境の充実。そして、第2節は、浦戸産品の海産物、農産物の高付加価値化、担い手ですね、産業の振興。また、第3節には、浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進ということで書いてあります。そこで、私からちょっと質疑をさせていただきたいのは、以前から、浦戸にですね、主に区長さんからいろんな様々なお意見も頂戴いたしまして、その意見をちょっと紹介させていただきな

ら、今度質疑させていただきますので、どうかよろしくお願ひしたいと思ひます。

これ、実は、寒風沢の区長から意見を出されたことをちょっとお話しさせていただきたいと思ひます。寒風沢区におきましては、刺し網漁業に6人が就労し、島内の雇用確保に貢献しているということで、特に、浅海漁業者の生産活動を展開しているということでございます。そこで、地域おこし協力隊も現在2名が就労してまして、1名は5年が経過し、このほど准組合員の資格を取得しましたが、今後、将来のですね、生活基盤の整備のための優遇制度、特に船、船具のですね、などの今後の漁業後継者としての島に定住する施策を構築していただきたいということで、質疑もございました。また、今後の協力隊の受入れ策として、3年の期限で終わるのではなくて、主として継続策を一元として、地元でですね、共に連携して構築していく必要があるということで提案もいただきました。

そこで、79ページの成果表の6に、令和8年までに11人の協力隊の受入れとありますが、この生活基盤の整備と受入れ体制の計画が必要と思われませんが、このお考えをお聞きしたいと思ひます。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 地域おこし協力隊、浦戸の部分についてのご質疑を頂戴いたしました。

資料の28番の79ページ、成果指標の6番のところに、目標値としまして11人ということで示させていただいております。こちら、漁業者の後継者としての地域おこし協力隊、それから、それにかかわらず、浦戸のほかの例えば農業もあると思ひますし、様々な面での地域おこし協力隊としての活動というのをちょっと想定させていただいて、11名とさせていただいております。

ただいま委員からご質疑を頂戴いたしました、例えば、漁業の地域おこし協力隊として従事していただいた方の将来の生活基盤の整備ということになると思ひますが、地域おこし協力隊、3年ということで活動をしていただいた後、自立をしていただくというような形もあるかと思ひます。現在、ご紹介いただきましたように、既に自立をなさっていただいた方、これは、実際に指導をしていただいた方々から漁具、船とかを譲り受けまして、今現在、就労をしていただいていると。あと、なおも今、指導を受けながらやっけていただいている方もいらっしゃると思ひます。こういった方々、将来的にということになるかと思ひますが、今度は卒業した後、従事していただく場合に、こういった方々に次の地域おこし協力隊の指導といいま

すか、一緒にやっていただきながら、どんどんどんどんその後継者をつくり出していくという形を整えていきたいとは考えてございます。独立した後のなりわいといいますか、それが定着するようというところで、魚市場さんにもいろいろ相談していただいて、それまで、今までだと割と値段のつかなかったようなお魚も、背後にいらっしゃいます加工屋さんをつないでいただいて、一定の金額等にも支えられるようになってきているということもございますので、こういったところをうまく連携を図りながら、まず支えていくということを考えていきたいと思っております。

また、やはり船具あるいは漁具、そういったものについては、個人所有の財産ということにもなりかねませんので、こういったところで何かうまく使えるようなものを探しながら、応援をしていくことも考えてみたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○土見委員長 菅原委員。

○菅原委員 ありがとうございます。これ、多分意見の中で言われたのは、やはりこの3年が終わってしまってからどうするかという部分だと思います。結局、採算が取れば、やはりその就労でずっととどまることはできるかと思うんですけども、この3年が過ぎてから、やはり何らかの市の、行政の補助もいただきたいというのもあって、やはりここに書かれている令和8年度までに11人ということは結構な人数になるかと思っておりますので、ぜひともこの11人を確保する。また、これ以上に、やはり島の活性化には、人手不足というのは、多分、必要になっていくか。また、漁業の拡大をやる部分には、人手の確保というのは重要になってきますので、ぜひともその辺も入れていただきまして、今後の基本計画にですね。考えていただければなと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それから、旧海水浴場前の農業用地の除塩作業も終了したわけでございますけれども、現在、野菜は、今、タマネギ、ニンニク、それから、蒲霞の寒風沢の米ですね。お酒を造る米も、2名の協力で耕作されているということでございます。その他、9割程度の農地は耕作放棄しているという形が挙げられていますので、以前から、水産振興課で権利者の調査を実施しておると思うんですけども、7割が島外であって、かつ、高齢のために、耕作の意思なしが判明しているということでございます。今後の土地の利用が課題になるわけでございますけれども、水利の課題もあり、有効活用へのハードルは高いということでございます。

また、一部の会社だと思っておりますけれども、ナマコの養殖も構想にあるみたいだったんです

けれども、主体が誰になるのか。また、資金面では、また、採算面の耕地のハードル等が大変課題になっているということで、本市が掲げているこの浦戸のブランド化促進と6次産業化支援とは、どのようなことを考えているのかお伺いしたいと思います。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 寒風沢のいわゆる本屋敷周辺ですね、農地の件でのご質疑だと思います。震災以降、ご存じのとおり除塩をしていただいて、田んぼという形での再生を基本的にはさせていただいて、今、委員おっしゃるとおり、9割方は残念ながら今はもう本当にアシが生えているような状況になってございます。しかし、あその土地につきましては、塩竈市にとっては、本当にもう残された水田が可能な地域ということでありますので、これまでもNPO等の活動等で農業活動をしていただいたところではございます。現在は、1名の農業委員さんもやっぺいらっしゃる若手の方と、あとは、寒風沢の農業をやっている方々の組合的なものをつくっていただいて、おっしゃられたようなニンニクとかタマネギとか、作らせていただいているような状況でございます。こちらは、水利の問題もございましてなかなか容易なところではないんですけれども、やはりここについては、まずは農地として使っていくということは考えていかなければならないとは思っておりますが、ご存じのとおり、その地権者については、もうかなり代替わりをして、ほとんどが島にいらっぺられないというような状況もございます。

これはまだまだ先のことでありますが、長期総合計画でのお話なのでちょっとこういってお話しさせていただければと思うんですけれども、伊保石の例えば牧場については、太陽光発電とか、そういったことをやってきた経過がございまして。あそこは、県の松島湾の保存管理区域には入っておりますけれども、そういった方向性なんかもしかするとあり得ないかということなんかもぜひ視野に入れて、これからは長期的には考えていかなければならないかなとも考えておるところでございます。

以上でございます。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 補足をさせていただきます。島に、持続可能にお住まいになっていただくなり、なりわいを形成していただくためには、間違いなくそのなりわいのためのいろんな事業とか、稼げるものを誘致しなきゃどうしようもないと思っています。それと同時に、私が聞いているのも、田んぼとして、畑として使わせていただいているけれども、除塩をしてもやはり塩

がどうしても浮いてくるということもいろんな方からのお話で聞いてございます。そう簡単にできないことも分かっておりますが、今、浦戸再生プロジェクトの中でも、そういった方向性も見据えながらいろんな検討をさせていただいていますし、特に、ご承知のとおり、明成高校さんで宇宙白菜ということで、浦戸白菜を一生懸命今やっただけでございます。そこから派生するものもたくさんあるだろうと。例えば、生ガキは名産としてございますし、白菜がある。そうなったら、例えばカキの鍋だって作れるだろうし、僕もびっくりしたのはトウガラシ、下の購買部といったらいいのか、売店でも浦戸のトウガラシと売っているんですよ。単純に考えると、キムチができるんじゃないかとかですね。

ですから、できることと、その先にある長期的な目標をしっかりと考えながら、いろんなことにチャレンジしていったほうがいいだろうなどは考えております。とにかく持続可能的に今住んでいる人を、もちろんなりわいも含めてですね、大切にする。また、その先を考えたら、移り住んでいただく。なりわいを求めて移り住んでいただく皆さんのなりわいをしっかりとつくらないと、当然住みながら生活をしていただくということではできないとも考えておりますので、様々な面から浦戸の再生に向けた取組をしっかりと議論をさせていただきたいと考えております。

○土見委員長 菅原委員。

○菅原委員 ありがとうございます。市長から、移り住んでいただくということでお話もございました。

それで、ちょっと交流人口の増加策として、これもちょっとお話をいただきましたので、紹介させていただきます。一昨年度、危険地域の土地利用ということで、護岸の背後地ですね、市民農園が構成されたわけですがけれども、しかしながら、今になりですね、誰が管理していくのか。また、どのように呼び込むのか。また、その費用はどういったものなのか。耕作放棄地は島全体にあるわけでもございまして、様々な課題が山積みになっているということもお聞きしました。今後、島としてどのように利用していくのか検討していかなければならないということで、島の方も大変悩んでいるわけでもございますけれども、そこで、空き家とか空き地の有効活用はどのようにお考えなのかちょっとお伺いしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 確かに、なりわいとして、次の後継者の住む場所も考えなければいけない中でその空き家、空き地となりますと、やはり、特に寒風沢ですと津波の危険区域とかと

いう条件はございますけれども、やはり大事なのは、その空き家がどのように使えるかというところだと思っています。以前にもお話ししたかと思いますが、今、建設部でも空き家物件の調査を行っている中で、浦戸の一部も調査が進んでいると伺っています。その状態がまずどうなのかという把握をきちんとさせていただく。それで、移り住むことが可能かどうか。それと、その住んでいただくための改修がどういうものかという整理が必要かと思っておりますので、今年度の調査の内容、結果を受けまして、まず、その辺のお使いできるところ、こういったところをきちんと絞っていくとまずはさせていただければと思います。

以上です。

○土見委員長 菅原委員。

○菅原委員 分かりました。大変難しい部分だとは思いますが。

あと、高齢化と健康対策ということで、ちょっとこれも伺いました。島には、寝たきりはいないということとされていますが、いないのではなくて、いられないということでございます。寝たきり状態であれば、島から出なければならぬ、離れていかなければいけないというのが現状であります。健康管理は、地域包括支援センター、ブルーセンターによって、丁寧な対応にやはり島民の方も大変感謝しているということで、ただ、夜ですね、医療の必要性を訴えられておりました。安心して浦戸で暮らしていけるような医療体制の推進とありますが、どのような計画なのかちょっとお聞かせください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 ただいま医療というお話でございましたので、私どもは浦戸診療所の関係でございますけれども、浦戸診療所、ご存じのとおり、今、ドクターが2名ですね。交代で行っていただいております、年間の診療日数は52日間ということでございます。本当に、週に2回程度ということでございますので、平日の昼間も含めて、夜間の問題というのは、これは大きな問題だと思いますけれども、その辺につきましては、浦戸再生プロジェクトの中で、今、やっぱり遠隔医療というものの在り方がどうなのかというあたりについては、これからも掘り下げていかなければならないと思っておりますし、あと、夜間の緊急の搬送ですね。具体的には、救急艇もありますけれども、それ以外の民間の方々への借り上げとかいうのをやっぱりもう少し仕組みとしてしっかりさせていただくことは必要かなと考えております。

○土見委員長 菅原委員。

○菅原委員 これも大変、ちょっと難しい部分があるとは思いますがけれども、ぜひともそれ、切実なるやはり訴えだと思しますので、何かあったら緊急を要する場合というのが大変あると思しますので、そういったことも加味しながら、今後の在り方も考えていただければなと思ひます。

また、もう一人の方からもお話をいただきまして、前回、若手離島振興協議会の副会長をしていた方からちょっとお伺いしたんですけれども、これまで、自然豊かな風光明媚な浦戸のPRをされているわけがございますけれども、行政も交流の人口の増加、住みやすさの印象的な表現を内外にアピールしてきたわけがございます。しかし、この時代、いわゆるオンラインの情報が、発信が大きな課題となっていますけれども、そういった中での浦戸の生きるための方策として、いわゆる限界集落への道、過疎化のですね、歩みにつながる浦戸を、人が住み続ける、ほかから人が移り住み、新たな世界をつくり上げるための模索を今すべきであるということがございます。そういった中で、この先行事例のこともちょっとお話を聞きまして、島根県の手士町に学ぶべきであるということでもちょっと紹介があったんですけれども、これ、紹介してよろしいですか。

○土見委員長 菅原委員に申し上げます。今回、前期基本計画の内容ですので、あまり細かい事業の内容までは、控えていただけるようにお願いします。

○菅原委員 手士町の中でもちょっと参考、意見がございましたけれども、これは後からお話しさせていただきますので、本当に島のことをもうしっかりと捉えてやっている町とか島があるわけございまして、ぜひともその辺も考えながら本市もやっていただきたいなと思ひますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 じゃあ、私からも、主に28番の27ページから、およそですね、最初に31ページのくだりと。それから、資料、資料の関係で出されておりますページで、30ページないし31、32、33ページと、その辺のくだりから、少し今回の長期総合計画の4つの実感プロジェクト、これについてちょっと確認をさせていただきたいと思ひます。

最初に、27ページのところに、4つの実感プロジェクトということで、(1)ですね、示されております。ざっくり言えば、令和4年度から令和8年度の関係でいうと、重要目標の達成値が前期計画目標値として70%となっております。そして、これ、10年後の関係でいうと、

令和13年度までで80%と、こんなお示し方をしています。これは総括的な表なので、それで、それぞれ個別事例と、それからアンケートについて、資料の30ページのところと資料No.28の28ページからちょっとひもときたいと思います。

そこで、一つは、まず28ページ、住みやすい実感プロジェクトということで、ここに基準値が書かれております。令和元年度の基準値が52%、こう示されておって、行く行く27%までということに相なろうかと思えます。あ、57%ね、令和8年度でね。それで、今、示したものの関係でいうと、資料の30ページをちょっと開いていただきたい。これとの比較でちょっと議論をしたいと思えます。そうしますと、(1)ですね、30ページのところで、すみやすさ実感プロジェクトで、先ほど言ったように52%、市民アンケートとして52%がありましたよと、こういう裏づけだと思えますね。前期目標として5ポイント引き上げるといようなお示し方をしておって、行く行く目標値で70%と、こんなふうになっております。そうしますと、隣のページをちょっと開いていただきたいと思えます。そうすると、31ページのところで、その住みやすいと思う市民の割合、すみやすさ実感プロジェクトというのがあって、ここで、それぞれアンケートを取った方々の傾向が一目瞭然で分かるんですね。一つは、(1)として、とても住みやすいというのが6.5%、住みやすいというのが45.9%、合計で52.4%となっております。この52.4%と基準値の52%は、これに照らしてこの基準値を定めたのかどうか。ちょっとその辺の確認だけさせていただきたい。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 資料、今、ご紹介をいただきました。これは28番ですかね。30ページに、4つの実感プロジェクトの目標値の設定根拠ということでお示しさせていただいております。ここにあります基準値、今ご質疑をいただきました。例えば、(1)のすみやすさ実感プロジェクトであれば52%、その根拠資料として、市民アンケートと記載してございます。これは、今ご紹介いただきましたとおり、翌31ページにございます(1)の住みやすいと思う市民の割合、この部分の回答結果の1番と2番の合計52.4%から、おおむねこの数字ということで採用させていただいております。以下、(2)から(4)につきましても同様でございます。31ページ、32ページと、それから33ページまでで、その基準値となります数字を挙げさせていただいている、ご紹介させていただいているところでございます。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 そうしますと、その今回の非常に分かりやすい資料を出していただいたんですが、4つの実感プロジェクトの目標値の設置根拠というのは、つまり、ざぱり言うと、アンケート調査を基に、市民の皆様アンケート調査を基に、そこで、やっぱりそういういろんなテーマがありますけれども、やっぱりその割合が占めたところを根拠に、大体その方向づけを目標値を定めた。こんなふうに捉えてよろしいんですか。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 資料30ページの2番に、表の下ですね、2番の目標値の設定根拠ということで記載させていただいております。こちらにつきましては、前期基本計画の中に、まずは、それぞれ年間1ポイントずつ上昇をさせていきたいということが一つです。5年間で計5ポイントの増を目指していくというのが(1)から(4)まで、それぞれがそれぞれの項目で5ポイントずつ上げていくということを今回は設定させていただいております。その根拠として、市民アンケートを設定させていただいているということでございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。裏づけは、そういうところだということを確認させていただきます。

そこで、今度、各論のアンケートにちょっと移らせていただいて、それぞれ例えば、住みやすさ実感、こっちのほうの28番の28ページで、先ほど前段説明があったように、基準値52%というのは示されていると。それで、こう進めるんだろうと思うんです。一方、あまり住みやすいとは思わないというのが回答結果の中で35.7%、それから、住みにくいというのは5.3%で、合わせて38%。目標は、住みやすいという、そういう指標の52%は何となく分かるんですけれども、一方で、こういった住みやすいとは思わないという、この38%の傾向というのは、具体でどんなふうに捉えていけばいいのか。都市政策に関わる大事なポイントだと思うので、そこら辺の点だけちょっと考えをお聞きしたいなと思います。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 こちらは市民アンケートでございますので、あまりやはり詳細になってしまうと、今度、答えにくいということもございますので、印象としての話ということになります。ただ、住みやすさ、住みにくさという部分につきましては、これまでもいろいろご紹介をいただいておりますように、例えば、坂が多いという印象があると

か、道も狭いというような印象もあるとか。そういった生活上の実感として、その住みやすさ、住みにくさ。一方では、住みやすさという部分では、例えば、駅がこの狭い市域にJRの駅が4つあるとか、そこに対する交通の結節がいいとか。あとは、通勤に便利とか、そういったところが印象としては挙げられているのではないかと思います。そういったところをやはり施策を重ねていくことによりまして、今、3番、4番にあるような、住みにくい、あまり住みやすいとは思わない。こういった方々から、1番、2番のほうに移っていただけるような、印象を持っていただけるような施策を展開していきたいと考えているところでございます。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 ごめんなさい。41%だそうです。失礼しました。あまり住みやすくないとは思わないとか、その3、4、合わせて41%です。失礼しました。

そこで、要するに、こういういい面も、塩竈のいい面もあるし、しかし、改善もしなきゃならないという課題も、この中ではうかがい知ることができると思うんです。これを見ると、例えば、実感プロジェクトとして、住みやすい。28ページのところで、下のほうに、それを具体化する上でのいろんなところが下段のほうに書かれているのかなと思うんです。例えば、良好な住環境、利便性、福祉・医療サービスの充実、生涯学習、協働体制の確立。こういうのが言ってみれば総じて、この住みやすい、住んで住みやすいと思う市民の割合に応える施策なのかどうか。ちょっとその辺だけ確認させてください。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 恐れ入ります。資料のページ等、もう一度。（「28ページの28ページ」の声あり）

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 資料の28ページ、すみよさ実感プロジェクト、数値目標として今ご紹介いただいた下に、住みやすいと思う市民の割合の向上と。先ほどもご説明いたしましたように、住みにくいと、住みやすいとは思わない、そういったところから、住みやすいのほうにシフトしていただく。それがこの向上ということになります。その下にあります、大きく4つの項目を入れさせていただきましたが、おっしゃいますとおり、良好な住環境、利便性の向上から協働体制の確立まで、こういったところの施策を繰り広げること

によりまして、住みやすいという市民の割合を増やしていきたいという考え方になってまいります。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。じゃあ、こういうものが一つの柱になって、一つ一つ、1ポイントずつ引き上げていくというような方向をプロジェクトとしてはたどっていきたいということなんだろうと思うんですね。

あと、もう一つ。その29ページのところで、よろこび実感プロジェクトですか。子育てに満足している割合が、これでいうと38%、29ページのところですね。資料の28番の29ページのところで、38%の基準値があって、行く行くは43%まで引き上げようと。そうすると、これも結構、私もどきっとしたんですけれども、子育ての関係かな。子育てに満足している割合で、よろこび実感プロジェクトで見ますと、どちらかといえば不満であるが40%、40.5%、不満であるというのが17.6%、合計してたしか57.6%となっていて、非常に割合が高いなという感じを見受けられます。そうすると、それはそれで市民の皆様の実感のアンケートですので、そうすると、29ページのところ、資料No.28の29ページのところの子育てに満足している割合の向上は、この4つでよろしいのかどうか。それでいいのかどうか。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 項目としまして、29ページにあるような4項目、大きく挙げさせていただきました。今度はその4つの、今度はといいますか、すみよき実感もそうなんです、その大きい4つの項目の上に丸印で、例えば、丸で「子ども」とか、丸で「福祉」と記載しております。切れ目のない子育て支援という部分のところで、左上に「子ども」ということで丸で囲んでいるところがあります。こちらがどこにつながっていくかといいますと、同じ資料の例えば35ページ以降、今度は8つのまちづくりの方向性という部分につながってまいるんですが、健やかに育つ・育てる環境づくりとなります。その後ろをまためくっていただきまして、36ページ、37ページというところをご覧くださいますと、それぞれの施策の体系のところ、例えば、第1節、「妊娠」から「子育て」までの切れ目のない支援体制の構築というのがございます。36ページです。(1)子どもと子育て世代への支援の充実というところで、それぞれ、それぞれというか、4項目を挙げておりますが、その右端のところ、四角で今度は「よろこび」という表示をしておるのがお分かりいた

だけるかと思えます。

つまり、29ページでいただきました、こういった施策の大きい4つの項目がどこに今度施策の体系でつながってくるかというのが、先ほど申しました36ページ以降のそれぞれの施策体系の説明のところの右端に記載しております「よろこび」とかですね。それぞれ、4つの実感プロジェクトのどこにつながってくる施策になってくるのかということの説明している内容ということになっておりますので、29ページにありますのは、大きな代表的な取組、項目とご理解をいただければと思います。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。ざっくり示したプロジェクトですので、細目はそちらに移っていくということと、改めて、この丸ポチの子供さんの「子ども」と書いているところがどこにつながるのかというのは、おおよそ分かりました。

隣の30ページのところで、やりがい実感プロジェクトということで、これは、産業関係だと思うんですね。これも同様のアンケートの結果も出ていますので、これは、大体おおよそ基準値67%、そして72%かな、ということで示されております。資料でいうと、ちょっと見当たらないので後で確認しますが、これも同じような形で、例えば、下のほうの産業、浦戸、仕事の満足度ですね。産業、産業、浦戸、こういうのも全部リンクして、次のいろんな具体施策の取組につながっていくんでしょうか。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 おっしゃるとおりでございます。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。

あと、最後に、にぎわい実感プロジェクトというのが非常に今までの数値と比べて随分パーセントが低いなど。基準値が9%で、目標値が14%で、これも随分低いもんだなとちょっと思ったんですね。これも、33ページのところのウェブアンケートというんですか、で下のほうに(4)のところの設問があつて9.4%。これがあの9%と捉えていいのかどうか。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 33ページの(4)塩竈に住んでみたいと思う割合とい

うことの今、回答結果、1番のぜひ住みたい、それから、できれば住んでみたい、合計9.4%、これを根拠にしているところがございます。この部分につきましては、上の設問のところを少しご覧いただきたいと思うんですが、対象者が市外居住者ということで、今回の調査をまとめるに当たりまして、ウェブアンケートをさせていただいたところがございます。ですから、これは、今、市内に住んでいる方、塩竈市民の方へのアンケートではなくて、今、市外にお住まいの方で、例えば、塩竈に来たことがあるかないか。また、それは別としまして、あるいは、過去にお住まいになったことがあるかないかもまた別としまして、そういった市外居住者の方に対して、今、印象としてどうかというところのアンケートを取らせていただいた結果ということになります。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 前段のその長期総合計画の都市像ですか、人口想定ということで5万人、大分議論されましたけれども。そうすると、この市外からのアンケート、ウェブアンケートで9.4%というのは、かなり市外の方々が塩竈に抱いているイメージというのは、ちょっと、厳しいのかなと。定住政策の一つの柱になっているわけですね。そうすると、9%の基準値で、それを14%に引き上げていこうというような考え方を示しているんだと思うんです。そうすると、5万人想定に、ここに定住、つまり、定住政策の中でいろんな施策があります。近居同居何とかかんとかと。それだけでいいのかどうか、ちょっとその辺がね。この数字を見ると、市外の方から、塩竈に、ああ、住んでみたいなど、こういう形でつながるのかどうか。この評価、ちょっとお聞きしたいなと思っているんですね。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 市外の方の、居住のそのウェブアンケートの結果は、なかなか厳しいものだと思っております。今、お話が少しあったかと思っておりますけれども、例えば、今、様々なその政策というのは展開させていただいている中で、三世代同居近居でありますとか、そういう形でほかのまちから呼び込んでいくという政策も今実施しております。ただ、やはりそれだけではなかなかというのが今後の大きな課題になろうかと思っておりますので、今後、大事なのが、ほかの例えば教育なり福祉の分野でどういったことがマッチングできるか。そういった事業の連携で、やっぱり塩竈市の魅力を発信していくというような工夫が今から求められてきているということは認識しておりますので、今後の予算編成の中でどのようにできるか、

そういったことを調整していきたいと思います。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 それは、次年度のね、様々な。今日は、それをどう進めるかという上での根拠を議論しているわけですし、あと、様々、実施計画なり施政方針なりに示されてくるので、この辺は今後の施策の中で注視をしていきたいと考えております。

そこで、次の35ページ、それこそ各論になるんですね。そうしますと、36ページから、およそ、それぞれいろんな指標が含まれていて、全体については79ページまで、かなり一定の分量のこういった第1節の体制の構築から始まって、充実というところになっていきます。

「妊娠」から「子育て」までの切れ目のない支援体制の構築、36ページのところに示されておるわけです。そうしますと、先ほど言ったようにプロジェクトがあって、こういうものにしますよというのは、前段の説明の中でありましたので、これは省かせていただきます。

次に、未来を担う子供を育むための学習環境の充実というところにちょっと目を落としていきますと、全体として、個性を生かす学びや協同的な学びの充実というところで、5つぐらいあるんでしょうかね、(1)のところ。これ、総体として捉えた場合、何が言わば、こう個性を生かす学び、協同の充実の一番の眼目は何なのか、ポイントは何なのか。ちょっとその辺、ご回答願えればと思います。

○土見委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 まず、個性を生かす学びというものですけれども、これは、主体的、①の主体的・対話的、ユニバーサルデザイン等になりますけれども。さらに、②の幼保小連携です。これは、特別支援だけじゃなくて、それぞれのもう幼稚園、保育所の段階から、就学前からいろいろな子供たちを見て、一人一人の個性を生かしていくというふうな、特性に応じた対応をしていくというところがございます。

あとは、協同的な学びに関しましては、もうご承知のとおり、学びの共同体を塩竈市で進めていて、それなりの実績等が上がっておりますので、それを継続していくという捉えでおります。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 つまり、今、やっている施策を引き続き継続しながら、この未来を担う子供たちの学習環境充実と。それを一つ一つ、1ポイントずつ引き上げましょと、こんな感じで捉え

てよろしいんですか。

○土見委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 おっしゃるとおりでございます。あと、さらに、それからバージョンアップしていくという捉えでございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。あとは、議論は、さらに深掘りをする方がいらっしゃるようですから、これはお任せをしたいと思います。

次に、健康で安心して暮らせる地域づくりというところで、42ページから43ページのところです、触れられております。総括、総括というか、その前段の高齢者世帯が非常に増えているというところで、皆がですね、皆さんが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実というところで、着目したのはやっぱり③番です。独り暮らし、2人暮らしの高齢者世帯への支援の充実を図るとともに、在宅で介護をする家庭へのきめ細かな支援を継続すると。結構難しいテーマなのかなと。やっぱりこう一人、ご夫婦2人だとか、もう本当に一人だとか、4,000世帯ぐらいあるんですかね、資料を見ると。そうすると、塩竈にとっては、もう一つの少子化対策と同時に、あわせて、どうやってご高齢の方が健康で長生きできる社会、市民社会をつくり出すのかということに相なろうかと思うんですが、介護だけでいいのか、あるいは、在宅の介護だけでいいのか。何が必要なのか。その辺は何かお考えがあるのかどうか、今後の施策を進める上で。その辺、ちょっとお聞きしたいと思います。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 独り暮らし、2人暮らしの方が多くなっている中で、どのような政策を進めていくのか。もちろんこちらに記載している内容につきましては、介護予防という視点でありますけれども、一方では、元気高齢者、いかに健康寿命を長くもって介護にならないかという施策も必要になってくるといった形で考えております。そういった部分では、皆さんが地域で集って、例えばダンベル体操を行ったりとかですね。そういった施策あるいは外出の機会を創出するような施策、そういったものを中心に、さらに展開していきたいというような形で考えているところです。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 そこで、ダンベル体操とか、集っていくとか、非常に大事なことはないかなと、

私もそう思います。

資料の9ページのところで、スポーツチームの種類を示していただいたのかな、そうですね。これ、体育協会さんだけなので、恐らく数に限りがあるのかなと、もっとう体育協会組織に参加していない方々もいらっしゃるんですが、しかし、ここに登録されている数を見ると、やっぱり体育協会さんの組織力はすごいなと。野球から、体操も含めて135チームあるんですね。そして、登録者も3,641名いらっしゃるということです。高齢者の方、独り暮らしあるいは2人暮らしの方の関係で、そういう方々のもう一つの支援として、やっぱりスポーツに参加してもらおうということはどういうことか大事なことだと思うね。私、清水沢のグラウンドのほう、目の前に住んでいるので、うんと実感するんですけども、とにかく朝8時から集まっているんなスポーツをやっていて、ああ、元気だなというのは常々感じているんですね。我々もそうならないように元気な生活を送りたいなと改めて実感しているんですが、言ってみれば、そういう体育協会さんに所属しているチーム以外の様々なスポーツチームの掌握と支援が必要なかなとちょっとふと思ったんですが、その辺は今度の長期総合計画の中でどのような施策として展開をされようとしているのか。ちょっとその辺だけ確認させていただければと思います。

○土見委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 なかなか体育協会に所属していないスポーツのチームというものの把握というのは、なかなか難しいところがございます。今、塩釜ガス体育館に体育協会の事務局を置いて運営しておりますけれども、やはり今後もその体育協会さんを中心に、あとは、生涯学習課と連携して、そのようなチーム、所属していないチームの把握。さらに、ここには、ご高齢の方々のチームとしては、グラウンドゴルフとかパークゴルフとかありますけれども、今後、そのニュースポーツ関係に関しても、体育協会さんとう連携して進めていくことが重要であるかなと考えております。なかなかその体育協会に所属していないチームの把握というのは難しいところがありますけれども、今後、ちょっと体育協会さんと連携して進めていければいいのかなと考えております。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 施策として、これはあくまでも施策の体系ですので、しかし、今後、そういった独り暮らしあるいは2人暮らしの方々の様々なやっぱり関わり、暮らしをしっかりとさせていく上で一つのポイントになるのかなと思いますので、どうぞひとつよろしくお願いをしたいと

思っているところです。

あと、次に、コンパクトな住まいです。49ページのところでちょっと確認をさせていただきたいと思います。それで、49ページのところで、コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成と。一つのポイントになるのは、恐らく（4）の公共交通体系の充実なのではないのかなと思うんです。ここで見ると、バスや事業者と連携、市内4つの駅を起点とした交通体系を充実させる。回遊性を高めるとともに、駅前広場の機能を維持に努めるということなんですが、じゃあ、しからば、ちょっとテーマはアバウトなんですけれども、例えば、その公共交通体系の充実強化という点で、バス、タクシーの事業者との連携というのはどういうことを指すのか。ちょっと確認させてください。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 お答えをさせていただきます。

バス、タクシー事業者の連携ということなんですが、これも現在も当然取り組ませてはいただいているところですが、バスであれば、しおナビバス、NEWしおナビ100円バスというところの運行への支援というのもまずございます。それから、タクシー事業者というのは、ここにありますような例えば駅前広場の機能維持、つまり、駅前広場に集まりやすい。そこを結節点として動き出すということもあるかと思いますが。さらに、今後どのような支援が考えられるのかというのは、やはり具体的に実施計画上とか、そういった問題で我々としては検討をさせていただくということになるかと思いますが、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。そうすると、バス、先ほど言ったタクシー、100円バスかな、NEWしおナビ100円バスの支援ということで、この間、塩竈市も施策としては展開しているので、喜ばしい活動になっているのかなと、施策になっているのかなと思うところです。

ただ、1点、私どもがちょっと懸念というか、心配しているのは、別冊4のところで29ページのところで、前段の第5次長期総合計画ですね、別冊4です。別冊4の資料が手元に行っているかと思いますが。それに基づいて、29ページのところで、ここに市内公共交通体系の充実というのが、第3節、公共交通体系の形成ということで（1）として示されております。そこで、市内15分総合交通体系の充実により利便性の向上ということで前段の施策があった

と、今もやっているんでしょけれどもね。今後に向けた課題として、2段目の段落を見ると、NEWしおナビ100円バスの慢性的な遅れの運行の解消。これは、そのとおりかもしれませんが。もう一つは、ちょっと気になるのは、料金体系も含めた今後の公共交通体系の在り方の検討が必要だと。隣のほうに目を移しますと、必要性は大いにある。重要性も非常に高い、今後も変わらない。こんな表現になっています。今後の方向性ということで、高齢化進展による重要度上昇を見据え、100円バスの運行計画を見直しながら、公共施設による利便性低下を補うと、こんな表現になっています。そうしますと、その今後に向けた課題と今後の方向性と、こう2つあるんですね。これをどんなふうに捉えていけばいいのか。一方で、値上げも検討するのかなと思われると、一方で運行計画見直しだとか、そんなところも含めながら、両方こう、ダブルスタンダードで書かれているような感じがするんでね。どこが本当なのかなというのをちょっと確認したいなと思っていたところです。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 お答えをさせていただきます。

課題として、料金体系も含めた今後の交通体系の在り方という記載をさせていただきました。今回、先般の総務教育常任委員協議会でも100円バス等の今の運営状況ということはご報告をさせていただいたところですが、やはり、特にここコロナ禍以降につきましては、やはり外出控え、そういったものの影響もあるせいか、利用者数というのが2年連続で減っております。今年度、若干上向きになっているところもありますが、まだまだやはり1人当たりの経費というのがかなり高くなっているところがございます。

ただ、先般の9月の決算特別委員会でもご質疑に対してお答えをさせていただきましたとおり、私どもとしましては、まず収入の確保策、こういったものにまず取り組みながら、ここに記載されておりますような事業の継続、必要性、重要性というのは大いにあるし、現在と変わらないということになりますので、これを維持するための方策、こういったものを今後我々としては考えなければならない。その一つがまず収入の確保策ということもありますし、それから、場合によっては、将来的にそれでもやはり負担がかなり大きいと。多分、市民負担ということになりますので、そういったものが多ければ、やはり将来的にそういった料金体系の見直しも含めて、バスの在り方ということを検討しなければならないときが来るかと思えます。そういったところの議論は、今回の調査に基づくものとしても着実に議論していきたいと考えているところがございます。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 ざっくり言うと、今々の話ではなくて、当座、まず収入を確保してバスの維持を引き続き図ると、こんなふうに捉えてよろしいのでしょうか。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 今、ここでそう、イエスということで、当面はないということを申し上げると、それは言質ということになってしまいますので、すみません。そこは避けさせていただきますが、まず、我々の取組としては、やはり最大限の収入確保策、そういったところをまず取り組んでみたいと考えているところであります。

以上でございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 ひとつ、いろんな方策があるかと思しますので、ひとつよろしくお願いをしたいと思っていますところでは。

次に、ちょっと別なほうに目を移していきたいと思うんですが、72ページです。72ページのところで、効率的、効果的、透明性の高い行政運営というのがここに示されております。やっぱり行政運営というのは、やっぱり効率的であり、それから、効果的であり、効率性も求められるんだろうと思います。まして、やっぱり透明性というのは、非常に重要な課題ではないのかなと、こういうふうに痛感をしています。効果的な情報発信と情報共有というのが一つのポイントになっていて、あと、(2)できめ細かな持続可能な行政経営と、(3)で広域的な協力・連携による行政サービスの向上と、こんなふうに示されております。そこで、これをこういう項目であって、特に私どもが見た上で、きめ細かな持続的な行政経営で、①ですね、計画的な財政運営や適正な定員管理、アウトソーシング、デジタル化など行政改革を推進し、持続可能な行政経営に努めると。10年前の関係、第5次長期総合計画に比べると、すごく今本当にいろんな電子機器の発展があって、やはりデジタル化なども相当、当時とは比べ物にならないほど進んでいるかと思えます。

もう一つ、別冊4の65ページのところで(2)、ちょうど真ん中頃ですか、行政、財政運営の構築というところで、例えば、施策として、①厳しい財政状況の中で一般財源の確保と事業の選択と集中。随分これ、私どもも頭の中にこびりつくぐらい教えられたんですね。この辺が一つあって、2は飛ばしてもいいと思うね。次のところに移ると、組織のスリム化を進

めるためのアウトソーシングの推進と。事業の必要性、重要性で、必要性は大いにあると。今後の方向として、アウトソーシングを推し進めていく手法を用いて、市民サービスの向上、行政コスト削減に努めるということで、総括的な、前段の第5次かな、第5次長期総合計画の様々な一定の総括的な中身だと思うんです。

そうすると、こっちのほうの今般示された計画的な財政運営と、それから、前段ですね、前段の市政の下で行った一般財源の確保と事業の選択と集中云々ということと、どのようにそこら辺は捉えていけばいいのか。やっぱり行政は、やっぱり財源がなければ事業を進められませんので、その辺の今後の捉え方について、少し教えていただきたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 やはり財政運営といいますか、市役所の行財政運営全般に関わる根幹をなすやっぱり大きな財源確保だったりとか、そういったものの視点というのは非常に大事だということのお話になります。この第5次長期総合計画については、やはりこれまでやってきた事業と、さらに、磨き上げるというような方向性、必要性をまずうたわせていただいていると。

ただ、今回の第6次長期総合計画のいわゆる72ページになりますと、例えば、手法としてどんなことがあるかという中でのデジタル化の推進の中で、こういった効率が図れるか。やはり財源を上手に市民のサービスに向けるためには、自らの効率性を追求した中で経費を削減していくという手法の中では、どうしてもやはり合致すればアウトソーシングを進めるということ。それから、デジタル化によるルーチン業務の機械化だったりとか、そういったことが今は求められていますし、今すぐにでも必要な分野であるという認識の下に、今回、第6次長期総合計画では、そのようなアウトソーシング、デジタル化という中での行財政の改革、それによつての市民サービス向上のための財源確保をするという考え方で掲載させていただいております。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 たしか施政方針の中でもあった、新たなこの国のデジタル化なども何かたしか標榜されていたように思うんですね。今、実際に、そういったデジタル化に基づいた様々な文書管理だとか、あるいは、そういうものは今実際にどこまでやられているのか、ちょっと教えていただきたいと。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 内部業務の話は、まず、システムとしてかなり導入させていただいておりました、お話しいただきましたように、例えば、財務会計のシステムでありますとか、人事管理でありますとか、そういったものの内部管理のシステムはかなり導入させていただいて、かなり実態状況の把握でありますとか、改善点、必要な点の抽出なども見やすくなっているという状況にはあります。ただ、デジタル化の中心というのは、内部のその業務改革という観点ではなくて、やはりお使いになるサービス、市民のサービスを皆様はどういうふうに簡便性、利便性が向上できるかという視点もございますので、今、そちらの整理を急いで行っているという状況です。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 そうすると、デジタル化というものは、市民の皆様への還元の一つの手法というか、ツールというか、そういうものとして捉えていいのかなと思うんですが、その辺ちょっと。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 私たちで捉えさせていただいていますのは、例えば、電子申請の推進によってワンストップサービスの向上でありますとか、そういった申請手続だったりとかが簡便に済むというようなやり方とか、そういったところでの市民の皆さんのご負担を減らしていくというデジタル化の考え。これは、もう一つ大きな視点です。もう一つが、やはり今お話ししました業務改革につながるものというものの機械化というところ。具体的には、AIとかRPAとか、そういった手法を使った中での業務改革、効率性というものの大きな2つで、視点で、今、捉えさせていただいております。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。およそイメージは捉えたところ。です。

ただ、実際として、その具体的な話として例えば、定員適正化だとか、様々なこれまでね。キャップ制というか、人員の確保とキャップ制があるわけですね。そこら辺の言わば、当然ながら、市民の皆様へのデジタル化での様々なサービスのやり方は、それはそれとして一つあるのかなと思いますが、一方で、やっぱりマンパワーといいますか、職員の皆様のやっぱり人材をどう育てるか。あるいは、災害等が起きたときにやっぱり必要な人材確保という

のは、どうしても欠くことができない。そうすると、今般のその新しい第6次長期総合計画の関係で、そういったものもこう視野に入れつつ、必要な人材確保等についての在り方の今後の考え方、方向づけはどのように捉えていけばいいのか。ちょっと確認させてください。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 もちろん本市においても、職員の定員管理の計画というものはございます。ただ単に減らしていくという時代ではないということも、我々でも認識はさせていただいております。できるだけそのルーチン的なもの、共通的な業務については機械化をしていくというのがまず前提として、これは、都市経営に関わるものということでの定員管理。ただ、一方で、今、お話がありましたように、どうしてもマンパワーとして必要な、対面が必要な例えば福祉分野でありますとか、あと、災害対応というようなところの人員の確保というのは、当然ながら必要かと思えます。そういったところを総合しまして、今、組織の見直しの中でもきちんとした定員管理、正職員、それから会計年度任用職員、そういったところも含めた定員の管理をきちんとしていくという考えで、こちらに掲載させていただいております。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。これは、12月定例会にも行政機構の様々なものも出るようですので、聞いておりますので、そういうところも今後の課題なのかなと捉えていきたいと思えます。

あと、また、その質疑の中で、ちょっと視点を変えて質疑したいと思うんですね。議案資料の29番の8ページのところ、これ、うんと大事な課題だと思うんですね。地球環境問題の深刻化と、これは、やっぱり適切な捉え方だと思います。そこで、例えば、最近でもやっぱり海水温の上昇等によって、塩竈は、やっぱり水産のまちと言われているところですし、それから、浅海漁業等々の様々な施策も行われているというところに相なろうかと思えます。そこで、結論からいうと、要するに脱炭素社会ね、下のほうから2段目のところに循環型社会の形成と、こういうところが示されております。これは、一つの今後の施策、時代の潮流という捉え方の中で示されたものですが、しかし、非常に大事な、この間、COPの会議が行われてその新たな決議も示されて、カーボンニュートラル社会なども目指す方向も政府は打ち出しつつあるとは思えます。ただ、2030年までかな、CO₂を削減しないと、1.5度上昇を抑えないとというのは、どこでも言われております。

そこで、お聞きしたいのは、この間、産業建設常任委員協議会の中で、2050年、CO₂の排

出ゼロの各自治体のゼロ表明というのがちょっと示されたんです。宮城県、気仙沼、富谷、仙台、岩沼と、こういうのが示されておりました。

あわせて、今回資料として求めている中で、資料の5ページのところをちょっと開いていただくと、じゃあ、我が市はどうかなというところで目をちょっと落としたんですね。そして、資料の5ページのところに、脱炭素社会に向けた公共施設の対応と状況ということで資料を提出していただきまして、大変ありがとうございます。そうしますと、我が市の各公共施設のところでいうと、細かくは言いませんけれども、CO₂の削減量が64.91トン、一方で、LED設置導入等でCO₂削減なんか718トンということで、やっぱりこういう市民の様々な暮らしの中でCO₂削減に貢献しているんだなと思うところです。また、自治体の様々な公共施設等々のこういった取組を進めながら、少しでもCO₂削減を果たそうかなということでの対応等々もここには示されているのかなと思うところです。

そこで、何をお聞きしたいかという、せつかくの長期総合計画、長期の総合計画の審議ですので、具体は、ここに示されている方向でよろしいかと思うんですね。さらにこれを加速させると。そうすると、自治体として、やはり脱CO₂削減のやっぱり一つの名のりを上げてもよろしいのではないかと。そうして、やっぱり市民社会全体、企業様ですね、企業、団体のそれぞれのところでのCO₂削減の旗振り役をやっぱり自治体がね、本来は。私は、しなきゃならないやっぱり課題なのではないのかなと思っているんですね。せつかくこういった今後の時代の潮流ということで、第5次長期総合計画の序論のところの文章の中に示されていますので、その辺の今後の捉え方、考え方について、長期総合計画、10年ですから、ちょうど折り合いがいいのかなと思うんですけれども、その辺のちょっと考え方だけ示していただければと思います。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 ただいま伊勢委員からいろいろお話がございましたとおり、まさしくそのとおりだと考えてございます。今回の長期総合計画の中でも、やはり私どもとしましては、こちらの計画でも50ページ等でも触れておりますけれども、脱炭素社会の実現に向けて、市民、事業者と連携を図りながら、地域特性を生かした再生可能エネルギー等の活用について、調査研究を進めますというようにしております。おっしゃるとおり、ゼロカーボンシティの宣言等を近く形づくっていきたいと考えてございますし、2050年のゼロカーボンに向けまして、塩竈市としても、現在、温室効果ガスの排出抑制推進計画ということで、事務事業編と

いうものを今、急ピッチで取りまとめして、年内中に策定予定になっております。これが、まずは行政そのものがどういった形でこういった温室効果ガスを効果的に抑制していくかという計画になりますが、その先には区域施策編というものが想定されておりまして、こちらを策定いたしますと、地域として、事業者、市民の皆様方とともにゼロカーボンを目指すというような取組となってまいります。そういった段階を経て、やはりそういった目標に向かって、先ほど伊勢委員からは旗振り役というお話をいただきましたけれども、そういったものをやはり塩竈市として進めていかなければならない。今日的に、今、本当に市民の方々の意識も高まっておるかと思しますので、そういったものに向けて進めるべきだと考えておるところでございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。せっかくこういうふうな、50ページのところでも循環型社会の形成というタイトルが載っていますので、ぜひこういうものも様々に取り組んでいただければと思います。といいますのは、10年間でいうと、我々、私、今70歳ですから、あと80歳になっちゃうんですね。老いてまた議員やっているのかなんて言われるかもしれないけれども、でも、一番大事なことというのは、私自身の身よりも、やっぱり子供たちなんですね。未来に託すのはやっぱり子供さんですし、やっぱりこう温暖化の中で地球環境が変動する中で、一番危機感を持つのは恐らく10代、20代だと思うんです。だから、やっぱりそういうことも含めて、自治体がそういうことをやっているんだなというのは、やっぱりそういった若い世代の方々への一つの希望にもなりますし。そうした計画というんですか、そういうものをぜひ、自治体として果たすべき役割をこの際しっかり示していただいて、長期総合計画とうまくかみ合っていくような取組をしていただければと思うところです。これは私の所感ですので、ご回答は要りませんので、私の質疑はこれで終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○土見委員長 暫時休憩いたします。再開は11時20分といたします。

午前11時13分 休憩

午前11時20分 再開

○土見委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

質疑を続行いたします。志賀委員。

○志賀委員　じゃあ、私から、資料No.28の27ページです。4つの実感プロジェクトを主体に質疑させていただきます。

まず最初に、重要目標達成指数70%と具体的な数字も出していただきました。とにかくこれを達成できるように、頑張ってくださいなと思っております。

それで、質疑なんですが、まず、すみよさ実感プロジェクトというところで、28ページです。住んでいて心地よく、誇りを持てるまちというタイトルがあり、その下に、具体的に4つですか、住環境の利便性の向上、福祉・医療サービスの充実、生涯学習・生涯スポーツの充実、協働体制の確立ということで書いてあるわけですが、それで、この住環境の利便性の向上というものは、どのような対策を立てれば住民の方にそう感じてもらえるのか。いろいろアンケート等も取っていらっしゃると思いますので、その辺の住みにくいと言われているところから対策等が出てくるのかなと思いますので、ちょっと何を考えているのか教えてください。

○土見委員長　佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長　お答えさせていただきます。

資料28ページ、すみよさ実感プロジェクトのところでは4項目、特に、良好な住環境、利便性の向上ということで、どういうことということになりますが。先ほどもちょっとお答えをさせていただきましたが、この下にといいますか、関連してつながりますところが、例えば、28ページの今ご質疑をいただきました良好な住環境、利便性の向上ということ、その左肩のところに丸印で囲みまして、「生活」あるいは「浦戸諸島」ということでまずさせていただいております。これに関連してまいりますのが同じ資料の48ページ、ここをちょっとお開きいただきたいんですが、こちらは、施策体系ということで、快適に住み続けられるまち、生活の分野というところの施策の体系ということになります。こちらに、基本構想にも挙げております（1）では、市民一人一人の防災・減災意識の向上から（2）地域防災力の強化、あるいは、（3）の犯罪が起りにくいまちづくりの推進、4番の新型感染症の対応。あるいは、さらには、49ページでも同様に、コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成のところでは（1）、（2）、（3）、（4）、こういったところで施策の体系づくりをさせていただいております。こういったことを取り組むことによりまして、今、ご質疑いただきましたような住環境の、良好な住環境や利便性の向上につなげてまいりたいという考え方でございます。

よろしく願いいたします。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 ここを今、見ましたが、現状の、現状を維持する政策ですよ、これ。現状を維持して、向上したと市民に感じてもらえるんですか。そのところをね、この現状をどういふふう改善すれば、市民の方々が、ああ、向上したなど感じてもらえるのかを具体的にやっぱり行動していかないと、5年間あつという間に過ぎてしまうんですよ。だから、そのところをちょっと、考えているのか考えていないのかだけ教えてください。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 今、現状ということでお言葉をいただきましたが、資料の48、49ページ以降、それぞれ全ての8つの体系に共通するんですが、こういったことに取り組みたいということでございます。これを維持するというよりは、さらにそれを上げていこうという。こういった項目を挙げて、向上させることに取り組むという考え方でまずございます。

それから、その具体的にどういうことに取り組みばということにつきましては、今度は、先ほども申しましたが、各部課によります実施計画という部分で、おのおのそのタイトルに基づく事業というのが今度は予算上に示されてきて、それを実施していくと。そういう取組になってまいりますので、それぞれ今度お認めをいただいた後、あるいは、もう今も考えていると思うんですが、各担当でこれを達成するためにはこういった事業をやっていくというところを考えていくという内容になります。

以上でございます。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 ちょっと現状って、私のちょっと言い過ぎかもしれませんが。

この中には、犯罪が起りにくいまちと。それで、LED化ということだって、鎌田議員がずっと、早くやれ、早くやれとお話ししているわけですよ、この議会で。にもかかわらず、なかなかそれがあと何年後に立つのかまだ分からない状況であるというところからすれば、こういったので例えば、5年間にこれを全部LED化にしますとかというような具体的なやっぱり目標を挙げていただければ、あ、こういうことをやってもらえるんだとか、我々ははっきりと分かるわけです。ただ言葉だけで、後で充実します、充実します。何をどう充実するのか分からないんですね、言葉だけでは。充実しますと言うのは簡単だけれども、どうやったら、どう充実していくのかというね。だから、やっぱりそういう一つ一つの事象を捉えて、

このところをこうやりますとかというようなことで取り上げてもらうと、ああ、これで、この5年間の間にやってくれるんだなということになるかと思しますので、そのところをやっぴりもうちょっときめ細かくやっていただければなど。きめ細かくといえ、やっぴり職員の方が一人一人意識を持って、認識して、そういう具体的な策を講じていただければ進みも早いのかなと思いますので、その辺、ひとつよろしく願いいたします。

それで、次に、福祉、医療サービスの充実ということで、その充実という言葉がまたここでも出てくるわけです。29ページです、資料No.28のね。充実という言葉が出てくるんですが、何をどう充実させるのかと。現状から、現状をどう充実させるのかと、どうい変化があつて充実するのかというところが何かちょっと見えていないもんですから、ちょっとその辺についてもお聞きしたいと思ひます。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 具体的な充実、子育て等について、どのように進めていくかという部分につきましては、同じ資料の36ページ、37ページ目等に記載しているところなんです、これまで課題でありました、子供、子育て世代関連の妊娠期から子育てまでに係る全ての子供の健康。あるいは、妊娠された親御さんの相談窓口等をワンストップで行っていく内容をさらにワンステップアップして、今後、親御さんの不安を取り除く。あるいは、安心してこの地域に住んでいただくような内容の事業を今後展開していきたいと思ひております。

また、(2)の働きながら安心して子育てできる環境づくり。これにつきましても、今現在、待機児童、以前はゼロということで推進していたんですが、今現在は発生している状況です。それをいかにゼロにするかというのは、私たちとしては課題ということになっていまして、そういった課題解決のためにどのようなことができるのかといった部分、今後のですね、今の現状、課題を改めて分析しまして、その中で次のステップに行けるような形を進めていきたいと思ひております。

以上です。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 今、いみじくも、部長、課題をと。ですから、やっぴり今何が課題なのかということをお我々に明確にさせていただいて、それで、この5年後にはこの課題を全部クリアしますというようなことをきちんと出していただくと、我々もこう理解しやすいわけです。言葉だけでなくてね。今、こういう課題を抱えています。だから、この課題の解決策としては、こう

いう予算が必要です。だから、予算を認めてくださいというのであれば、我々も、ああ、分かりましたよということになりますけれども、ただ、充実という言葉だけでは、なかなか理解しがたいところがあると。どうしてもこういった文字に表すとそういうことになるんでしようけれども、何かが足りないから充実させなきゃと思っているわけですよ。どういふところが足りないんだと、ここを何とか今ももっとしっかりしたいんだというところを出していただくと、ああ、なるほどなと感じますので、やっぱりこう。こういうものを出すときに、そのただ文言だけではなくてそういうことも、課題を提示して、それをどう解決するかということも出していただければ、我々理解しやすいのかなと思いますので、その点、よろしく願いいたします。

それから、次に、生涯学習・生涯スポーツの充実ということがあるわけですが、その生涯学習、生涯スポーツ、これは年代的には、お年寄りだけに対してのことを言っているのか。どっちかという、市民、公民館の教室とか生涯学習というのは大体お年寄りの方がやっているわけですが、そうじゃなくて、若い人にもそういうことに対応する施策を考えているのか。ちょっとその辺をお聞きしたいと思います。

○土見委員長 鈴木教育部長。

○鈴木教育委員会教育部長 この同じ資料の65ページに詳しく書いてあるんですけど、生涯にわたって楽しく学べる環境づくり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境づくりということで、生涯学習につきましても生涯スポーツにつきましても、若い方からお年寄りまで、そういった学びの場の提供、スポーツをする場の提供を行いながら、生涯学習、生涯スポーツを推進していこうというのが今回の主な考え方でございます。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 ここでも、結局、現状のそういった生涯学習、生涯スポーツに対して、やはり問題点があるのかと思います。問題点がないのに充実できないわけですよ。問題点があるから、その課題を解決することで充実できますよということだと思ふんです。ですから、そういう意味で、その何が課題なのかというところをやっぱりちゃんと浮き彫りにしていただくと、我々理解しやすいのかなと思っております。ですから、そこのところをやっぱり課題として、それが問題意識につながってくると思ふので、そこのところを明確にさせていただいて、ここをこうやりたいと、この5年間でね。ということで示していただければ、ありがたいなと思ふます。

次に、協働体制の確立というところですが、協働体制という、いろんなところで今、協働という言葉が使われていますが、その協働体制の確立というのは、何をどういうふうに行っていくのかちょっと教えていただきたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 協働という考え方は、様々ございまして、やはりパートナーであります市民との協働というのもございます。それから、市民だけではなくて、市内の企業との協働。それから、学、いわゆる大学、学問、そういったところの協働。あるいは、大きな企業の中のいろんな技術的な協働というところとか、様々な分野での連携してやっていくという考え方にしております。

以上です。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 私が一番感じているのは、町内会だと思うんです。活動ね。これがちょっと現在、だんだんだんだん町内会の役員さんの成り手がなくなっている。そういったところから、町内会存続が非常に難しい状況に各地区はなっているのではないかなと思っております。そうしたときに、じゃあ、そこに行政がどう関わり合いを持つのかと、積極的に関わりを持っていかないと、そういった意味では協働というのが崩壊するわけですね。やっぱり町内会というのがあって、町内会長さんがいて、各町内会の要望は行政に伝えてくるというような一つのルートがあるわけですが。そういった機能が失われたときに、やはり塩竈市のその行政のかじ取りというのが行政マンの一方的な思いだけでやられてしまうと、これは住民の要望に即さない方向になっていったりする可能性もあるわけですから、そこをやはり。こういうふうには充実とかなんとかと挙げることは大切なんですけれども、そういうところをやっぱり同じように目標はしっかりと、問題点と目標をしっかりと掲げて取り組んでいただいて、それで、問題点を挙げて、その問題点、例えば5つ挙げたら、5つのうちこの5年間で4つは解決できましたというような報告で、75%を解決しましたというようなことでやっていただくと、我々、非常に分かりやすいのかなと思います。だから、これ、課題というものをやっぱりしっかりと我々に示していただくという。そうすると、それによって取り組むべき問題点分かるわけですから、それに対して、いかに集中して予算を使っていくかということになろうかと思いますが、その辺について、やっぱり検討していただきたいと思います。

それで、次に、29ページのよろこび実感プロジェクトと、子供たちが生き生きしているまちと書いてあるわけですが、子供たちが生き生きしているまちというのは、どこでどういうふうに感じ取れるのか教えてください。

○土見委員長 志賀委員、申し訳ございません。資料番号なんですけれども、28番の29ページですか。生き生きしていると、はい、その先ほどおっしゃった生き生きしているまちというところがどの部分に書いてあるかが。具体的に箇所をお示しいただけると幸いです。

志賀委員、申し訳ございません。もしかして、27ページのよろこび実感プロジェクトの下の部分に書いてある部分でしょうかね。もしそちらで問題なければ、志賀委員、お願いします。志賀委員。

○志賀委員 じゃあ、その27ページのところでもう一遍、もう一回じゃあ質疑をぶり返して、生き生きしているまちとは、どういうこと。子供たちが生き生きしているというのは、どういうところで感じられ、感じられるからそういうふうにするんだということなのか。ちょっとお聞かせください。

○土見委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 子供たちが生き生きしているまちというのは、子供ですけれども、教育委員会管轄の小中学校だけじゃなくて、生まれた子供から高校生とかまでの間がとにかく今いろんな虐待の問題とかいろいろありますけれども、そういうものに福祉、教育の面で一生懸命こう我々が関わって行って、そこで、子供たちを本当に幸せに育てていけるような環境づくり。あとは、学校教育の現場で確かな学力を身につける楽しい学校の推進というところを総合して、こう生き生きという言葉でございます。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 いつも昔の話ばかりして申し訳ないんですけれども、我々子供の頃というのは、学校が休みのときは、町内で子供たちが集まって、かくれんぼをしたり、いろんなことをしたり、あと、缶蹴りしたりと。すると、それだけでも子供たちは生き生きしたんですね。学校は学校で、一応勉強はするものの、放課後も担任の先生とドッジボールをやったりして遊んでいたわけです。そういった触れ合いというのが何か、子供たちの今の住環境にもよるんでしょうけれども、なかなか子供たちが地区で集まって遊ぶということがなくなっている。

それで、私たちの子供の時代は、まだ子供が多かったので、各町内会、地区ごとに野球チー

ムがあったり、バレーボールがあったりドッジボールがあったりというようなことで、一応他地区との交流があったりということで、そういう場があって結構にぎやかにやっていた。だけど、現在、児童数が少なくなったことによって、そういう交流もなかなか場がなくなってきたりですね。子供たちがこう自由闊達に遊べる、交通事故もあるし、遊べる場所が、遊ぶ機会がね、どんどんどんどん減ってきているんじゃないかなと思います。そういった中で、どうやって子供たちが生き生きと遊べるのかということになると、勉強も大事ですけれども、遊ぶことも大事ですし、やっぱり学校の中で、放課後、子供さんたちがどの程度の時間遊んでいられるのか。その辺、ちょっと実態について、教えていただけませんか。

○土見委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 今まで塩竈市で取り組んできたのは、ご承知のとおり、わくわく遊び隊というのが、体育協会に委託して、子供たちの運動活動を各学校でやっている部分でございまして。

今回、この長期総合計画に向けて、生き生きとのところでは、もう既に今年度から動いている部分はあるんですけれども、地域学校協働活動の中で放課後子供教室を第一小学校と杉の入小学校でもう実践しております。その中では、習字や貼り絵、あと校庭で遊ぶ。それを地域の方々に入ってもらって、活動しているというところがございます。杉の入小学校でも同じような活動を放課後、動いているところがございます。なかなか人気があって、全てのお子さんが参加できる今キャパシティーがありますので、そういうところで、若干抽せんとかでやっているところもあるんですけれども。それを来年度以降に向けましては、地域学校協働活動を全部の小学校、あとは、コミュニティ・スクールを全部の小中学校に向けてやっていきますので、その中で、放課後子供教室の放課後の子供たちの活動も進めていくところがございます。さらに、今、塩竈第一小学校では、午前中5時間授業をして、そして、午後、子供たちが活動できる時間を十分取っております。それを利用して、放課後子供教室も十分利用できているところがございます。昔は、本当にそのシステムのところがなくて、我々は自由に遊べたんですけれども、今の環境の子供たちは、やはりそういう場の設定をしてやるのが放課後の子供の活動の保障の場になっていくのかという捉えでございまして。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 その放課後子供教室の指導者の方は、やっぱり男性の方、女性の方、両方いらっしゃるのか。その辺はどうなんですか。

○土見委員長 鈴木生涯学習課長。

○鈴木教育委員会教育部生涯学習課長兼生涯学習センター館長 ただいま第一小学校と、あと杉の入小学校で行っている放課後子供教室の先生方につきましては、女性の先生方に担っていただいているところが大きいです。ボランティアの方々についても入っていただいているんですけども、こちらは地域の方々ですので、男性、女性問わずに入っていただいているというのが現状です。

以上になります。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 多分、女性だけだと、体力的に子供さんと遊ぶのはもたないと思うんです。ですから、やっぱり子供さんたちが体力をつけるためにも、それに補えるようなやっぱり体力のある方にたまに入っていただくというようなことも、やっぱり体力増強のアップの手助けになると思っていますので、そしてまた、男の人、大人に触れることによって、また、いろいろ指導されて大人になっていく可能性もありますので、そういうところも実験的に取り組まれたらいかがなのかなと思います。検討してみてください。

次に、塩竈らしい特色ある教育ということで、よくこう役所では塩竈らしいという言葉が好きなので出てくるんですけども、その塩竈らしい、この教育の面で塩竈らしさというのは何なのか。そこのところをちょっと教えていただけますか。

○土見委員長 志賀委員、確認ですが、場所は28番の29ページ、分かりました。

じゃあ、吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 資料No.28の37ページに、その塩竈らしいところの学習環境の充実というところで挙げておきました。塩竈らしい学習環境、学習というのは、やはりこれまで小中一貫教育、塩竈独自の小中一貫教育の中で進めておりました小学校と中学校の連携、児童生徒だけじゃなくて教員がというところ。あとは、やはり学びの共同体、これは、県内でも塩竈とか富谷だけでやっている授業形態でございますので、それをきちっと継続していくというところがございます。

そして、さらにバージョンアップしていくことは、今年からもそれも進めておるんですけども、小中の、中学校の英語の先生が小学校に行つてというのは、県の教員の加配をもらった塩竈独自の形の加配体系でございます。それをやっているのは、宮城県では塩竈市と大崎市の一部の学区、中学校区でやっているだけで、そういう加配をもらって塩竈の独自のそ

ういう小中の連携、あとは、学びの共同体。この辺をさらに進めていくという考えであります。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 一応、その小中一貫教育、出てくるのは分かっていたけれども、先日、あのときに、子供たちに要するに郷土愛云々かんぬん育成するというようなこともありました。だけど、ここでやっぱりその郷土愛を育成するためには何が必要なのかなと私ふと考えたときに、やっぱり塩竈の歴史、そういったものをやっぱり教える場が必要なのではないかなと。もっと言えば、例えば、塩竈学ぐらいね。それで、塩竈の古い地図の変遷を見せたり、それからあと、いろいろ歴史上の人物の、塩竈に関わりある歴史上の人物がどういった立場で塩竈に協力してくれたとか。そういったことをやっぱり学べる時間を持つことも必要なんではないかなと。小学校は小学校で、ある学年に達したときにそれを教え、小学生向けに教えるのと。中学生は中学生で、ある時間にそういったものを教えていくというようなね。やっぱりそれこそほかにはない、そういうことを教えていくことによって、郷土愛が芽生えてくるでしょうし、塩竈の歴史を知ることによって、やっぱりそこに、歴史というものに興味を持つてくる。

それで、鹽竈神社がなぜ塩竈にあるのかと、単純に考えているでしょう。鹽竈神社でご神体は何なのかと、その神様はどこから来ているんだというぐらいのことをやっぱり基本的にね。私も偉そうなこと言うけれども、知らないですよ。鹽土老翁神というのは分かっているけれども、あと、香取神宮は、要するにあっちの茨城県の香取からこっちへ分社で来ているということは分かりますけれども、そういったいわく、因縁というものをひもとくことによって、子供たちもその自分の郷土に興味を持つのかなと。それと、塩竈市内には、ちっちゃなお社がいっぱいあります。そのちっちゃなお社も、それぞれいわく、因縁があって建っているわけですから、そういったものもやはりこう一つの絵にまとめて、勉強できるような仕組みづくりもね。それが今度は、それが観光ガイドにも使えてくるようになるかと思えます。そういったところをやっぱりこうひとつ編さんしていくのも、教育委員会として取り組まれたらいかがなのかなと思えますけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

○土見委員長 吉木教育長。

○吉木教育委員会教育長 塩竈に住んでその郷土愛を持つということで、大変大切なことだと思います。今、わたしたちのしおがまの中に、その塩竈の歴史の部分も入っております。それ

は、小学校3年生、4年生が地域学習の中で学ぶところがございます。社会科の中でというところがございますけれども、やはりそういう部分とか、あとは、総合的な学習とかですね。あと、小学校ですと、生活科の中で地域探検がありますので、そういうところで学ぶ。その郷土愛を培う、学んでいけるような場の設定というのは、あるかなと思います。

今現在、カリキュラム・マネジメントとあって、教科横断的な部分でその計画を組んでやっていくようなシステムに新しい学習指導要領ではなっておりますので、その社会科だけに特化した、総合的な学習の中だけで特化しただけでなく、いろんな教科の中でその郷土愛を育む資料という、題材にする部分というのは取れていくかなと思います。その辺に関しては、今後、校長会等でもいろいろ研究して進めていければいいかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 取り組んできたということで、私もその中身はよく存じ上げないんであれですけども、例えば、支倉常長の時代に、塩竈で津太夫という人がヨーロッパまで行っているわけです。こういった人は、民間の人が物語を新聞に載せていたりね。そういう埋もれたものもあったりするわけで、もうちょっとこうね。あと、ラッコ船で、ラッコ船が遭難して、アラスカのシトカというまちでその遭難して亡くなった方の100周年事業をやっているとか、そういうこともあったり。そういうことに関わり合いをもうちょっと教えていくことによって、いろんな外にも目を向けたり、内に目を向けたりというようなことが出てくると思っていますので、あと、地元の昔話ですかね。お稲荷さんの何か昔話もあるようですから、そういうことも、

○土見委員長 志賀委員、具体的な内容は、また後ほどお願いいたします。

○志賀委員 分かりました。一応そういうことで、検討ください。

次に、文化、スポーツの振興による人材育成ということですけども、これはどういうことを目指しているのか教えてください。

○土見委員長 鈴木教育部長。

○鈴木教育委員会教育部長 お答えいたします。

同じこの資料の66ページに、芸術、文化、スポーツなどにおける人材育成ということでまとめております。芸術や文化に触れることによりまして、子供たちの育成を図っていくところが目標でございます。ネーミングライツで、体育館でネーミングライツを使ったお金を使っ

て一流アスリートをお呼びして、子供たちに見ていただくとか。美術館等の活動とかも、そういうことも含めまして、子供たちのそういった活動の場を増やしていきたいと思っています。

この間、第二小学校でやった壁画プロジェクト、あのアーティストの方が第二小学校で美術の授業といたしますか、その辺も教えていただいて、本物のアーティストの創造力といたしますか、そういったのに触れる機会もありましたので、今後ともそういった機会をつくりながら、子供たちのこう育成を図っていききたいとも考えております。

よろしく願いいたします。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 その中で、優秀なアスリートを養成するなんていうものは入らないんですか。

○土見委員長 鈴木教育部長。

○鈴木教育委員会教育部長 そういったことも含めていろいろ担当を含めて、今後、どういったのが効果的なのか考えながら、事業を進めてまいりたいと思います。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 指導者によってアスリートというのは成長しますので、その辺も一応検討項目ということをお願いしたいと思います。

次に、同じ資料No.の30ページ、やりがい実感プロジェクト。地域特性を生かしたということが書いてあるんですが、27ページの下の方に、やりがい実感プロジェクト、地域特性を生かしたやりがいのあるとか、書いてありますけれども、その地域特性というものは、どういものが塩竈市の地域特性と捉えているのか教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 塩竈の地域特性ということでございますけれども、やはり地政学的に海に面して、古くから水産業、水産加工業で栄えてきた食のまち。あるいは、歴史、文化、神社等の門前町、歴史に育まれたまち。さらには、風光明媚な松島の一部をなす浦戸諸島とかを抱えているまち。さらには、大消費地仙台市に近いということも、一つの特性と考えております。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 ありがとうございます。

それで、次に、塩竈らしさを生かした産業の活力づくりというタイトルがあるわけですけれ

ども、これは、具体的にどのような方法で活力を生み出すことを考えているのか。もし何か
考えがあるのであれば教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 ただいま申し上げました特性を生かしたところが塩竈らしさという
ところとリンクしてまいります。やはり、申すまでもなく、水産業と水産加工業というもの
が基幹産業でございますので、こういったところをやはり生かした。あるいは、これは、今、
大変厳しい状況にありますけれども、こういったところに再び活力を取り戻すということで、
産業の活力をつくっていく必要があると思っております。

なかなかこれは難しいことだとは思いますが、やはり産業、水産業であれば、今、ま
き網のサバですとか、冷凍カツオ一本釣り船については、背後の冷凍庫とかができてこれか
らも多少期待はできると思っておりますけれども、やはりこれから産地間競争を勝ち抜いていくた
めには、なかなかほかの産地と船の奪い合いということは難しい状況はあると思えます。し
かしながら、塩竈市は、マザーポートといえますか、塩竈市船籍の船というのが沖合底引き
網船ですとか、あるいは、冷凍マグロ船がございますので、そういったところについては、
これは一朝一夕にはいきませんが、いずれ塩竈でも一定程度水揚げできるような流れ
というものもこれからはつくっていく必要があるのではないかと考えておりますし。また、
いろいろな業界の方々から聞きますと、やはりつくり育てる漁業についてもかじ取りしてい
く必要があるんじゃないかともいただいておりますので、そういったことについてもこれか
ら進めていかなければならないかなと考えております。

あと、水産加工についても、やはり原材料の加工ですとか、働き手の確保。これもなかなか
難しい問題ありますけれども、そういったところは様々情報交換しながら、あるいは、技能
実習生等については、いろいろ特定技能等で新しい動きなんかもありますので、そういった
ところで、塩竈で働いていただけるような、外国人の方々にも選んでいただけるようなまち
づくりというの、ひとつ大事になってくるのかなと考えております。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 分かりました。

それで、ここに11月5日の日付で長期総合計画特別委員会資料というのがあるんですが、資
料No.振っていないやつね。これの6ページに、水産品出荷額についてということで、平成22
年から令和元年度まで書いてあります。これをちょっと見ますと、下のくくりの中で、練り

製品が平成22年は200億円あったものが令和元年では97億円まで減っているという状況がある。それと、冷凍加工品、これが平成22年に187億円あったものが148億円まで減っているという、塩竈市では主な水産業の業種なんですけれども、こういったところを見ると本当に大変な状況だなど。令和元年の場合は、新型コロナという問題もあって、その落ち込みに拍車をかけているような感じはするわけなんですけれども。

震災後、平成23年に震災があつて、震災後はちょっと落ち込んだものの、ほかの産地が仕事ができないがために、塩竈にそういった意味では借りるというんですかね、需要が大分回ってきたというところで、平成23年度も結構水産加工業者の方は忙しく仕事をされていたわけですが。近年は、そういった状況もすっかりなくなって、原料面、原料高の製品安という中になって、やっぱり本当に真剣に業界と行政が力を合わせて考えていかないと、この状況を脱出できないんじゃないかなと危惧しております。

ですから、こういったその振興という面でも、その従来どおりのことをこなすのではなく、新たな策を巡らして考えていかないと、なかなか打開ができないのではないのかなと私は思っているわけです。ですから、今ここで新しい策を考えろと言っても出てこないと思いますけれども、まず、業界の人と議論して、何が業界で足りないのかということをおね、やっぱりそれをどうやって行政がバックアップできるのかというところをひとつ探り出していただければなど。そうしないと、このまま塩竈の水産業が駄目になっていってしまうかもしれませんので、ぜひそのところをお願いしたいと思います。それで、この第6次長期総合計画で、5年後には、ああ、ちょっと元気になったねと言えるような状況を構築していただければなどと思いますので、よろしくをお願いします。

次に、この同じところで、商業の活性化という点です。同じ30ページ、やりがい実感プロジェクトの中に商業の活性化と書いてありますよね。その活性化というのは、どういうふうなことを具体的に考えていらっしゃるのか教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 やはり商業の活性化については、まずは、先ほど言ったように水産業とか水産加工業。いわゆる市域外から、外貨というとおかしいですけども、そういったものを稼いでくる力をつけるということがまず第一義的にあると思います。そういったところがお金を稼いでくれることによって、やはりまちにお金が還流する、まちで買物をするということにつながってくるんじゃないかと思います。

ただ、そうはいつでも、まちの個店自体に魅力がなければ、そういうふうにはならないで、例えば利府とか多賀城に行ってしまうので、やはり個店の魅力を創造するような取組ということは、やはり地道に続けていかなければならないと思っております。

また、前もお話ししました門前町としての形づくりを改めて再構築していかなければ、そういった魅力も高まらないのかと思いますので、やはりそういった門前町の活性化事業みたいなことで力をつけていきたいと考えております。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 かつては、近隣から本町に皆さん買物に来たと、それで、水産業界も景気よかったので、みんな買物したと。そういったことで、商工業界も潤っていたと。ところが、今や水産加工業界も一時期の半分以上に出荷額、生産額が落ちているわけですから、なかなか飲んで歩くこともあまりいなくなると、昔に比べて人もね。だから、そういったこともあって、商業界にもなかなか水産業界の金が下りにくくなった状況であるということ。それに鑑みて、人口減、それから、旅行者が新型コロナで全く落ち込んできているというところで、非常に大変厳しい状況、同じように厳しい状況にあらうかと思えます。

ただ、それを乗り切るためには、今、部長おっしゃったように、門前町としていかに生き残るかということですね。そこを具体的にどうやっていくべきかということをやっぱり出して、そこで、それに向かってやっぱり進んでいくということをしていただきたいなと思えます。ただ、言葉だけで活性化、活性化と言ってお供えして、5年間過ぎちゃって、5年後も何もなかったですねというんでは、あまりにも寂しいので、この第6次長期総合計画、ぜひとも何かしら実のなるように。ヤマブキの花は、花が咲いても実はならないんですけれども、ほかの花はみんな実がなりますので、ぜひヤマブキの花にならないように頑張ってくださいと思います。

それと、次に、同じやりがい実感プロジェクトの中で、快適で魅力のある雇用環境の創出と書いてあるんですね。快適で魅力のある雇用環境はどういうことを言っているのか、ちょっと教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 これは、やはり働いてみたい、そういったことに尽きるかと思えます。やはり塩竈市というところは、仙台からも近いですし、比較的今いろんな意味で物件が安いというような状況もありますので、まず、起業しやすさというのが一方あるんじゃないかなと

思っております。若い方々中心にですね、物件が安く仲間がいて、ある意味行政でサポートして、起業していただきたいというのがまず一つございます。

それと、企業誘致については、これまでも団地等がなかなかないという中で、今、手をこまねいてきたというのがあるかと思えますけれども、やはりこれからは、塩竈は、例えば3,000平米を超えるような土地というのが、今ですと民間の土地になりますけれども8か所ぐらいございます。そういったところをフォーカスして、そういった3,000平米以上ある土地について、地権者の方々の意向ですとか、そのエリアの特性ですとか。それで、そういったものについては、どういうふうに活用させていきたいかという地権者の思いなどを具体的個別に聞いて、やはり個別の支援策みたいなのを講じていくことによって、1つでも2つでもそういった企業誘致できて、そこで、今までの産業とまたちょっと違った産業等が来れば、若い人も含めた雇用環境が生まれるのかなと思っておりますので、そういったことをこう目指していければなと考えております。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 この快適で魅力のあるというのは、例えば、水産業を取ると、低賃金で皆さん働いていて、というのは、それだけのものが払えない経営状況なので、すると、なかなかその快適で魅力のあるところまでいかないのではないかなと。やっぱりそういったところから業界全体が脱却していかないと、そういう業態にはちょっと変化ができない。そのためには何が必要なのかということだと、やっぱり生産性の効率というんですかね。省力化、ロボット化の導入、そういったものが必要になってくる。そのときに、国の補助金がどのようなものがあるかというような、補助金制度をやっぱり行政側がその業界の人たちに、こういったものありますよということで提案していただくということが非常に大事なことなのかなと思うんです。というのは、業界の皆さん、そこまで頭というか、回っていかないんですね。ああいった制度というのは面倒くさいので、ですから、そういうアドバイスを役所の方々にしていただくことによって、少しでも取り組んでもらえるような形になるのではないかなと思いますので、ぜひそういう情報を業界の方に提供していただくという役を担っていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 おっしゃるとおり、いわゆるご用聞きではないですけれども、やはり頻回にそういった方々のところのお話を聞きながら、ああ、であればこういった制度ありますよ

ということで提供できるように、これ、進めていきたいと思いを。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 ぜひ、この5年間でそういうものが何件情報を提供して、何件実を結んだというくらいの発表できるように、お願いしたいと思いを。

次に、同じ資料No.で31ページのにぎわい実感プロジェクトと、様々な人たちとつながり、にぎわいのあるまちということで書いてある、サブタイトルを見ると書いてあるわけですがけれども、個性の磨き上げによる魅力の向上と書いてあるね。個性とは何なのか、どこにどういう個性があるのかということをお聞きしたいと思いを。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 塩竈市の個性ということになりますが、ただいま小山産業環境部長からも答弁に一部ございましたが、やはり塩竈が持っている魅力、海でありますとか、神社もそうです。様々な観光資源。あるいは、まちでそこかしこにあるような文化的なもの。こういったものは、全て塩竈のやはり個性だと思います。こういったものがつながり合って塩竈の魅力が形成されていると思いをするので、こういったところはさらに皆さんに知っていただくような努力。これもひとつ磨き上げの一部かと思いをするので、そういったところに力を入れていながら、様々な人にご理解いただく、見ていただく、訪れていただく。そういったところにつなげていきたいという考え方でございます。

以上でございます。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 個性もいっぱい、今、政策調整監のお話だとあります。だったら、その個性を列挙して、それで、このうち、この5年間でこれとこれとこれは、こういうふうに上げていきたいというようなやっぱりこう指標をね。具体的な指標をちょっと我々に示していただきたいと思いをするので、ぜひお願いします。

次に、移住定住支援施策の充実というのは、これはもう今までも語り尽くされたことであって、結局、自前の財源ではなかなか塩竈市で取り組めないというジレンマがあるわけですね。ですがけれども、そこを乗り越えていかないと、やっぱりその自治体間の競争には勝てないというところでもありますので、ここについては、やはり自主財源をどう捻出するかというところで成否がかかってくると思いをするので、その財源の捻出方をしっかりと考えていただければと思いを。

次に、同じにぎわい実感プロジェクトの中で、協働・共創による地域活力の向上とあります。この協働は先ほど質疑しましたので、今度、共創というのはどういう意味なのか、どういうものをイメージしているのか教えていただいて、その地域活力の向上がこれがどういうふうに結びつくのかをちょっと、考え方を教えてください。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 協働という考え方というのは、あるものを一緒にやってみようという考え方になろうかと思えます。共創になりますと、そのそれぞれの互いの利害関係者というものに共通するものを同時につくり上げていくという形になろうかなというのが共創かと理解しております。したがって、今から民間の皆様とは、いろんなその課題、お互いにプラスになるもの、お互いの利益になるもの。利益というのは、企業さんであれば、当然収益の増もあれば、あるいは、その企業のイメージアップというのもあろうかと思えます。本市にとってみれば市民の皆様のサービス向上というのが、一緒にこうマッチングしたものがどういうものかというものを一緒につくり上げていく。これからの考え方は、それが民間との共創という考え方になろうかと理解しております。

以上です。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 まちづくりというか、空き家の活用の中で、その起業家を募集して空き家の補助金を出すということはやっているわけですがけれども、新しく起業をしようという方々に対するその補助制度というんですかね。というものが塩竈市の中に、ちょっと私、あったかないか記憶していないんですけれども、例えばそういうものも、起業家を、起業する方をバックアップするという仕組みがないと、なかなかその起業する人が難しい、自前だけでは難しい状況もありますので、そういったことまで考えていらっしゃるのか、いらっしゃらないのか。ちょっと教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 私ども、塩竈市内に店舗を開いていただく場合には、いわゆるシャッターオープン事業ということでの資金面での援助ということで、起業を後押しできるという仕組みもございます。

あと、商工会議所さんで、起業経営相談とかですね。あるいは、商人塾、あるいは、そういった起業のカリキュラムというものがあつたりしますので、そういったものが塩竈市で持つ

ているそういう制度かと思えます。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 その際、開業資金の、それは補助金とかというのものあるんですか。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 開業資金については、やっぱり融資制度が主でございます。

補助制度ですと、そのシャッターオープン事業等については、補助制度があります。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 起業のサポートについては、やっぱり各自治体でいろいろ取り組んでいるところがありますので、そういうところを参考にして、何が塩竈市に必要なのかというところを考えていただいて、そういうサポートをやっぱり塩竈市がしていくという気構えを持って、少し検討をしていただきたいと思います。

以上で私の質疑を終わります。

○土見委員長 暫時休憩いたします。再開は午後1時15分といたします。

午後0時10分 休憩

午後1時15分 再開

○小高副委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

質疑を続行いたします。ございませんか。（「なし」の声あり）

それでは、お諮りをいたします。本日はこれで会議を閉じ、11月30日午前10時より再開をいたしまして、前期基本計画についての質疑を続行いたしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小高副委員長 ご異議なしと認め、さよう決定いたしました。

本日の会議はこれで終了いたします。

お疲れさまでした。

午後1時16分 閉会

塩竈市議会委員会条例第29条第1項の規定によりここに署名する。

塩竈市長期総合計画特別委員会委員長 土 見 大 介

令和3年11月30日（火曜日）

塩竈市長期総合計画特別委員会会議録

（第5日目）

塩竈市長期総合計画特別委員会第5日目

令和3年11月30日（火曜日）午前10時00分開会

出席委員（18名）

阿部 眞 喜 委員	西村 勝 男 委員
阿部 かほる 委員	小野 幸 男 委員
菅原 善 幸 委員	浅野 敏 江 委員
今野 恭 一 委員	山本 進 委員
伊藤 博 章 委員	香取 嗣 雄 委員
志子田 吉 晃 委員	鎌田 礼 二 委員
伊勢 由 典 委員	小高 洋 委員
辻畑 めぐみ 委員	曾我 ミ ヨ 委員
土見 大 介 委員	志賀 勝 利 委員

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

市長 佐藤 光 樹	副市長 佐藤 洋 生
市民総務部長 荒井 敏 明	健康福祉部長 小林 正 人
産業環境部長 小山 浩 幸	建設部長 相澤 和 弘
市立病院事務部長 本多 裕 之	水道部長 鈴木 宏 徳
市民総務部 政策調整監 兼政策課長 佐藤 俊 幸	市民総務部 危機管理監 井上 靖 浩
健康福祉部次長 兼子育て支援課長 小倉 知 美	市民総務部 総務課長 鈴木 康 弘
市民総務部 財政課長 高橋 数 馬	健康福祉部 長寿社会課長 中村 成 子
産業環境部 水産振興課長 鈴木 陸奥男	産業環境部 商工港湾課長 伊東 英 二
産業環境部 観光交流課長 布施 由貴子	教育委員会 教 育 会 長 吉 木 修

教育委員会
教育部長 鈴木康則

教育委員会教育部
学校教育課長 白鳥武

教育委員会教育部
生涯学習課長
兼生涯学習センター館長 鈴木和賀子

事務局出席職員氏名

事務局長 川村 淳

議事調査係長 石垣 聡

議事調査係主査 工藤 聡美

議事調査係主査 工藤 貴裕

会議に付した事件

付議議案について

- ・議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて

午前10時00分 開会

○土見委員長 おはようございます。

ただいまから塩竈市長期総合計画特別委員会を開会いたします。

出席者の皆様に申し上げます。本日の会議は、過日作成いたしました新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた塩竈市議会運営指針に記載のとおり、感染症対策を行い開催してまいります。

発言の際もマスクを着用したままで結構でございますので、ご案内申し上げます。

また、体調管理の観点から水分補給を行うための飲料の持込みを許可しておりますので、ご案内申し上げます。

本日の審査の議題は、閉会中の継続審査となっております議案第64号第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについての1件であります。

これより議事に入ります。

本日は、前回に引き続き前期基本計画についての質疑を行います。ご発言の一人の持ち時間は、答弁を含めて6分とさせていただきますので、ご協力のほど、お願いいたします。

なお、質疑の際には、資料番号及び該当ページをお示しの上、ご発言くださるようお願いいたします。

それでは質疑に入ります。浅野委員。

○浅野委員 おはようございます。

それでは、私からも第6次塩竈市長期総合計画の前期計画について、お尋ねいたします。

資料は、資料28の20ページをお願いいたします。

この中で、計画の推進についてということで今回お尋ねしたいと思っておりますが、この計画の推進については、SDGsや地方創生、それから市民の視点を取り入れるのが重要だと述べられており、前期基本計画には、基本構想で定める8つのまちづくりの目標に基づく具体的施策としてとともに、それらを横断的な視点で機動的に取り組むしおがま未来創生プロジェクトを定め、海と社に育まれる楽しい塩竈の都市像の実現を目指しますとあります。次のページのしおがま未来創生プロジェクトは、その原動力だとありますが、このプロジェクトについて、もう少し具体的にお聞かせ願いたいと思います。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 お答えさせていただきます。

今、資料としてご指摘をいただきました28の20ページ並びに21ページということで、特にしおがま未来創生プロジェクトについては、21ページに記載させていただいております。こちらにつきましては、21ページの説明文の最後の段落、さらに、のところからということになります。今回、このしおがま未来創生プロジェクトは、本市の第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略という位置づけを行いまして、この人口減少克服、あとは持続可能なまちづくりに向けた取組を進めるという内容としております。長期総合計画との並列と申しますか、そのような形でこのしおがま未来創生プロジェクトを進めることによって、長期総合計画の実現にも、並列という言葉がいいのかどうかあれですけれども、共に取り組んでまいるということになっています。特に、プロジェクトについては、資料として提出しております市民の皆様にご覧いただきました「塩竈らしい100の暮らし」からのイメージ、こういったものと、それから国のまち・ひと・しごとの総合戦略、こういったものの改定版、こういったところの基本目標を組み合わせているということで、塩竈市の楽しい暮らしに直結する住みよさ、喜び、やりがい、にぎわい、こういったところを実感していただき、実現していくための原動力としたいという流れでございます。

以上でございます。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 ありがとうございます。

特に20ページの下の方を見ますと、「SDGs」、「100の暮らし」、「地方創生」、こういったものは一つにしおがま未来創生プロジェクトの中でまとめて、まとめてというかそこが一括した場所になっていて、その上で未来図を築くというこの図柄から想像はできますが、当然そういった意味では、このしおがま未来創生プロジェクトというのは、この第6次長期総合計画の肝であると。特に、ここが一番重要な関わりのある部分だと思いますので、今部長のご説明にもありましたが、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略、そこと一体化といいますか、並列というか、共にそこに部門を置いてというようなお話でございましたが、であれば、もちろんトップであるのは市長であると思いますが、この各部門、今各手足となっている部分は各課に様々な課題があって、そこから吸い上げていくと思うんですが、やはりこのプロジェクトと名のつく限りは、組織的にこういった形を想像されているのか。また、計画をして来年の4月からこれが実際動き出すわけですので、そういった意味で組織的な流れというものは、具体的にはこういった構想があるかお聞かせ願いたいと思います。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 今回のプロジェクトという言葉からしますと、今委員おっしゃられましたような組織的なものということにもつながるかと思うんですが、今の資料の27ページをちょっとご覧いただきたいと存じますが、こちらしおがま未来創生プロジェクトの4つの実感プロジェクトということで記載しております。今回この体系図にございますように、プロジェクトとしては住みよさ実感、喜び実感、やりがい実感、にぎわい実感ということで4つ押さえさせていただいております。こういったところを、目標を達成することによりまして、最終的には塩竈への愛着、誇りの醸成、こういったところを目標値に近づけていこうという取組になります。

この具体的なプロジェクトということになります、続きまして資料、例えば、同じ資料の36ページをご覧いただきたいと存じます。

こちらは、まちづくりの目標と方向性に基づく施策という部分の、子どもたちの笑い声があふれるまち、子供の分野についてのそれぞれの施策ということになります。36ページをご覧いただきますと、一番上のところには、第1節、「妊娠」から「子育て」までの切れ目のない支援体制の構築とありますが、その次に、(1)子供と子育て世代への支援の充実ということで、ここに1から4までその施策というものを提案させていただいています。そこに、横のところは四角丸で喜びという囲んだところをご覧いただけるかと思います。子育て世代包括支援センター「にこサポ」などを中心としてという欄のところの右側のところに、四角書きで喜びということに記載しております。これは、この施策が先ほど申しました喜び実感プロジェクトの事業の一つであるというような流れをつくらせていただいているところがございます。以下、各章において同じような表現をさせていただきまして、ただいまの4つのプロジェクトにつながる施策ということに記載させていただいているところがございます。これを組織的には、既存組織もそうですし、あと今後、来春に向けまして、新しい組織構成というのも塩竈市としては今提案の準備をさせていただいているところがございますので、そういったところは12月定例会等で、また、ご相談をさせていただくというような考え方でおるところでございます。

以上です。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 ありがとうございます。

ぜひ、スムーズにこの流れが末端まで行って、また、それが血液のように上がってきて心臓であるこのところから、また、発信するというふうに循環がよいような組織づくりをぜひお願いしたいと思っております。

もう1点ですが、では27ページになります。27ページの今部長がおっしゃっていただいたこのプロジェクト、4つの実感プロジェクトについて、その下に体系図があります。その中の重要目標達成指標（KGI）というのがありまして、基準である令和元年を、例えば、65%とすると前期計画の目標値が70%だというふうに具体的な数字が上がっておりますが、この数値の根拠、また、具体例を挙げてご説明願いたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 お答えさせていただきます。

まず前期計画期間中に、例えば……。すみません。KGIのところと70%という部分でのご質問ということでよろしいわけですね。基準としましては、令和元年度65%、こちらアンケートの部分でベースとさせていただいているところでございます。これを前期基本計画の期間、5年ということで今考えておりますので、これを年1%ずつ平均すれば上げていって、前期基本計画終了時につきましては70%、これを目指していくというのが一応根拠として定めさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 年間2%ずつ上げていくと、1%。その数値の目標ということは、今回は基本となるのは市民のアンケートということでございましたけれども、これは、毎年そういったアンケートで満足度を確認するのか、どういった手法でこのパーセントを確認するのか、その辺をお聞かせください。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 今回、前期基本計画、ただいま申しましたように、5年間というスパンでやらせていただくということになります。今後、その後には当然後期の基本計画ということになってくるわけですが、やはり前期から後期へのつながり、そういったところを想定いたしますと、やはり3年目の後半、あるいは、4年目には一定程度の総括の準備にも入っていくこととなります。

したがいまして、やはり今回私どもとしましては、この新長期総合計画が動き出したとしましたら、毎年ちょっと基本的には市民アンケートを定点ではないという意味ではないになりますか、続けていきたいと思っています。今までですと、数年置いて見直しの直前のタイミングとか、あるいは、中間でのアンケート実施なんかをしておったわけですがけれども、今回につきましては、我々としては、毎年定点観測的にアンケートを実施させていただいて、その市民の皆様の目標の我々の達成度合い、どういう評価をいただいているかというのを測定してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 ありがとうございます。

これまでも市民満足度調査ということが毎年ではなかったかもしれませんがあって、各界の代表の方とか市民の方からもご意見をいただいたり、その事業1点1点について、評価していただくという手法もありましたけれども、そういったことは、今後取り入れる考えがあるのかどうかをお聞かせください。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 第5次長期総合計画におきましては、例年、進捗報告会という形でご評価をいただくという場をまずつくっておりました。今回につきましても、名称等とはともかくといたしまして、やはり客観的に見ていただいて、我々の取り組んでいる事業というのがどうのご評価をいただけるか、こういった部分についてのチェックをいただく機能というのは、押さえてまいりたいと考えております。そのほかに、やはり一般的なアンケート、こういったものも設けさせていただきまして、進捗状況を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 ありがとうございます。

また、アンケートといいますが、こちらから提案されてそれに対してお答えということなので、ある程度の答えとか、そういうのを想定した問答も作られるかと思うんですが、そのほかに市民から自由にその都度気がついたこと、そういったものを、昔では目安箱みたいなそういったような、常に市民の声をオープンにして、別にアンケートという改まった形でなく

ても、常に気がついた点をその都度市に届けていただく、そういったような手法のことはお考えにないのでしょうか。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 そのような手法というのは、今でも当然、市民の皆様から随時様々なご意見等をいただくという機会は設けさせていただいておりますので、今後そういったものというのは、当然のことながら確保していきながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 今せつかく市でもラインとか様々な情報提供をする場がありまして、多くの方もこういったSNSを使つての情報を、むしろ年配の方たちは割と広報とかそういったもので情報を得るところがあると思うんですが、若い方たちは割と瞬間瞬間で新しい情報をラインで受け取っているというのが最近見受けられると思うんですが、当然両方の行き来があるような仕組みをつくっていったほうが本当にメッセージを入れやすいのかなと思いますので、これまでの紙に書いての何かご意見とかお電話だけでなく、そういった形も考えて幅広く、また、市民だけではなくて周辺自治体、また、塩竈市と関係性のあるそういった企業とか、また、他県の方からも塩竈市に訪れたときの感想だったり、また、ご意見だったりスムーズに市に入ってくるという形になってきたほうがより充実になるのではないかなと思いますので、その辺のことをお考えありましたらお聞かせください。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 情報のこちらからの発信と、それから情報の収集ということで、今委員から様々な手法をお知らせいただいたなと感じております。もちろんのこと、今ホームページだけではなくてホームページに関するラインでありますとか、フェイスブックとか、そういったSNSを活用した情報の発信はまず努めさせていただいていると。ですから、そういったものをまず活用して、塩竈市からのこの長期総合計画に対しての各いろいろな事業が今回、今後予算上でぶら下がってくるということになりますので、そういったご評価がいただけるようなそういった仕組みというものを今のメディアを活用して、それから様々なご意見、そういったものを取り入れるようなそういった努力はさせていただきたいと考えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 それでは、続けてお伺いをしてまいりたいと思います。

先ほどの浅野委員からも、いわゆるプロジェクトの部分で様々ご質疑ございました。それで、もうちょっと私としても聞きたいなと思いましたが、改めてお聞きをしたいと思うんですが、資料29の1ページで全体の構成を見させていただきますと、いわゆる序論と、そして基本構想の中で、まちづくりの目標と方向性ということで8つの分野が示されております。そういったことを踏まえて、基本計画におきましては、8章にわたる施策体系と、そしてしおがま未来創生プロジェクトという形で図に示されているわけなんですけれども、いわゆる構想の8分野があって、それがそのままダイレクトに基本的な施策体系として載っているのは、ちょっと理解は簡単にできるんですけれども、それに対してプロジェクトがどういうふうに関わり合っていくとか、その施策の体系をもってプロジェクトがどういうふうに動いていくのか、その辺りのイメージをもう少し深めさせていただければと思います。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 ただいまご質疑いただきました資料29の1ページ、こちらについては、第6次長期総合計画の全体の構成図ということで記載させていただいております。

今委員からご質疑いただきましたように、まちづくりの目標と方向性、分野として8つ受けさせていただきますして、それぞれの施策を記載させていただいております。先ほどお答えをさせていただきましたが、その中でそれぞれの施策につきまして、どのプロジェクトにひもづくものなのかというところをそれぞれ、例えば、資料28の、例えば、まず先ほどご説明いたしました36ページとかそういったところに記載をさせていただいているご説明を申し上げたところがございます。私どもとしましては、そのそれぞれの分野というものを、この目標達成のためにどのように機能的に動かすかということになりますと、やはり横串といいますか、そういったものも必要になってくるということでございます。それぞれの分野の事業、それが横でも連携を取れることによりまして、よりいい塩竈市をつくっていくというようなことで考えておりますので、いわばこの未来創生プロジェクトは、長期総合計画と並走ということで表現させていただきましたが、特に横差しの部分で、住みよさ、喜び、やりがい、にぎわいというこの4つを大きく設けさせていただきまして、連携を図りながら事業を推進していこうというものでございます。

以上でございます。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。いわゆる施策体系の中、資料を先ほど教えていただきました28の36ページ以降のところを見ましても、いわゆる各分野の施策がどのプロジェクトに関わっているのかという辺りで、その縦と横という意味でのお話でございました。

それで、この資料28の22ページのところなんですけど、いわゆる推進体制ということで、どういった形をもって本計画を推進していくのかということについて、いわゆる協働、共創の視点、これを重視するというので、いわゆるまちづくりの主演でもあり担い手でもあるということで、市民の皆さんや市民活動団体の皆さんをはじめ、関わりのある方が一体となって本計画を推進するというので記載がございます。それで、ここについて、どこまで具体的にということがあるんですけども、イメージとしてどういった形をもって協働、共創という形で推進していくのか、その辺りをお聞かせいただければと思います。

○土見委員長 佐藤市民総務部政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 今回の6次長期総合計画の特徴といたしまして、今申しました22ページをご覧くださいますとお分かりになりますように、行政だけでつくったものではまずないというのが大きなポイントになるかと思います。今回、100の暮らしを導き出しましたワークショップにも市民参加をいただきましたし、それから審議会に審問をしまして、そこで様々な団体等々から入っていただきました市民の皆様に様々なご検討をいただき、取りまとめをいただいて、市長に答申をいただいた、そういったものが今回の長期総合計画の大きい特徴になると考えてございます。ですから、今後につきましても、先ほどご答弁に申しましたが、やはり我々が今度進めていきます事業に対して、一定の毎年ごとにご評価をいただく場を設けていく、あるいは、ここに記載されております市民活動団体ですとか経済団体、様々な団体の方々いらっしゃいますので、そういった方々とも随時、意見交換等も進めさせていただきながら施策展開についてのご評価、あと修正等も図ってまいりたいという考え方をしたいと思っております。

以上でございます。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

それで、そうになりましたときに、いわゆる8つの分野の中でも各種施策ございますが、そう

いったものがプロジェクトの中で横断的に展開されると、その中で施策の連携に伴って相乗効果を発現するというような表現もございました。それで、こういった形で協働、共創によるまちづくり、その中で様々な方々に関わっていただくということを踏まえられたときに、例えば、自分が関わる直接的なテーマとしては、例えば、産業の分野であったりだとか、あるいは、直接お父さん、お母さんみたいな団体であれば保育だとか教育だとか、そういった部分のテーマをもって出発点として関わってくるんだと思うんですが、一方で、その一つ一つの施策が横断的に様々な部分に波及しながら効果を広げていくというようなイメージを持ったときに、そこに関わる全ての方々、あるいは、全ての団体の皆さんの中で、この計画、あるいは、プロジェクト全体を、その目的といいますか、そういったものをしっかりとつかんでいただかないと、何となく自分のところのテーマというだけで終わってしまいかねないという懸念もちょっとあるんです。なので、この計画全体、プロジェクト全体をしっかりとつかんでいただいて、共有していただいてというところを出発点とするのがいいのかなとも思うんですが、その辺りはどのようにお考えでしょうか。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 そこはまさにおっしゃるとおりかと、今お聞かせいただきました。やはり、この長期総合計画が議会、委員会でお認めいただければ、やはり全体像というものがやっぱり多くの市民の皆様にお知らせするということが大事かなと思います。その中で、それぞれの分野でありますとか、子育て、産業、様々ないろいろ分かれてきますが、まずは全体をご理解いただくというまず努力をさせていただこうかなと思います。その中で、それぞれの個別が発生したときに、様々な意見交換をさせていただく中で、次の施策であったりとか実施計画事業につなげていくという視点で進めてまいりたいと思います。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。まさに、当然出発点は、何らかの課題があつたりだとか、そういったところで出発されることになるのかなと思うんですけれども、そういった中でも市全体を見渡したときの当事者意識といいますか、そういったものをぜひ持っていただくような取組になればいいのかなと思っております。

それで、次ですが、今度23ページですね。進行管理の部分になるんですけれども、いわゆるここにもPDCAサイクルということで進行管理をしていくんだということでございますが、

この進行管理について、誰がどのように把握をして、それを管理していくのかと。また、有識者による評価・検証の機会ということでは、こういったイメージとなるのか。その辺りをお聞かせいただければと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 進行管理に関しましては、当然ながら内部と外部と両方あろうかと、今こちらでは押さえさせていただきます。

まず、外部につきましては、これまでの策定の審議会の皆様、メンバー25名の方々、たくさんいらっしゃいます。それから、そのほかにも若手の方々、ワークショップの方々、たくさんいらっしゃいますので、そういった皆様のご意見を取り入れていくという仕組みづくりを考えさせていただきます。今までのやり方でありまして、例えば、審議会の方々を中心としました進捗報告会という中でご評価いただくという手法は取っておりますので、そういったものをまず中心に考えながらも外部の方々に評価できる、その仕組みづくりを整理します。

あと内部につきましては、策定本部というものが庁内に設置しております。ですが、今後、庁議の構成メンバーと同じになりますので、庁議という形の中で全体的な事業の進行管理というものが改めてこちらは推進していくと、一定程度の期間を決めてこちらで進捗を報告し、それぞれの皆様からご評価をいただくという仕組みづくりを整理していきたいと考えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。まさに中と外というのが非常に重要な関係かなと思いますので、その点については分かりました。

それで、次に27ページ、実際のプロジェクトの中身なんですけれども、先ほど浅野委員からお伺いございましたが、いわゆるアンケートの部分でちょっとお聞きをしたいと思います。それで、この27ページを見ましても、指標、あるいは、目標値の根拠が、いわゆる市民アンケートの部分にあるということで、先ほどこれについてはお答えがございました。一定のスパンでということで、基本的には毎年やられるということで、そこについては理解をいたしました。

それで、別冊3の資料で、このいわゆるアンケートの設問用紙と実施した分の回答一覧ということで出させていただきました。調査対象につきましては、満18歳以上の方々の中から2,000

人ということで、年代別で同数になるように無作為抽出をしたということでもあります。それで、ただちょっと気になったのが、まず回収率が31.4%であったということで、628人の方々からご回答をいただいたということで、特に各年代別で見ますと、40歳代よりも下の年代のところではちょっと30%を切ってしまうような、100人に満たないような回収数となっているということがありまして、今後こういった形で、例えば、ひとつアンケートをやられるのかはまだあれですけども、同様の手法で評価・検証の部分も含めてされるとすれば、例えば、実施された施策について、どう見るんだということ踏まえたときに、例えば、じゃあ子育ての関係について考えたときに、この回答者全体の評価と、いわゆる実際の子育て世代のそのボリュームゾーンとなる部分の回答が一定、ずれが出てしまうんでないかというような懸念もあるんです。その辺りを踏まえて、そのアンケートの、アンケートのというか施策の効果、あるいは、達成度、そういったものがきちんと図れるような仕組みというものを一定検討しなきゃいけないのかなと思ったんですが、その辺りについてはいかがでしょうか。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 資料別冊のちょうど1ページに、今回の年代別の回答率というのが表記されております。例えば、10代、20代ですと回答率15.9%、全体31.4%の中の15.9と非常に低かったという意味では、結果としまして、我々としてはその年代別でどのような関心があるかというふうな、結局は10代、20代の若い方々に関心いただけなかったという反省点も踏まえて、今後どうするかといういい結果が出たのかなとまず捉えております。ただ、年代別に平均的に見ていくという形での今回の調査というものと、今ご指摘がありましたように、それぞれの回答率の状況に応じてやはり一定程度の人数、それを確保するためにはどのようにするかという手法も考えられると思いますので、そのアンケート、これから行いますアンケートの内容によって各年代別にどのような形がいいのか、その辺はこれからちょっと模索させていただければと思います。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

実際に、実施をされた施策は、本当にその対象といたしますか、必要とされているところでこういった評価が得られたのかということについて、きちんと把握できるようなやり方をぜひご検討いただければと思います。

それで様々、いわゆる評価・検証というところでお伺いいたしましたが、そうした中で、じゃあ議会との関わり、今回の計画が進んでいく中で、議会との関わりという点では、例えば、どういった形でどの時点で一定ご報告をしますよだとか、そんなビジョンがあればちょっとお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 今後こういった報告というものを、定期的にやはりやっていきたいとは考えてございます。例えば、でありますけれども、毎年4回ほどございます協議会でありますとか、そういう状況の中でこれまでの事業の進捗、あるいは、これからのアンケート調査の内容でありますとか、そういったものをご報告できるようなそういった仕組みを考えさせていただければと思います。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。私たちとしても、できれば途中途中でいろいろ教えていただきながら、政策提案も含めて様々な形で関わっていけるといいなと思っておりましたので、その点については、ぜひお願いしたいなと思います。

それで、じゃあ資料28の35ページ以降、各施策体系ということで、様々、方向性出ておりますので、その点でちょっと何点かお伺いをしたいと思います。

それで36ページ、第1節の部分で、1の1、にこサポの取組ということで載っております。非常に重要な取組かなと思っておりまして、ワンストップで切れ目のない支援を行うということですが、現状の取組と比較してどういうふうになるのか、その点をちょっとお聞きしたいと思います。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 子育て世代包括支援センター「にこサポ」についてのご質疑です。

今年度4月から、こちら開設しております。1年目ということで、まずは市民の皆様にご案内いただき周知を努めているところです。そういった取組をさらに強化しまして、まさに切れ目なく全ての子育て世代、ご家庭、それからお子さんへの支援、相談体制が充実していければなということを考えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

というのも、先ほど1年目というお話ございましたけれども、まさに1年目始まったばかりという中で、さらに申し上げると、いわゆるこのコロナ禍の中で非常に全体的な困難があるということが一つ、心配がありました。それで、まずちょっと前置きとしてお聞きをしたいんですが、現状、にこサポを開設するに当たって、その体制をどのように構築をされたのか。ちょっとそこを振り返らせていただければと思います。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 母子保健の係がもともと健康推進課にございましたが、今回このセンターを立ち上げる時、子育て支援課に、壱番館に場所を移しまして、子育て支援課の家庭支援係だとか保育係、こころん、そういったところと連携をさせながら一体的に子育てを支援していきたいということで、場所を移した後、それから、課、組織についても変えたというところがあります。保健師を中心として助産師ですとか栄養士、そういったところで相談ですとか事業を展開しているところです。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 よろしいでしょうか。それで、そういった形で、一定の人員の配置転換を行ったということでありました。それで、その保健センターから移されたということだったんですけども、その保健センターの中でも各係といいますか、役割といいますか、そういった部分が分かれているので、特に問題はございませんということであればいいんですが、一つその新型コロナ対応の中で、保健センターが、非常に現場が疲弊しているんじゃないかという思いがあったんです。そうした中で、じゃあ、そこを踏まえて保健センターの部分、あるいは、にこサポの部分ということで、その体制に混乱が生じているような懸念もあるんですけども、そういったことがあって、じゃ、この計画どおりきちんとできるものになるのかどうか。ちょっとその辺りだけ教えていただければと思います。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 コロナ禍の中で、にこサポの体制、あるいは、保健センターの体制というご質疑をいただいたところです。

確かに、今回コロナワクチン接種推進室ということで、実は、にこサポの、本来は来る保健

師1名が新型コロナで定員いつているという状況でございますが、ただ、今のこサポの事業展開、様々な事業展開されておりますが、その中で特に支障が出る、例えば、この事業でできなかったとかそういうことはなく、計画どおりそれは行われておりますので、その辺はお互い協力体制を取りながらやっていつている状況でございます。

以上でございます。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

今後、計画上におきましては、そのこサポの取組について、さらに充実をさせていくというような中身にも受け取れますので、そういった点で、今は幸いにして感染者については、一旦落ち着いているような状況もございますし、ワクチン接種についても、一定進捗が進んできたなということもありますが、その辺りちょっと人員体制の部分は、目配り気配りできた点ではよろしくお願ひしたいなと思つておりました。

それで、続きまして、今度39ページになるんですけども、ここには、この章の部分でのいわゆる成果指標というものゝ様々載つてございます。それで、ちょっと分野変わらしまして、年度当初の待機児童ということで基準値と目標、11人、ゼロ人ということで示されておりますが、これまで様々な機会を捉えて、この点についてはやり取りさせていただいた中で、あくまで目標といいますか、達成すべきは年度を通じた待機児童ゼロだったかなとも思つておつたんですが、その辺りについてはいかがでしょうか。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 待機児童、もともと待機児童ゼロ事業なども推進しながら、年間を通じて待機児童ゼロ、子育て支援、まちづくりといった部分では進めていたところでございます。ただ、結果的には、これまでもご説明したとおり、募集しても、職員が、保育士がなかなか集まらない等の原因がありまして、待機児童ゼロには達成できなかったということで、そのために私たちとしては、そういった課題を解決するためにどのようにやればいいのかという部分で、今現在、今後の待機児童ゼロのための在り方の検討ということで進めているところです。どのようにやっていけばいいのかというのは、今後皆さんにもお示ししながら進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員　ということは、あくまでここに書いてある目標は、年度当初なんですね。じゃあ、達成すべきは、年間を通じてゼロを目指すんだということは変わらないという受け止めでしょうか。いいですか。（「はい」の声あり）分かりました。それで、今後、じゃあ、どういった保育施策を取っていくのかという点につきましては、ここに記載されているところを出発点としてご検討されていると思いますので、それはそういった機会を捉まえてちょっとお聞きしたいと思います。

次ですが、ちょっとこの資料の中でどこに入るというよりも、ちょっとまさに横断的な取組が必要かなという部分でちょっとお聞きをしたかったんですが、いわゆる発達障害をはじめ、支援を必要とする児童生徒の増ということがこれまで大きなテーマとしてありまして、そういった部分について、計画上どういうふうに位置づけるかはありますが、その取組について、例えば、36ページの第1節のこの部分でいうと3ですかね。（3）のところ辺りが入ってくるのかなとか、あるいは、37ページの第2節の部分で学習環境の充実みたいのところに入ってくるのかなと。まさに、横断的な取組の中で解決すべき大きな課題なのかなと思っているんですけども、その辺り、位置づけ上、何か考えられていることがあればお聞きをしたいと思います。

○土見委員長　小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長　こちらに記載のとおりということになりますが、誰一人取り残さない地域づくりといった部分では、様々な事業展開を進めていかなければならないと考えております。具体的に、先ほど事例として、学習支援というお話がありましたけれども、私たちも1人でも多く学習支援できるように、今現在も生活、子供の学習支援事業等を生活困窮者に対して行っているところなんですけど、さらに拡大していきながら進めていきたい。そのような事業展開を図っていききたいと考えております。

以上です。

○土見委員長　小高委員。

○小高委員　分かりました。

この分野につきましては、特に教育もそうですし、あるいは、保育、医療の分野も含めて、様々な部分で横断的な取組というのがやっぱりこれは必要になる話ですので、その辺りにつきましては、大きな計画ですので直接の文言はないにしても、ぜひそういった位置づけで取り組んでいただければなと思っておりました。

そして、次ですが、44ページの（2）のところについて、伺いたいと思います。

いわゆる休日夜間の安定的な医療提供ということで、以前、休日急患診療センターを一つ軸としての取組ということで、まさにこれも、特にこのコロナ禍の下でなかなか診療体制の整備もままならないと、大きな困難があったということでお伺いをしたこともございましたが、そうした中で、この第3節においては、安心できる地域医療体制の充実ということで、いわゆる休日夜間診療というものが位置づけられておりますので、その目指すところと伺いますか、現状を踏まえてどういったイメージでいるのか。そこをちょっとお聞きしたいと思います。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 休日急患センター、これまでも、内科、小児科につきましては、日曜、あるいは、休日の受付、あと土曜日につきましては、小児科が準夜勤と言われている18時30分から21時半までということで事業展開を行っているところです。これは、2市3町で、共同で運営しているという内容でございます。この事業につきまして、やはり休日でも急患に対応できるような体制づくりを確保する、このことがこの地域医療の向上につながるということで認識しているところですので、こういった事業を継続・展開していきたいというような内容でございます。

以上でございます。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

なかなか計画についての質疑ですので、どこまで私も具体的にお聞きできるのかなということとはちょっと悩ましいところもあるんですが、ここにおいて、そういった形で位置づけていただいたということについては、今お伺いしたとおりののかなと思いました。

それで、同じページの（3）のところなんですけれども、市立病院を中心とした地域医療体制の充実ということで記載がございます。それで、これまでも、この市立病院の取組等につきましては、一つ財政的困難というものはありながらも、改革プランを踏まえて病床再編、あるいは、コロナ禍の下での取組等についても大変ご尽力をいただいていたなと思っております。一方で、繰入れの削減ですとか、あるいは、運営の方向性、民営化も含めた方向性というところについても、これまで議論もされてきたわけでありますが、こういった様々な議論を踏まえた中で、次の計画ではこういった位置づけですよというようなことがありますの

で、いわゆる市立病院の位置づけと取組の方向性について、改めてちょっとお聞きをしたい
と思います。

○土見委員長 本多市立病院事務部長。

○本多市立病院事務部長 これまで、昨年も在り方検討会という中での検討は進めております。
その中で、様々な運営形態、あるいは、繰り出しの考え方の整理というものも求められてお
ります。我々、今回こちらに出させていただいているとおりでありますが、ただ、まず全体として
考えなければならないのは、やはり地域の医療をどうやって守っていくかという地域医療構
想の大きい考え方です。特に、この塩竈地区における7つの大きい病院がありますが、それ
がどのような機能分担をして、この地域に住んでいる人が安心して最後までこの地域で過ご
していけるか、その体制をどうつくっていくかになると思います。その中で、やはり市立病
院という唯一の公立病院がやはり果たすべき役割というところは、これまでも議論してい
たきましたが、こちらに書かれているような、やはり在宅も含めた総合的な医療を展開して
いくというようなところでございます。なので、まずこの基本線を守りながら、どうやって
これを維持していくかというのが集団としての運営形態、繰り出しの考え方になりますので、
それは今後じっくり時間をかけて検討していくべきであると考えております。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

まさに、その地域医療体制の中での役割分担ということで、ただいまお答えをいただきまし
た。そういった意味では、地域の中でどういった医療が求められているのかという部分にお
いては、様々な病院の得意分野あるかと思えますけれども、そうした中では市立病院も一つ
のピースという形になるのかなと思いますが、その中でも一点、先ほどおっしゃられたよう
に、いわゆる公立病院の役割ということも踏まえて、市立病院を中心として地域医療体制を
充実させていくということで記載がございますので、まずぜひその点につきましては、今後
はどういうふうに具体化されるのかというのはあるんですけども、引き続き見守ってい
きたいなと思っております。

最後に、72ページです。

いわゆる効果的・効率的で透明性の高い行政経営ということで記載がございます。それで、
資料別冊4のところ、この総括の中で65ページですね。この中の施策の2というところを
見ますと、いわゆるここが対応するというかそういった部分になってくるかなと思うんです

けれども、この中の文言では、厳しい財政状況の中での一般財源の確保と事業の選択と集中による、質の高い市民サービスの提供による、市民から信頼される安定的な行財政の運営の推進ということで、そういったものが掲げられておったということで、それが今回の72ページのところの表現では、一定短くなったと言っちゃうとあれなんですけれども、計画的な財政運営をやっていって適正な定員管理、アウトソーシングやデジタル化などの行財政改革を推進し云々ということであります。それで、この2つ、文言としては、非常に似通ったものでありながら、その中身については果たしてどうなんだろうという思いがあったんですが、いわゆるそれを比較したときに同じようなものなのか、一定ここはこういうふうになるんだよというものがあるのか、ちょっとその点、最初伺いたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 別冊4は、こちらはあくまでも評価といいますか、分析というところの表現かなと捉えていただければと存じます。内容的には大きく差はないんでございますけれども、ただ、今回の6次長期総合計画の中では、やっぱり時代の潮流という中で、例えば、デジタル化でありますとか、やっぱり流れが相当変わってきている、そういった急速に変化している中身を踏まえながら、やはり信頼性の高い、効率性の高い、そういう形の行政運営が必要だという表現がこちらの28の72ページに記載させていただいたというふうにちょっと整理をさせていただいております。

なお、厳しい財政状況とかそういった表現については、これまでも大きく変わりはありません。ですが、それらを具体的に、どういうふうに詰めていかなければいけないかというところの軸にした表現ということで、ご理解いただければと思います。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

その厳しい財政状況というのは、変わらないと。これについては、そのとおりになんだろうと思います。ただですね、その中身。どういった方向性でやっていくんだということについては、これまでも申し上げてきたところではあるんですけども、第5次長期総合計画においては、いわゆるこの表現からも一定読み取れるかなとも思うんですが、いわゆる行政コストをいかに削減するかという辺りがどうしても主眼になっていたかなというような気がしております。そうした中で、例えば、私どもとしましては、この第5次長期総合計画に基づい

た、例えば、当初予算の審議等におきましては、特に、じゃあ行政コストを減らすんだということ職員削減というところについて、そこが仮に行き過ぎてしまったとすれば、例えば、防災、あるいは、福祉等で、特に市民サービスの低下をもたらしかねないよということでお話もさせていただいていたところではありますが、そうしたところを踏まえて、いわゆる第5次、第6次というところでその考え方について、どのように、何か受け止めていただいたところがあるのかどうか、ちょっとその辺りをお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 第5次、確かにこれで見ますと、かなり行政コストの削減というところが非常に強いなと印象としては受け止められているかなと思います。まさに、行政コストの削減というのは、当然ながら効率化を図った中で、いかに減少していく収入というものに対して対応していくかというのが行政コストの軽減、削減という意味です。ただ、一方で、そればかりやっていると、実際に行政サービスの低下を招くという、確かに懸念もございませう。そういったところをカバーするためにどうするかというと、やはり収入を確保するという視点も必要だということになります。これまで、ふるさと納税でありますとか、今後はまだ遅々として進まないところがあるんですけども、広告料の収入でありますとか、あるいは、外郭団体のいろんな様々な助成金の活用とか、そういったところのメニューをこちらでもちゃんと整理をした上で、今度、収入面の確保というもので行政サービスを確保していく観点というものも、今、必要になってきておりますので、今回の第6次では、そういった収入面の確保も含めながらの効率性・透明性というようなところの確保をしていきたいと考えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

そういった点では、一定の転換という言い過ぎかも知れませんが、そういった視点も加わったということで私としてはぜひ受け止めたなと思います。それで、この間、決算の質疑等でもお伺いをしてきましたが、いわゆる定員の適正化というようなお言葉で、これまでも様々なものが行われてきたのかなと思いますが、これもお伺いしてきた中身ですけれども、いわゆる業務量、あるいは、業務をこなすに当たってかかる時間、こうしたものを検証した上で、適正な、まさに言葉どおり適正な定員の配置を行うということが、これが適正化なの

かなと思っております、いわゆる定員適正化の名を借りて、先ほどそうではないというお答えありましたが、とにかく減らすんだということではあってはならないだろうと思っております。例えば、職員の中でも、一定若い世代の皆さんが途中でお辞めになられるですとか、あるいは、メンタル不調を原因とした休職者の増ですとか、そういったところにもこれはつながりかねないし、そういったところがまた、市民サービスの低下にもつながりかねないというような観点もあまして、そういった中でこうした部分を今後どうしていくんですかと、これは前段の決算等の質疑でもお伺いした部分であります、まさにその適正なところを見つけるために、今後一定検証していくというようなことでお答えもいただいていたかなと思っております。それで、じゃ、この計画でどうかということなんですが、まさに本計画における適正な定員管理というような文言ございますが、この表現については、前段お答えもいただいていたこの検証ですとか、そういった配置の適正化ですとか、そういった部分も踏まえて、文字どおりどういった業務が必要で、どういった業務を行わなきゃいけないと、それについて、じゃあ適正な業務量、あるいは、じゃあそれにどのぐらいの人員が必要なんだということ、この観点から出発する言葉だと捉えてもよろしいでしょうか。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 もちろん、そういうふうにこちらも捉えております。必要なサービスを提供するために、必要な組織力というものの観点が非常に大事でありますので、そういった意味での適正管理とこちらでは捉えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。そのお言葉どおり、ぜひ受け止めさせていただければと思います。

それで、この文章の後半部分になるんですが、いわゆるアウトソーシング、あるいは、デジタル化ということで、先ほど時代の潮流の中でデジタル化等も含めてということのお話がありました。それで、これも、これまでずっと申し上げてきたことではあるんですが、いわゆるコスト削減を主眼に、アウトソーシングをやるというようなイメージがどうしてもあるということで、ここについても民間の力というようなお言葉もございますが、一方で、例えば、そこに利潤というものを一定載せなきゃいけないという観点から見たときに、安易にアウトソーシングをしてしまうと、例えば、権利として保障されるべき福祉、あるいは、保育、教育、そういった分野については、権利の侵害にはつながりかねないよということで、これ

までも申し上げてきた部分であります。そういった点について、ぜひ、この本計画においては、こういった部分も大いに留意をしていただいた上で、各種施策について検討されたいと思うんですが、その辺りについてはいかがでしょうか。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 アウトソーシングのもちろん観点というものは、単なる業務の効率化だけではなくて、やっぱり民間がお持ちになっている非常に大きなノウハウとそういう知識とか、そういう経験というものをやっぱり生かして、そのサービスを向上させるという観点も非常にございます。もちろん、今お話があったように、効率性、いわゆる経費の削減という意味合いも、我々、行財政運営を扱う人間としても非常に大事な視点と。ですから、両方の視点でもって、その一番いいところを探していくというのがアウトソーシングの考え方かなと今捉えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 分かりました。

どこでバランスといいますか、そのバランスなんだと思うんです。経費の削減と質というのがどこまで両立できるかという点では、両立できるのか、あるいは、思想のような形になってしまっただけは、ちょっと本末転倒な話になってしまいますので、先ほど申し上げたような点について、ぜひご留意いただいた上で、この点については、ぜひ慎重にご検討いただければなと思っておりますので、その点について、最後申し上げて質疑を終わりたいと思います。

○土見委員長 志賀委員に申し上げます。まだ再質疑の時間ではないので、先に辻畑委員に上げたいと思いますので。それでは、辻畑委員。

○辻畑委員 資料28の内容について、幾つか伺います。

35ページの、健やかに育つ・育てる環境づくりの中の39ページの成果指標について、伺います。この中の5番目、放課後児童クラブ待機児童数についてですが、令和2年度の待機児童は5人となっています。これは、どんなことを、その前の施策体系のどこから導かれたのか。また、この5名というのは、どんな問題があるか、現状を教えてください。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 39ページの5番、放課後児童クラブ待機児童数の成果指標というところで、令和2年度放課後児童クラブでは、年間を通しまして5人の待機児童

がいたところでは、利用申込みが多いところで、学校によっては、定員を大幅に超えているところにつきまして、利用をお持ちいただいた人数が5名いたるところです。ただし、令和3年度につきましては、今年度は、待機児童は特にないというところでは、できるだけ全て希望される方には利用していただきたいということで、今後の目標値、待機児童が出ないというところを考えている目標値になっています。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。

8年度にはゼロとなっていますが今はないということではありますが、これから増える可能性もありますが、この待機児童ゼロというのを8年度もゼロにするには、どのような取組をイメージ、どんなものがあるでしょうか。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 利用申込みが多く、定員を大幅に超えそうなクラブ、学校につきましては、次の年に定員を増やすなどの対応をしているところでは、今年度につきましても、定員を増やしたクラブもございまして、来年度以降ですね、状況を見ながらクラブの定員数を変更するなどしての対応をしていきたいと思っております。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。

放課後は、子供たちが学んだり、遊んだりできるような安全でゆとりのある場所が必要だと思います。そのために、これからも市として責任を持って、体制、今定員を増やすというお話もありましたが、そういうときに、今の現状から教室を増やすとか、そういうことも含まれているのでしょうか。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 大幅に定員を増やす場合は、学校との協議になりますが、空いている教室をもう一つお借りしまして、教室を増やして定員を拡充するというのを考えています。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。今、新型コロナの中ですので、本当に安心して子供たちが過ごせる
ということをしちんと取り組んでいってほしいと思います。

では、次に参ります。

同じ成果指標の6番目ですが、児童相談終結件数ということですが、令和8年度の目標値が
令和2年度と同じ数となっています。この目標値は、どのように捉えればいいのか説明して
ください。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 6番、児童相談終結件数につきまして、令和2年度
108件、目標値、令和8年度は108件ということです。児童相談につきましては、内容が複雑
化していたり、長期化するケースもございます。そういったところで、なかなか支援をしつ
つもそれが解決されない、改善されないというものもございます。今以上に終結件数を増や
す目標というの考えられますけれども、まずは現状維持、目標値はこれですけれども、こ
れ以上に終結件数を増やしていくという気持ちを持って、今以上に終結するような支援を今
後続けていきたいということを考えています。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 今、ご説明ありますが、そもそも終結件数を減らすという考え方ではなくて、36ペ
ージの(3)の②にあります、早期発見、早期対応を目指すことがまずは大切と思われま
す。その次、この件については、いかがお考えですか。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 まさに児童虐待ですとか、そういったところを早期発
見、予防していくということが大切になっていくかと思えます。今回、にこサポが壱番館に
来まして、虐待を対応している子育て支援課家庭支援係とさらに連携が強化されているとこ
ろです。乳幼児期からそういった親御さんの子育てに対する不安感、そういったものを早期
に発見しまして、支援につなげていくということをしていきたいと思います。また、保育所、
幼稚園、学校、警察、児童相談所、そういったところと、さらに連携を強化しながら、早期
発見、対応をしていきたいと考えています。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 ありがとうございます。

確かにいろいろ複雑な問題があると思いますが、この要望について、やっぱり専門家をきちんとその場に置く、定期的にそういうスペシャリストが塩竈に来て指導するというようなことではなくて、そういう専門家の常設とかも必要と考えますがいかがでしょうか。

○土見委員長 小倉子育て支援課長。

○小倉健康福祉部次長兼子育て支援課長 虐待の対応につきまして、今後、塩竈市では、子ども家庭支援拠点という虐待のための組織を来年度以降、設置したいと考えております。その中で、機能としてソーシャルワーク、そういったところをさらに強化していきたいと考えておりました、そういった資格を持っている方も、今後配置していきたいと考えております。福祉につなげていく、そういったところで支援をさらにしていきたいということを考えています。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。本当に子供たちのために、ぜひ進めていってください。

次に、この同じ指標の11番、地域などが主体となった放課後の居場所づくりの支援者数についてということがありますが、そもそもこの放課後の居場所づくりというのは、どういう事業か教えてください。

○土見委員長 吉木教育委員会教育長。

○吉木教育委員会教育長 教育部のこれは、生涯学習課で行っております放課後子ども教室とかの事業の中でございますコミュニティースクールを今広げていっているところでございます。そして、地域協働活動の中で、子供たちの放課後の居場所づくりをボランティアさんとか使ってやっている事業でございます。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 この目標が450人というかなりの数になっていますが、これまで今おっしゃった事業とか、あとわくわく遊び隊とか、子ども食堂などの事業がありますけれども、何か新しい構想があるのでしょうか。

○土見委員長 鈴木教育委員会教育部生涯学習課長。

○鈴木教育委員会教育部生涯学習課長兼生涯学習センター館長 地域などが主体となった放課後

の居場所づくりということで、今年度、一小と杉小で放課後子ども教室を行っております。来年度以降は、浦戸を除く全部の小学校において、放課後子ども教室を開催する予定でしたので、450人といった目標値にさせていただいております。

以上でございます。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。

じゃ、来年は、全ての学校にということで、その対象となる方たちはどういう方でしょうか。

○土見委員長 鈴木教育委員会教育部生涯学習課長。

○鈴木教育委員会教育部生涯学習課長兼生涯学習センター館長 支援者数ということで、放課後子ども教室を支援するに当たって指導員の先生方と、また、あと地域の方を巻き込んで、子供たちを地域ぐるみで育てていこうという活動でございますので、そういった地域の方も含まれた人数になっております。

以上でございます。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 すみません。ちょっと細かいことまで伺って申し訳ありませんでした。

地域で、子供たちが安全に過ごせるために、本当に見守りが大切です。行政としては、本当にこういう支援者の皆さんをしっかりと関わっていくことが大切と考えますので、よろしくお願い申し上げます。

では、次に、41ページ。健康で安心して暮らせる地域づくりの42ページ。この42ページの(1)の①番、高齢者が知識や経験を生かし、担い手として地域社会に参画できる環境づくり、生きがいの創出に努める。2では、地域や事業所、行政が連携し、多様な主体による高齢者の日常生活の支援や介護保険、介護予防サービスの提供に努めますとありますが、この1番、2番のそれぞれ担い手、また、2番の多様な主体というのがもう少し説明をお願いいたします。

○土見委員長 中村健康福祉部長寿社会課長。

○中村健康福祉部長寿社会課長 お答えいたします。

それでは、まず①です。高齢者が知識や経験を生かし、担い手として地域社会に参画できる環境づくり、生きがいの創出に努めますということです。こちらは、令和元年に第8期の介護保険事業計画をつくる際にもアンケート調査を行ってございましたけれども、その際にも趣

味があるですとか、健康であるですとか、そういった方の回答の割合は非常に高かったんですけれども、そこに生きがいがあるかというアンケートを行ったときに出てきた回答で、6割弱ぐらいの数字というふうにとどまっておりました。こういった辺りもありまして、やはり生きがい感を高める取組、そういった辺りが非常に重要なことと思っております。高齢者の方々の知識ですとか、経験ですとか、そういった辺りをぜひとも地域で生かしていただく。そういった辺りで、具体的には、現在、介護支援ボランティアの活動の事業ですとか、それから老人クラブ、シルバー人材センター、そういった辺りでの活動というのも行っておりますので、そういった辺りのさらなる強化というのをイメージしております。

それから、②の地域や事業所、行政が連携し、多様な主体により、高齢者の日常生活の支援、介護予防サービスの提供に努めますという辺りでございますけれども、こちらにつきましては、地域における地域包括ケアシステムということで、本市でも、こちらの推進ということで現在取り組んでおるところですけれども、重層的な切れ目のない支援という辺りを強化するためにも地域でのボランティアの活動ですとか、そういった辺りの強化ということをイメージしております。

以上でございます。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 ボランティアさんたちがカバーということですが、ちょっとごめんなさい。まず、私が十分に理解できなくて、多様な主体というのは、もう少しどのようなことを指しているのか、もう1回教えてください。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 こちらの地域や事業所、行政が連携し、多様な主体による高齢者の日常生活の支援という部分におきましては、多様な主体というのは、様々な市民活動、あるいは、市民の方々、あるいは、事業者と連携を図りながらこのような事業を展開していきたいといった内容でございます。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 ありがとうございます。

じゃ、45ページの成果指標について、伺います。

45ページの1、社会的な活動を行っている高齢者の割合が43%、この社会的な活動というの

は、どういうことなのか説明をお願いします。

○土見委員長 中村健康福祉部長寿社会課長。

○中村健康福祉部長寿社会課長 お答えいたします。

仕事をされている方も含めますけれども、ボランティア活動ですとか、地域社会活動、町内会活動も含まれます。そういった活動をされている方、それからサークル活動、そういった活動をされている方と、そういった活動をイメージしております。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 皆さん、いろいろ地域の中で活動されるのは、とてもいいことかと思いますが、これはどのようにして把握したか教えてください。

○土見委員長 中村健康福祉部長寿社会課長。

○中村健康福祉部長寿社会課長 こちらにつきましては、先ほど申し上げました第8期の介護保険事業計画、こちらを作成するために令和元年にニーズ調査を行いました。そこから得られた数字をベースにつくっております。

以上でございます。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。

2のその下の、介護予防に資する通いの場、参加する高齢者の割合というのが10.9%となっています。この目標値としては、前年度を上回る数値となっていますが、これはどういう場でのどんな活動を指しているか教えてください。

○土見委員長 中村健康福祉部長寿社会課長。

○中村健康福祉部長寿社会課長 こちらの通いの場ということですが、地域包括ケアシステムを構築する中で、介護予防の役割を担う新たな取組ということでつくられております、こちらにつきましては、具体的には、地域での介護に至る前の方々、できるだけ地域で、ボランティアもそうですけれどもサークル活動等の展開を図っていただく、そういった辺りをイメージしております。

以上でございます。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。

こういう皆さんが元気を保って介護を予防する対策としては、とても通いの場へ参加することは大切と思います。市として、こういう場を確保して支援することは、とても大切と考えます。どのように強めていくか、方向性を教えてください。

○土見委員長 中村健康福祉部長寿社会課長。

○中村健康福祉部長寿社会課長 現在もダンベルサークルですとか、脳元気教室ということで、事業の展開を図っておりますけれども、なかなかそういった拡大していくというところには、まだなかなか広がっていったかとは思っております。ただ、そういったサークルの地域でのそういった活動が、徐々にサークルの活動につながっていくようなそういった辺りの強化ということでは図っておりましたので、今後も継続して、まずは地元でのそういった活動が展開できるような支援というのは、行っていきたいなと思っております。

以上でございます。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 分かりました。

あともう一つ、一番下の10に行きます。

10の民生委員の充足率、令和2年度93.3%となっています。これは、どのように捉えればいいのでしょうか。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 民生委員の充足率について、ご質疑いただきました。

まず塩竈市内の地区を120区画に分けて、それぞれ区画ごとに民生委員さんいらっしゃいます。ただ、一方では、民生委員さんがいない地域もございます。そういった部分では、93.3%の地域が、今現在ですと約120人中約113名はいらっしゃって、7名がちょっと不足しているといった状況でございます。これを100%にしたいというのが目標でございます。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 7名足りないというお話でしたが、それに対して100%充足のためにどうやっていくか、考え方を教えてください。

○土見委員長 小林健康福祉部長。

○小林健康福祉部長 私たちとしても、民生委員さんが不在の地域につきましては、どのように進めていくかという部分では、もちろん町内会の会長さんを回ったりとか、地域でそのよう

な活動をされている方に声がけしていったり、あるいは、紹介していただいたり、そういった形で充足していきたいと。今も活動しているところですが、さらに展開して何とか100%にしていきたいと考えております。

以上です。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 ありがとうございます。

では、最後です。49ページの(1)の②、公営住宅の長寿命化を推進し、適切な維持管理に努めますとありますが、この51ページの成果指標に、これは具体的に上がってはいませんが、適切な維持管理とは具体的にどういうことをいっているか教えてください。

○土見委員長 相澤建設部長。

○相澤建設部長 公営住宅の長寿命化を推進しまして適切な維持管理に努めるということは、どういうことかということで、今ご質疑いただきました。

市営住宅につきましては、公営住宅等長寿命化計画、これは令和3年度から令和12年度までの10か年の計画につきまして、今年3月に策定をさせていただいております。計画を策定した目的でございますけれども、安全で快適な住まいを長期にわたって確保するため、修繕や改善の方針を定めさせていただきまして施設の更新、あるいは、統合、長寿命化を図ることによって整備事業費の平準化、あるいは、ライフサイクルコストの縮減に努めまして、市民サービスの向上を実現させていただくという内容でございます。この策定いたしました公営住宅等長寿命化計画に基づきまして、適切な維持管理を努めるといった内容でございますので、よろしく願いいたします。

○土見委員長 辻畑委員。

○辻畑委員 ありがとうございました。

これで、終わります。

○土見委員長 暫時休憩いたします。再開は、11時25分といたします。

午前11時16分 休憩

午前11時25分 再開

○土見委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑を続行いたします。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 様々の第5次の長期総合計画をいろいろ体験した者として、今第6次に目指して来年度から出発する基本計画であります。それで、先ほど来も言っておりましたように、私も、5期の関係では、様々な行財政や、それから職員の削減、子ども・子育ての会議の流れを見たりして、保育所が大変古くなっているという問題もあつたりとか、産業の関係でもなかなか震災から立ち直れなくて、そして、様々な事業所も相当少なくなってきたという指標、統計なんかも見ていろいろと指摘をしてきた立場であります。

それで、今回の長期総合計画を見ますと、非常に現状にマッチしながら、読めば希望が持てる構想であり、また、基本計画でもあるかなとは思っています。今の第6次のやつを、この間、取り組みました令和2年度の主要な成果に関する説明書と、第1編、そして何節、何行と、こういうものと併せて見てみますと、なかなか実際はそんなに簡単に、この言葉で書いてあるように進むのかなと、外的要因もたくさんありますからね。そういう思いでちょっと見ていました。

それで、私、特に子育て関係だとか、いろいろ私どもの議員からも質疑をしてきたので、その辺は置いておいて、私、産業関係について、聞きたいと思っています。

それで、この第4章から始まって、観光とかいろいろ協働の取組とかというところになるろうかとは思いますが。資料No.28ですね。54ページ、第1節、施策の体系として、数多くの地域資源を生かした宮城の台所、塩竈の創設と書いてございます。それで、このちょっと分からない点を聞くんですが、食に関わる様々な産業の連携促進、これは現在どんなことが取り込まれていて、そして、この第6次に当たっては、新たにどんなことを想像しているというか、こんなことですよというイメージがあれば教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 ただいま塩竈の食に関する様々な産業の連携促進ということで、今現在どんな取組が行われていて、これからどうなのかというようなことでのご質疑をいただいております。

もちろん塩竈市は、食ということで食文化にすぐれて、以前からの魚介類ですとか、地酒ですとか、藻塩に代表されるような食というものが地域資源として取り上げられております。とりわけ藻塩については、ご存じのとおり様々な料理ですとかお菓子、あるいは、水産加工品などに使われているような連携なんかが行われておりますし、そういったもので塩竈の

単なる塩竈のお菓子じゃなくて、藻塩を使ったお菓子ということで付加価値を高めているような取組に代表されるような連携というものが行われておるかと思います。そういった地域資源がありますので、そういったものでこれからのものづくりというのは、やはりコンテンツを生かして、そのプロセスを生かして、付加価値を高めるということがとりわけ重要になってくるとも言われておりますので、どこの地域にもあるというものではなくて、どこでも作っているものではなくて、塩竈独特の付加価値を高めるという意味での可能性というのは、大きく秘めておるとお思いますので、そういったことをこれから地域資源として創出していただきたいなと思っているというのが一面、そういったことがあるかと思えます。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 分かりました。

それで、その地域資源の創出を支援するという場合に、市役所の職員がこういったことはどうかというものではないような気がするのね。だから、そういう点で、様々な産業の関係者との連携でいろいろ意見を交わしながら、新たな提案があつたり、あと異業種との関係でこうなつたりとか、様々な取組をする必要があるんじゃないかと。これはまだ役所の中での言葉ですからね。それを本当に支援するというのであれば、前段にそういった仕掛けや何かを考えておかなきゃいけないんじゃないかと思うわけですが、その辺はどんなふうに考えられているのか教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 今ご質疑あつたこと、まさしくそのとおりだと思います。

やはり、様々な立場の方、産学官、あるいは、異業種の方々がいろいろな情報交換をする、いわゆるダイバーシティと言われるかと思えますけれども、そういった方々が出会って会話を、ディスカッションをする中で、新しいイノベーションが生まれてくるというようなことが当然あるかと思えます。今現在の取組といたしましては、例えば、水産振興協議会の中で、今、水青連というのがちょっと今休止中ということもあるので、25人ぐらいの今若手の方々にお集まりをいただいて、まず今自分たちの仕事、どんなことをやっているのか、そして、これからどういった課題があつて、どんなふうにこうこう協力できるのかというようなことの話合いの場というものを、今年1月に政策実行委員会の役員会が行われた際にご発案をいただいて、今動き始めているところでございます。そういった中からいろんなことが生まれてくるのではないかと、そういったまず場の提供というのが、我々、どういったことを

したらいいんじゃないかというような提案というのは、なかなか我々できかねますので、場の提供でそういった方々の議論が活発化して、そこから何かが生み出されるんじゃないかという、そういった場を提供するというを差し当たり行っていきたいと思っております。そういった場を、これからもつくっていきたくて思っております。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 補足をさせていただきます。

なかなか大きな、この表現だと思いますので、今物すごく僕らにとっても予想外といった付加価値が生まれている部分があって、ご承知のとおり、仲卸市場のブリッジの皆さんが今、様々なイベントを通して活動されています。それと、実は本町周辺、公民館を周辺にする様々なイベント、こういったものを、例えば、シャトルバスで結ぶのも、その民間の方々の発想からそういう提案があって、この間の行事で実現をしたという実例もございます。また、僕も勉強不足だったんですが、浦戸の寒風沢でマダコが取れるということで、それを、名前を言っているんだと思いますが、新崎人生さんがそのタコ焼きとして、寒風沢のタコ焼きなのか、浦戸のタコ焼きなのかは、ちょっとまだはっきりしないところあるかと思いますが、そういうマッチングも生まれ始めていると。

我々がどの程度サジェスションというか、考えを思い巡らせてご提案するかよりも、最近コロナの厳しい状況も相まって、塩竈市としては、様々な事業に補助金を出させていただいた実例があって、その補助金の中で皆さんがそれぞれ思い思いの活動、もしくは、思い思いの連携の中で動き始めていると今感じておまして、そういったところをこういった形での地域資源の創出という形で、新たな付加価値として生み出す、生み出している。その予見というか、動き方が少しずつ芽吹き出している感じがいたしておりますので、ある意味では新たな発見として、こういうところをどうやって今後我々ができ得ることでご支援させていただけるか。しっかりと見極めて、そういったところに力を注いでいく必要性がこの言葉の中にも、今聞かせていただきながら感じたところがございますので、そういった形でも、なお支援できるように努力していきたいとは考えております。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 ありがとうございます。

この今の②の地域資源の創出を支援しますと、支援ね。それから、②になりましても、衛生管理や環境に配慮した生産などに関する取組を支援するとか、それから、ずっと下に行って、

水産品、水産加工品の流通拡大でも、③では、輸出商流の確立を支援しますとか様々、支援、支援とこう出てくるんだけど、私は、それは上から目線とよく言うんだけど、そうではなくて、やっぱり関係者との関係を密にしながら自由に意見交換の中で、これ1歩進んだらこうなるよねというような流れをしなきゃ駄目だと。どうしても計画をつくっちゃうと、その言葉でこういうものを書いていくわけだから、私、そういう点で、私どもは、ずっと地元の中小企業、塩竈は仙台の隣まちとして、小さなまちだと、それでおいしいものもたくさんあると。だけど、どっちかという今までの流れというのは、大型店を中心にして人の流れを誘致すれば、人の流れが行くんじゃないかという流れもちょっとあったような気がするんだけど、今や、もうそのことによって地元の商店が潰れて、いろいろノウハウを持っている人たちも後継ぎがないという状況に陥ってしまって、みんなシャッター通りになっていると。今、シャッター通りを再開させるために、いろいろとやっていますが……。

○土見委員長 曾我委員に申し上げます。（「ごめんなさいね」の声あり）前期計画の質疑でございますので、よろしく願いいたします。

○曾我委員 計画全体につながるこの観光もそうだけでも、やっぱり私どもは、これらの計画に当たっては、大事なのが塩竈市の産業振興とつながる、この中小企業振興条例を一つの柱にしていかないと、さっき言ったような地域資源の創出の支援、あるいは、市場の関係の衛生管理、環境に配慮した産業など水産加工品の関係なんかも含めても、やっぱりそれがなくなるとばらばらになってしまって、いつも関係者を集めて話を聞くというようなことになってはいかないのかなと。先ほど、小山部長さんは、振興協議会水青連とかと言っていましたけれども、同じ人たちの話を何回聞いてもなかなか知恵が湧いてこないという意見も出てくるわけですね。だから、そういう点ではもう少し、長期総合計画の産業振興、観光、様々な地場産品の取組を発展させる上で、技術を継承させる上で、私は中小企業振興条例を持っていますから、塩竈市として。それを……。

○土見委員長 曾我委員、申し訳ございません。（「ごめんね」の声あり）前期基本計画の話ですので、そこのところをお間違えないようにお願いします。

○曾我委員 その辺については、どういうふうにご考えておられるのか、まず聞きたいと思います。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 ちょっと私の説明不足だったかもしれませんが、先ほど水産振興協議会の役員の方々のご発案で、若手の方々にやっぱりこれからの未来の塩竈の水産、あるい

は、水産加工というものをよりイメージというか、描いていただくべきじゃないかというご発案をいただいて、20代から40代の方もいらっしゃいますけれども、そういった25人の方々にお集まりをいただいたと。今、先ほど言った水青連がお休み中なので、若い方々がお互いに意見交換をしたり、情報交換したりする場がないということなので、やはりそういった場を設けさせていただいたことによって、ああ、こういうつながりができてよかったねと、我々、知らないこといろいろ教えてもらっているねというようなことを、今感想としていただいております。ですから、そういった若い方々が、今新たな取組ということなので、これまでいらっしゃった方々ではなくて、今までお会いしたこともない、初めてこんなことを聞かされたとか、勉強させていただいたとかというような話の、今話合いが始まったという辺りでございますので、ご理解いただければと思います。

あと、やはり塩竈市、今、事業承継の問題とか高齢化の問題で、事業者数減ってきてございます。中小企業が、やはり塩竈の水産加工なんかは、特にそういったところで支えていただいているところがございますので、そういったところは大切にこれからもしていかなければならないと考えております。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 ちょっと老婆心で、先走っていろいろと、心配してこういうものを生かしたらどうかという思いもあったものですから、それはそれで別な機会に言いますけれども。

55ページに移りまして、例えば、中小企業の経営安定と経営基盤強化のための商業関係団体や金融機関との連携した支援の充実に努めますということでございます。それは、何かいろんな金利がいろいろ変動になったときとか様々な、震災のときもありましたけれども、そういったときの金融機関とかの関係もあると思いますが、この具体的な支援策というのは、どのような場合に取り組みされるのか、系統的にやっていくものなのか、その辺の考えをお聞きます。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 こちらは、基本的には、通常の経営の安定化を図るための資金融資等もございまして、あるいは、新規起業のための新規の融資の制度のあつせん関係、あとは今回のコロナ禍などにおけるような、あるいは、燃油高騰とかにおけるような経営危機状態になったときに、利子の補給ですとかそういったことも併せた金融の支援というようなことでの内容となつてございます。これは、塩竈市の資金に限らず、県ですとか、あるいは、各金融公

庫等の資金も含めて、そういったことの情報提供なども含めた支援の充実というような表現でございます。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 これまでの取組では、塩竈市の中では、中小企業振興対策事業などとの関係で融資制度とかもあります。あるいは、ほかのものは、大体、中小企業庁が出しているものだとか、ほとんどは商工会議所を通じて手続きをしてくださいというような流れになっているんですよね。だから、本当に今の中小、小規模事業者も含めて、こういった支援をすとなれば、もうちょっときめ細かな対応が必要ではないかと思ったりするんですが、その辺はいかがなんでしょうか。

○土見委員長 曾我委員、申し訳ございません。前期基本計画の内容でございますので、きめ細かなところはご遠慮いただければと。曾我委員。

○曾我委員 そういったことが必要ではないかとは思っています。いつも同じ中小企業の金融公庫の関係では、企業の振興資金融資制度ということが大体の取組が主になっているということから、引き続き検討していただきたいと思います。

それから、門前町の風情を生かす取組の、商店街の魅力を高める取組。先ほど、これらに関係したことを市長さんはお話されたのかなと思いますが、具体的に、この門前町の状況を今後どういうふう考えていかれるのか。その辺について、お聞きします。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 塩竈、ご存じのとおり、鹽竈神社の門前町ということで栄えてきた町という側面はございますけれども、やはりこれまで、例えば、伊勢神宮ですとか善光寺とか鶴岡八幡というところと比べますと、塩竈市の門前町って一体どこでどんなことが楽しめるのかなというイメージがなかなかつきづらいというところに、今現在ちょっとなくなってしまっているというのがあろうかと思えます。塩竈市として、7つの重点課題として、門前町再生ということで掲げておりましたけれども、やはり塩竈市の門前町というのは、あのエリアでこんなことが楽しめるよね、こういうにぎわいがあるよねというところのイメージをいただけるような形で、改めて再生という言葉を使っておりますけれども、そういった位置づけを取れるような形で、いろいろなハード整備、ソフト整備というのをしていきたいと思っておりますが、そこに住まわれている方々のご意見をこれからいっぱい拾わせていただいて、そういった中からこういったまちづくりがしたいという、一緒にできればという形でまちづくり再

生ということを努めていければなど私どもとしては考えておりました。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 ぜひ、海岸通りのことも今取り組まれているようですが、それに続くやっぱり門前町につなげて塩竈らしい、やっぱり地域の特性あるまちになるように頑張っていたきたいと思えます。

それから、56ページになりますが、特に（２）の地域特性の地域課題を踏まえた雇用創出なんです。これもなかなかハローワークとかいろんなことで、その都度状況を聞きますけれども、やっぱり相当底上げ等、子供たちというか、これから若い人たちが仕事をする上で相当な取組をしなきゃ大変になっているのかなと思えます。それで、具体的に、この制度拡充を求めると書いてございますが、例えば、具体的にどんなことが、取り組めば国の制度につながるものなのか、考えがあれば教えてください。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 この言葉のところにはいろんな意味があろうかと思えますけれども、直近の課題といたしましては、やはり外国人技能実習生の活用ということがあろうかと思えます。今、職種が14分野に限られておりますけれども、それを、例えば、今要望としていただいているのは、卸売機関等で使えないかというような、そういった制度を使えないかというような要望なんかもございますので、そういった人材の活用という意味での制度活用というのを、ここでは、そこを含まれている意味の一つとしてそういったことがあろうかと思えます。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 外国人労働者のことを対象に考えているということなんです。それも今の過度期ともいわない、これから世界がそういうふうになってくるのかもしれませんが、やっぱり地域の産業に関わってくれる人をやっぱり育てることが非常に大事ではないかと思えますので、この雇用の環境なんかについても、ぜひ一層努力していただきたいなと思えます。

それから、②文化・歴史、これもありますが、この間言われたのはあれなんです。勝面楼のことね、ちょっと言われた経過もあるんですが、議会も議決したんじゃないかと、なかなか進まないなということも言われましたけれども、個別具体的にここで言うわけにはいきませんが、ぜひそういった経過も踏まえて、引き続き歴史や文化が感じられるものをぜひ生かしていただきたい。そして同時に、情報発信も努めていただきたいということだけ申し上げます。

それから、③の大学や企業との積極的な連携、これは別な章のところでも、この大学との関係を述べているところもございますが、具体的にはどんなことを考えておられるのか、お伺いします。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 これももう既に民間ベースでは、大学の研究の成果を生かして商品作りとかしている例なんかがございます。例えば、ある水産加工食品ですと、紫外線の殺菌、乾燥技術なんかを使って、カキのうまみを封じ込めるとかというようなことをしているようなところもございますし、そういった例はたくさんあろうかと思えますけれども、そういった産学官、あるいは、大学との連携ということの場を設けさせていただくということをなかなか今までできていなかったという反省もございますので、そういったことは、様々な関係機関との協力体制をつくりながら、そういったことができるようにしていきたいと思っているのがこういった内容でございます。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 大学との関係でこれから取り組んでいくということなんですが、そういうことも含めると、大学や研究者なんかとの関係も述べているところがあると思いましたが、具体的に、そういうことがやれる組織というか、部署というか、そういったことはどんなふうを考えているのか、ちょっと教えていただきたい。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 うちみたいな、小さい規模の自治体で、そういうような専門的なセクションをつくるというのは、なかなか厳しいだろうと思います。僕としては、大学さんとかとの協定とかを踏まえた上で、その分野分野で連携していくのが最初のはしりとしてはいいのだろうと思っておりますし、ご承知のとおり、今、浦戸で白菜、これは朴沢学園、明成高校さんとやっていますが、朴沢学園さんには、例えば、仙台大学をお持ちでございますし、また、今検討しておりますが、震災以降、浦戸に青山学院さんが学生さんを10年送ってくださって支援をしていただきました。先日も関係者とお会いして、実は、来年早々に学長とお会いさせていただく予定になってございます。そういった連携とかつながりを大切にしながら、こういった形でよりいい連携ができるのか、ご相談をさせていただきながらやっぱり進めていったほうがいいだろうと。僕とすれば、そういった大学や企業、地元にある企業もございますが、分野分野でご提供させていただきながら、お互いにとってメリットのあるような交流が続け

られるように進めるのが、今の塩竈市の段階ではないかなと思っております。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 分かりました。一步一步、取り組んでいくということでございます。

それで、70ページ、71ページになりますが、様々な1章から8章までのまちづくりの方向性なんですけれども、このやっぱり市民との協働、諸団体との協働、これまでも第5次長期総合計画でも協働のまちづくりということがうたわれてまいりましたが、この協働という取組について、協働連携の推進とかと書いてございますけれども、これらは、これまでの第5次ではどこまで取り組めて、第6次では、こういったことで頑張るよということがございましたら教えてください。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 これまで市民の皆さんとの取組ということでは、もちろん町内会さんを中心にしたつながりというもののほかに、新たに30年度辺りからだったと思いますが、まちづくりの提案事業とか町内会さんだけじゃなくて、各団体の皆さんから様々なご提案をいただき、そういった中でこちらから助成金を出していくとか、そういう様々なまちづくりに対するパートナーというところで一緒にやっていくという観点の下に今事業の展開を進めてきたと。

今後は、やはり市民の皆様と一緒にパートナーというものを維持し続けるというのが当然のことではございますが、様々なご提案、様々なご意見、それを素直に市民の皆さんのご意見として、サービスの向上につながるものとしての事業という組立でも今後必要になってくるかと思っておりますので、これまで以上な意見交換であるとかそういった場を、つながりを設けた中で一緒にまちづくりを進めていくような、そういう機運を進めながら事業展開を図っていくという形になろうかなと思っております。

以上です。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 様々な市民団体の活動されている方々と、連携を図りながら進めるということでございます。後先になりますけれども、例えば、市民の皆さんが活動されていて、こういった活動をしているんだけどということ、そういう聞くにしても、一方では、行政側がそれらをサポートする、具体的に言えば施設だったり、そういった支援が具体的にないと、それらも壊れてしまうという経験もしたのではないかと思います。

一つには、塩竈市は、公共施設再配置計画をつくりました。24%削減していくんだよということが一つのベースになっていますが、ぜひ市民活動団体との協働、連携、こういった取組を第6次でやるとすれば、その辺の履き違えない形で、ちゃんと市民と協働連携ができる取組を進めていただきたいと思います、いかがでしょうか。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 まさにおっしゃるとおりだと思います。

今、6次の成果をちょっと拝見させていただきながら見比べておりました。様々な事業を今般、最近ですけれども、させていただく中で物すごく感じるのは、今までの市役所の支援の在り方、市民の皆様方との向き合い方、大いに反省すべきところがあると物すごく感じています。文章的にはこのような文書でまとめさせていただいて、皆様方と議論を重ねてということですが、やはり実社会での対応をどうさせていただくかが物すごく重要だと認識しておりますし、新型コロナがあつて、また、原油高があつてと、この緊迫した状況の中で常に変化しますし速度が変わっていきます。その速度にどのような形で、我々が対応させていただけるかということについては、物すごく重要性を感じていますし、ボランティアとか市民団体の方々が高齢化をして動きが鈍くなっていらっしゃるね、数は少なくなっておりますし。そういったときに、今までの市役所がやってきたような支援の在り方だけでは駄目だろうと。今般、様々な事業を出させていただく、例えば、50万円とかです。貴重なお金ですから、これは大切にに使わせていただかなきゃいけないんですが、発想力を見ると、物すごく我々のヒントになるような発想力あります。そこに市役所の職員が入り込むことが重要だろうと、一緒にそういった事業をさせていただくことが大変重要だと。それと同時に、我々市役所は、やはり縁の下の力持ちになったほうがいいだろうというのが、ここ最近の動きを見て物すごく痛感しているところがございますので、こういったことを生かせるようなことができれば、また、新たな市民活動家とか市民活動団体をなされる方とか若い方とか、そういった方がもう少し踏み込んで、いろんな活動をしてみたい、一緒にやってみたい、させていただきたいという動きにつながっていくかなと感じていますので、これまでの支援の在り方をしっかりと検証させていただいた上で、今後の長期総合計画に合うような形のこういった取組をぜひ積極的に、考え直しながら、させていただきたいなと今思っているところでございます。

○土見委員長 曾我委員。

○曾我委員 分かりました。

ぜひ、こういうふう非常に社会的に厳しい状況になってきますと、やっぱり役所は役所、市民は市民、団体は団体ではなくて、やっぱり一緒になって考えて連携して頑張っていこうよという感じの取組が非常に大事になってくると、それが最後には、本当にみんなが笑顔で暮らせるようなまちになるんだろうと思いますので、ぜひそういった取組を進めていただきたいなと思います。

もう一つは、市長さんというのは4年に1遍、選挙がございます。5年間の計画ですが、市長さんは、自分の、よく市長になりますと、何をつくった、何を建てた、何をやったということが非常に目立つわけですけども、今回の6次の中で、市長さん、せっかくですから、今後どのように、自分の公約との関係だとか含めてどんな考えを持ってらっしゃるのか、聞いて終わりたいと思います。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 何とお答えしていいのか。公約は大切な市民の方とお約束ですから、それに沿って努力するという事は、これは当たり前だと思います。ただ、その一方で、白いキャンバスに絵を描き始めているわけじゃないので、現実をしっかりと、今厳しさを痛感させられております。山積している課題をどのように解決するか、このことが非常に重要で、そのプラスアルファでコロナ禍が出てということになっていますので、僕としては、僕が市長をやったモニュメントというのを考えることは全くございませんし、いろんな長期的に考えるときには、10年先、20年先を考えて物事を今やらせていただいています、今、すべきことを。その一方で、僕の任期は4年間なので、まずは4年間、そういった考え方に沿って、今与えられたものをしっかりとやる、将来を見据えてやらなければいけないことをしっかりと対応する、このことに注視することが重要だと思っていますので、残り2年しかありませんけれども、その中で自分の公約の中ででき得るものから対応していく必要性を感じていますので、しっかりと今は何とか一日一日厳しさを増していますので、そのことに精いっぱい対応させていただくことで見ていただきたいと感じておるところでございます。

○土見委員長 ほかに質疑はございませんか。（「なし」の声あり）

暫時休憩いたします。

午前11時59分 休憩

午前11時59分 再開

○土見委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

これより再質疑を行います。

ご発言のお一人の持ち時間は、答弁を含めておおむね30分以内とさせていただきます。また、再質疑の対象は、当局の答弁に対するものに限るといたしますので、ご協力のほど、お願いいたします。（「なし」の声あり）

それでは、お諮りいたします。以上で、前期基本計画についての質疑を一応終了したいと思いますがご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、さよう決定いたしました。

さらに、お諮りいたします。本日はこれで会議を閉じ、12月13日午前10時より再開いたしたいと思いますが、ご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 ご異議なしと認め、さよう決定いたしました。

なお、12月13日の委員会では、基本構想及び前期基本計画に対する締めくくりの質疑を行った後、討論の上、採決を行いたいと思います。質疑時間等につきましては、後日、議会運営委員会にてお諮りいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それで、以上で本日の会議を終了いたします。

お疲れ様でした。

午後0時00分 閉会

塩竈市議会委員会条例第29条第1項の規定によりここに署名する。

塩竈市長期総合計画特別委員会委員長 土 見 大 介

令和3年12月13日（月曜日）

塩竈市長期総合計画特別委員会会議録

（第6日目）

塩竈市長期総合計画特別委員会第6日目

令和3年12月13日（月曜日）午前10時00分開会

出席委員（18名）

阿部 眞 喜 委員	西村 勝 男 委員
阿部 かほる 委員	小野 幸 男 委員
菅原 善 幸 委員	浅野 敏 江 委員
今野 恭 一 委員	山本 進 委員
伊藤 博 章 委員	香取 嗣 雄 委員
志子田 吉 晃 委員	鎌田 礼 二 委員
伊勢 由 典 委員	小高 洋 委員
辻 畑 めぐみ 委員	曾我 ミヨ 委員
土見 大 介 委員	志賀 勝 利 委員

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

市長 佐藤 光 樹	副市長 佐藤 洋 生
市民総務部長 荒井 敏 明	健康福祉部長 小林 正 人
産業環境部長 小山 浩 幸	建設部長 相澤 和 弘
市立病院事務部長 本多 裕 之	水道部長 鈴木 宏 徳
市民総務部 政策調整監 兼政策課長 佐藤 俊 幸	市民総務部 危機管理監 井上 靖 浩
健康福祉部次長 兼子育て支援課長 小倉 知 美	市民総務部 総務課長 鈴木 康 弘
市民総務部 財政課長 高橋 数 馬	健康福祉部 長寿社会課長 中村 成 子
産業環境部 水産振興課長 鈴木 陸奥男	産業環境部 商工港湾課長 伊東 英 二
産業環境部 観光交流課長 布施 由貴子	教育委員会 教 育 会 長 吉 木 修

教育委員会
教育部長 鈴木康則

教育委員会教育部
学校教育課長 白鳥武

教育委員会教育部
生涯学習課長
兼生涯学習センター館長 鈴木和賀子

事務局出席職員氏名

事務局長 川村 淳

議事調査係長 石垣 聡

議事調査係主査 工藤 聡美

議事調査係主査 工藤 貴裕

会議に付した事件

付議議案について

- ・議案第64号 第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて

午前10時00分 開会

○土見委員長 おはようございます。

ただいまから、塩竈市長期総合計画特別委員会を開会いたします。

出席者の方々に申し上げます。本日の会議は、過日作成いたしました、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた塩竈市議会運営指針に記載のと通りの感染症対策を行い開催してまいります。

発言の際にも、マスクを着用したままで結構でございますので、ご案内申し上げます。

また、体調管理の観点から、水分補給を行うための飲料の持込みを許可しておりますので、ご案内申し上げます。

本日の審査の議題は、閉会中の継続審査となっております議案第64号第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについての1件であります。

これより議事に入ります。

本日は、基本構想及び前期基本計画に対する締めくくりの質疑を行います。ご発言のお一人の持ち時間は、答弁を含めて30分とさせていただきますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、質疑の際には、資料番号及び該当ページをお示しの上、ご発言くださるようお願いいたします。

それでは、質疑に入ります。志賀委員。

○志賀委員 おはようございます。

本日のトップバッターとして質疑させていただきます。

まず今回の長期総合計画第6次ですね。これは、国では平成23年5月2日に地方自治法の一部を改正する法律が公布されまして、基本構想の法的な策定義務がなくなったという中で、今回第6次長期総合計画というものを策定するわけですが、この塩竈市としてはどのような位置づけといたしますか、基づいてこれを今後施行されていくのか。国の縛りがなくなっても市独自としてどこまでもやっていくのか、あるいは、この6次計画でその後は考えていこうというのか、ちょっとその辺のところを基本的な考え方を教えてください。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 やはり、これまで長期総合計画、今おっしゃったとおり自治法上で基本構想の策定義務はなくなったというところです。そういう中で、今回、第6次の基本構想、基

本計画というものを作成しました趣旨というのは、やはり今後、塩竈市が将来に向かってどのような道しるべをつくって、それに乗って市民の皆さんの福祉サービスを向上していくかという指針になります。やっぱりそういったものは、皆様に事前にお示しした中で、市の方向性、そういったものをお示しし、皆様のご意見を踏まえながらそれを策定していくという非常に大きなものと位置づけてございます。そういう意味で、今回、その自治法改正でなくなった点とか、審議会の皆様にもこれまでの経過を、皆全てお話をさせていただき、そして、その長期総合計画の構成というものについてもご議論いただいた中で、今回、基本構想、基本計画、それにぶら下がってきます実施計画という3層構造の中で進めていくということをお決めいただいたという経緯がございます。我々は、そういったものの経緯をちゃんと大事にしながらも道しるべ、そういったこれからの方向性を示して、着実に計画的な事業を展開していくというものを位置づけにしております。

以上です。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 分かりました。一応こういう計画というのは、国が定める定めないは別として、やっぱりその市が独自に計画をちゃんと立てて、その計画を遂行に当たって、責任を持っているんな対策を立てていくというのが私は筋ではないかと思っておりますので、そういった意味では、6次計画を立てて、それに基づいて具体的な施策を考えながら遂行していただきたいと考えます。

それで、第5次計画では、基本計画の各章に市民ができることという項目が設けられていました。単なる行政計画ではなくて、市民に積極的な参加を呼びかける公共計画、市民とともに行政を行う計画の様相を呈していたわけですが、第6次ではこの点をどういうふうに捉えて考えていかれるのか、ちょっとお聞かせいただきたいと思っております。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 これまで市民の皆様との協働という観点というのは、これまでも継続する部分としてはやはりパートナーであるということ、やっぱり皆様と一緒にまちづくりというものを進めていくと。ただ現状としまして、実際のところ、市だけ市役所だけではいろいろ物事が進まなくなっているという現状もございます。例えば、そのニーズが複合化してきていると。それに対して横断的に市役所も対応しなければいけない、その中で市民の皆様にもご協力いただく中で、より効果的に即効性がある、そういった事業展開が必要になって

きているという観点からしまして、それは継続的に市民の皆さんとの協働のまちづくりという観点で進めていきたいというものを計画上に盛り込ませていただいております。

以上です。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 ずうっと協働という言葉が使われています。ただ実際には、本当に多くの市民が協働に関わるという状態ではなかったのかなと、今までもね。やっぱりそれをどう克服していくかということが大きな課題ではないのかなと私は思うんですね。一部の方だけがいろんな組織ができて中身が同じ人であったり、それでは意味ないし、できるだけ多くの方が参加できるような仕組みづくりというのが、これは大切なことだろうと思いますのでそういうところを、市民の方がいろいろ興味を持っていただけるような情報をどんどん出していただくと、そして参加を促すということが大事だろうと思いますので、その点も頭に入れて計画というものを実施していただければと思います。

それと、人口減少についての対応についてでありますけれども、5万人という設定をされています。それで、委員会では、ちょっとかなり難しい数字ではないのかというような意見もあったようですが、実際に今までの人口の減り方を見ているとなかなか難しいんだろと考えます。それで、資料No.の28のページ36に、妊娠から子育てまで切れ目のない支援体制を築くと、こういったことも当然5万人維持の一つの大きな政策ではあるとは思いますが。ただ、妊娠から子育てということは書いてありますけれども、妊娠していただく環境づくり、ありていに言えば結婚をどうするんだと。このところをしっかりと取り組んでいかないと、私は前にも何回も言っているわけですね。結婚について、婚活をちゃんと市でやったらどうですかと。だけれども、言った後、1回だけやりました。それで、それっきりでした。そうじゃなくて、やはりこれは継続して行政が取り組む問題だと私は思うんですよ。だって、結婚しないで子供、普通は産まれないですよ。最近では、結婚前にできて結婚するという人もいますけれども、普通は、我々の感覚では、古い人間の感覚では、結婚しないと子供が産まれないという感覚があるわけですから、やっぱりそのところをしっかりと取り組むことも考慮に入れていかないと、なかなか人口減が抑えられないのではないのかなと感じます。人口のあれで、未婚者のやつ、数字を出してもらいました。結局、結構かなりの厳しい数字であります。それで、男性の場合は、もう3人に1人が何か独身で生涯を終わってしまうというように寂しい現実も見えたような気がしますので、そうならないような人生を送れるまちづ

くりをぜひとも考えていただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょうか。その結婚をさせるための施策、どうでしょうか。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 いわゆる婚活といたしますか、そういうお話かと承りました。

市役所でどこまでできるかというところではございますけれども、やはり一番の大事なところというのが安心して結婚できる、安心して子供が産み育てることができるという分野では、市役所が大きな役割を担うのかなと思います。ただ一方で、個人的な話になってきますと、やっぱり結婚に対する価値観というものが相当以前とは変わってきている部分も現状としてございます。そういったところを多くの若い方々にいろいろご意見を伺った中で、こういうことがありますとかという話合いが必要なのかなと思っています。来年度に向けまして、そういった婚活という事業名称になるか、ちょっとそこはまだ整理できておりませんが、そういった若い人たちの感覚、そういったところに少し踏み込んだ中で、結婚観に関していろんなご意見をいただく中で、こちらでの子育ての施策の話だったりとか、そういったことに結びつけていけるようなそういう環境は整えていきたいなと思っております。

以上です。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 結婚はさせるために、産後の幼児教育から何からやるんだということですがけれども、たださっき言ったように、そのところをちゃんとやっていかないとなかなか難しいだろうと思っています。当然、いろいろ各市町村の行政視察とか、あと前にネットか何かで調べてきますと、例えば、一つの例として、今、仲人さんというのはいないんですね、世話を焼く人があんまりね。そういったことを補完する意味で会議所に仲人さん役を担う方を置いて、それで出来高払いと、1組達成すると10万円褒章を出すと。それで、その会議所の中に希望者を登録していただくというような仕組みでやっていて、結構成果を上げているというところもあるようですし、ただ単になかなか婚活で集まってくださいといっても、なかなかやっぱり抵抗があってそれも難しいでしょうし、やはり履歴を見て、生活環境を見て、こことこの人だったらうまく合うんじゃないかなと。今、マッチングアプリなんていうものもありますけれども、やはりそういった人生経験の長い人がそういった生活環境を見て、あ、この人とこの人いいかもしれないなというようなそういった感覚でマッチングしていくと、より結婚できる可能性が強くなるのではないかなとも思いますので、そういったこともひとつちよっ

と政策の中に入れていただいてトライしてみたいかなと思いますので、これはこの場では結論はいいですから、一応こういふことでお願いしたいと思います。

それと、先ほども子育てということで、子供の時間をいろいろな成長過程で、今、精神的に障害を持った子供さんたちが結構、我々の子供時代から比べたら割合が何か高いような気がしているわけです。特に、アスペルガー症候群とかこういった精神疾患というのは、原因が何であるかというのはなかなか特定できないようですが、精神的安定ということ考えた場合に、物の本によりますと、ゼロ歳児を保育していると、子供さんたちが精神不安定になって、20年後、30年後にいろいろな症状が起きてきたというような社会的な実験をした事例もあるようですので、やみくもにゼロ歳児保育ということに突っ走るのもそういうことを考えるとなかなか難しいだろうと。そうすると、せめて産まれてから1歳の間は、お母さんが仕事をしなくても、一定程度生活レベルが保てるような児童手当を塩竈市が独自で支給するような政策を考えると、それが本当に安心して子供さんを育てられる環境づくりにつながってくるのではないのかなと私は考えるわけですね。それで、最近、親が子供を殺したり、子供が親を殺したりという事件が相次ぎます。そういった問題がなぜ起きるのかという根本的な原因を、何か刑事事件だけ捉えて、精神的構造から見てどうなんだというような捉え方をなかなかしていないんじゃないのかなということもありますので、そういうこともひっくるめて、塩竈市でも社会現象と捉えて事件を起こした方の生活環境とか、そういった幼児時期の教育環境とかということも、やっぱりしっかりと捉えて、こうあるべきだなというような子供、幼児保育というんですかね、そういうことも必要なんでないかなと私は常々感じているわけですが、その辺について、まずちょっとお答えを。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 当然、自治体の規模とかやれることには限界がございますが、僕がやっぱり必要だと思っているのは、塩竈市としてそういったライフスタイルに対してどのように骨格の考え方があるのかどうか、必要なのかどうかということを最近考えております。

先ほど志賀委員がおっしゃっていたのもそうだと思うんですけども、人生の中で幾つかの大きな変化というのがやっぱりあるんですよ。例えば、大学に進学するとき、就職するとき、ご結婚される時、マイホームを建てる時、その節目節目のときに、例えば、我々がどういふお手伝いができるのかということの理想論的なものも一つの骨格として考えておく必要があるだろうと。そのときにどういふお手伝いができるのか、どういふことを積み上

げれば、また、いずれ1回離れたとしても戻ってきていただけるのかとか。やはり長期総合計画というのは、そういうある意味では理想論の中でどのような目標を立てて、それに向かって努力し続けるのが重要なのかということの一つの指針だと思っております。先ほどのご指摘についてもそのとおりだと思っておりますので、我々としても、やはり子育ての前に妊活の前に婚活だというのもまさにおっしゃるとおりだと思いますので、そういった一つのライフスタイルの流れを理想論として我々がまず骨格を考えるべきかなと、今お話をお伺いして考えさせられましたので、そういったものをまず庁内でいろいろ議論させていただければと思います。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 お金のかからない差別化というんですかね、そういった対応の方法というものも当然あるかと思っておりますので、ひとつちょっと検討してみたいかかなと。あと私、「0歳児保育は国を滅ぼす」という本を持っていますので、小倉子育て支援課長にお持ちしますから一応読んでいただいてちょっと勉強していただく。

それと、今アレルギー疾患、物すごく多いんですよ。この原因も、やはり体の中に寄生虫がいなくなったことによる弊害だよとうたっているお医者さんもいます。自ら人体実験で寄生虫を入れて、それで自分もひどいアレルギー疾患だったのがそれによって収まったというようなこともあるようです。これは、100%ではないにしてもかなりの確率で収まることが確認されているようですので、そういった本も持っていますので、ぜひ読んでいただいて。全てが衛生状況をよくするということが、子供を丈夫にするということにはつながらないという逆の弁があるということも知った上で、いろいろ対策を考えていただくことによって、また違った味のある子育てができるんじゃないかなと思いますので、その辺をあとまた、お持ちしますので読んでみてください。

次に、地元の経済活性化、同じく資料No.28のページ53ですね。活力に満ちた産業づくりということが書いてあるわけですが、例えば、水産加工を見た場合に、これから燃料をどうやって確保するかと一番問題であると。魚市場もしかり、水揚げをどう増やしていくかという大きなテーマになるわけですが、平成25年でしたかね、宮城県が塩竈市をばら積み貨物の指定港にしたわけですね。それは、市長も当時、県会議員をやられていたのでご存じだと思いますけれども、その際に水産業界の団体、人が1万トン岸壁の後背地に2万トンの超低温冷蔵庫を建設という話も持ち上がりましていろいろやったわけですが、残念ながら当時の佐藤市

長は全く興味を示されなくて、全然、取組も何もなかったということで今日まで来ているわけですが、当時とそのときと今とでまた、現状は違うとは思いますが、やはり塩竈に新しい、塩釜港に新しい水産加工原料を入れようとしたときに、要するに航路の深水の問題が前からずっとなっていますよね、問題にね。結局、今7.5がそれを9メートルにしないと、今500トンクラスの海外まき網の船が入って来れないよと。経済効率をよくするために大きなスクリューになって、ゆっくり回して省燃費にしているというような船が圧倒的に多くなったので、というところのまき網というのは、ご存じのとおり冷凍カツオを持って来る。今、一本釣りの冷凍カツオが塩釜港にどんどん入って来てはいただいていますけれども、やっぱり海外まき網の船も塩釜港にもっと入れるような形、体制を取るためには、そういう航路のしゅんせつ、マイナス9メートルの実現、それと超低温冷蔵庫の確保、こういったのが一つの大きなテーマになっているわけですね。ですから、そういうことも含めて検討していかないと、ただお題目だけ上げて具体的なものはなかったら、5年間も待って何もなしで進んでしまうのではないかなと思うんですよ。ですから、あの頃、超低温冷蔵庫についても、当時2万トンで20億だったかな。それで、業界の人たちもじゃあ組合をつくってやろうかというところまでいったわけですが、全然、結局それっきりで立ち消えになってしまったので、私としては非常に残念に思っていたわけですが、そういった種をもう一回水をかけて芽を出させるということも塩竈の将来にとっては大事なことだと私は思うんですが、検討の余地があるのかなのかだけ、ちょっとお答えいただきたいと思います。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 大事なご視点だと思うので、私がお答えさせていただいたほうがいいだろうと思います。志賀委員もご承知のとおりでございまして、今までは塩竈の歴史を考えたときに、やはりマグロに特化した形で今日まで形成をしてきました。ただそれがもう、だんだんだんだん捕れなくなってきた、一時は500億円あったものが現在では、今年80億円は超えるだろうと言われておりますが、八十五、六億円というような状態まで下がってきた。ただこれは、塩竈に限ったことではなくて、日本国内水揚げ量全体の総量がもう半分近くまで落ちている状況の中で、今後どうやって生き残りをかけていくかと、そこが大変重要なんだろうと思います。超低温冷蔵庫については、当時、最先端の考え方だと思います。ちょっと早い動きだったと思いますが、それを気仙沼はたしか導入したはずだと思います。塩竈はそこまでは至らなかった。また、航路につきましても、これは見解の相違もあるんですけども、当時の

昭市長、僕の感覚ですけれども、やはりまずは7.5をやってから9メートル、ただ業界の人たちは、やはり9メートルから要望すべきじゃないかという議論があったと思います。あとは、馬放のところが出っ張りがあるんですよね。そこに引っかかるというお声は、いまだにいろんな船会社の方からいただいて県にも要望して調べてもらいましたが、データのにはちょっと出てこなかったという経緯もございます。

ただ僕は、今後、水産が生き残るためには、当然、生マグロのみだけでは当然生き残れないというのは、今の現状を見れば明らかだと思っています。冷凍物をどのように取り扱っていくか、青物をどのように取り扱っていくか、そう簡単には進まないですよね。そういった設備の問題、また、背後にある加工場、または出荷先、そういったものが全てそろわないと、なかなかやっぱり厳しいだろうと思っています。それを市だけで何かをしようと思っても無理です。業界だけで何かをしようと思っても無理です。半歩先を考えて今何をすべきかということ、しっかりと明確に考えていかなければいけないだろうと私は思っていますので、いまだに、例えば、超低温冷凍庫については必要だと思います、最低限。そうなったときに私どもでつくれるのか、業界でつくれるのか、例えば、民間のそういった会社にアプローチをかけるのか、そういったありとあらゆる方向性を考えて見出して次の段階に行かないと、基幹産業が水産ということは、ある意味では市民の方々が認知していかないだろうという厳しい見方も推しております。しっかりとその辺、話し合いをしながら半歩先の動きができるように、下がってからその問題に対処して、何とか応急処置しようというのが今までの行政の在り方だったと思いますので、少し先を見てそういったところに投資をするということも、塩竈市の財源、体力次第によっては変えることができるのかなと思っていますので、いろいろご指導をいただければと考えております。

○土見委員長 志賀委員。

○志賀委員 ありがとうございます。1万トン岸壁も前は、くの字だったのが真っすぐになりましたし、それで冷凍貨物を水揚げするときには、雨が降ると仕事できないんですね、くつついちやうからね。そういった意味では、差別化するためには、全天候型の水揚げ場の確保とかいうようなことも一つ、ポートセールスの上では非常に有利になるとと思いますので、そういったことも頭に入れておいて考えていただければと思います。

それと、同じところに地域資源を生かした宮城の台所塩竈と、これは前にも私質問しましたけれども、食のブランド力向上と新たな地域資源の創出とあるわけですね、言葉ではブラン

ド力向上とね。ただ、このブランド力の向上というのは、言葉ではこういう表現をできるかと思いますが、じゃあ現実的に何をどうブランド化するのといったときに、非常に難しいと思うんですよ。私も視察でこのブランドについてのいろいろ取り組んでいるところを見てきましたけれども、結局、現実的にちょっとこれは無理だなという施策が結構あって、結果として皆失敗しているわけです。成功しているのは塩竈のひがしもの、これは成功例ですよ、希少な。何かというと、やっぱり品質なんですね。だから品質をしっかりと守れる施策をしていかないと、幾ら口でブランド力向上と言ったって消費者は見向きしてくれません。そのところをやっぱり頭に置いて、こういった施策を考えていただきたいなと思います。

役所の方は、作文作るの上手です。けれども、そこに裏づけする知恵がもうちょっとあるといいなと。そのためには、自らが情報を集めていかないとそういった施策も浮かんでこないと思いますので、そういうところをひとつ。今までは抑えつけられて、十分に能力が発揮できなかった方もたくさんいらっしゃると思いますので、市長も替わったことですので、伸び伸びと自由な発想でどんどん、えっと思うような政策を我々に提示していただきたいなというのを期待いたしまして、以上、私の質疑を終わらせていただきます。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 それでは、続きましてお伺いしてまいりたいと思います。

それで、先ほど志賀委員のご質疑の中で市長もご答弁なされましたとおり、まさにこの長期総合計画というところについて、ある意味では理想論だということでのお話ございました。私もそのとおりで、理想論がそのとおりというよりも、こういった長期の計画においては、ある意味ではそういった理想を掲げながらそこにつけて、いかに実現を図っていくのかという中身で、まさに夢を与えるような、そういった形でつくるべきものなんだろうと私も考えているところであります。そうした中で、この間、質疑も様々あった中で、いろいろなことが明らかとなってきたわけではありますが、一つには目指すべきところ、特にまず冒頭のところで人口の考え方ということもございましたけれども、例えば、資料を要求させていただいた資料18ページ以降のところなんかを見させていただいて、例えば、将来人口5万人というところの考え方、算出の根拠、あるいは、どのように取り組むのかということについても、一定のお示しをいただいたわけでありまして。そうした中で、社会増減を見ればいかに転入増と、あるいは、自然増というところで見れば、合計特殊出生率について、どのように引き上げていくのかということについてもなるほどというところではあったわけですが、一方で、

非常に大変な中身だなということも実感をしたわけであります。

また、市民の皆さんが描いた100の暮らしといったものもご紹介をいただきまして、そういったまさにどういった暮らしを送りたいのかというところで、まさにそこを目指す、こういった施策の方向性というところについても一定の理解をしたところであります。そして、そういったものの裏づけとなるいわゆる成果指標の設定については、一定、曖昧とってしまうとあれなんです、先を見通す中で難しさはあるんだろうと思いますけれども、まさに大きな目標を目指した方向性としては一定の理解をするところであります。

そこで、やはり引っかかってくるのは、まさに理想にも等しいこうしたところ、大変大きなところを目指すに当たって、組織として果たしてそれが実現可能なのかどうかと、そういった在り方について、どのような位置づけで今後取り組んでいくのかということがやはり一つ引っかかるわけであります。そういった点で、ちょっとお聞きをしたいと思うんですが、資料No.28の72ページ、ここにまさに端的に一つ示されている部分なのかなと思っておりまけれども、この中で特に（２）の①なんかを見させていただきますと、計画的な財政運営、あるいは、適正な定員管理と一文があります。持続可能な行政経営ということでお言葉があるわけでありますが、改めてこの適正な定員管理というところについて、どういったお考えなのかお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 適正というものの考え方になりますけれども、一つは業務量とそれに対しての人員の配置だったりとかそういった点もございまして、それから他市町村との比較をした中で、一体本市はどういうふうになっているかという検証も必要かと思っています。そういう中では、決算統計上での類似団体との比較でありますとか、あるいは、そういったところを比較した上で、本市が特徴的なものは何があって、どの分野でその適正配置に関しての増減があるのか、そういった分析をしながら、今本市で求められている行政のサービスを見た上で、どういう部署にどういう分野に正職員でありますとか、会計年度任用職員の配置というものがどういう形でやるのが一番効率的かという意味での適正化という考え方ではございます。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 お答えをいただきました。

それで、業務量等々の一定、調査、検証を進めると、あるいは、先ほどお話しございましたとおり、類似団体との比較というところで本市がどういった位置づけにあるとか、そういったことについても今後検証の上、一定の見直しを図っていくというような中身かなと思うんですが、全国を見渡して考えてみましたときに、そもそもが、じゃあどこの自治体だったらというところを見ますと、どこもある意味では横並びで非常に厳しい中であって、そういった中で、総務省をはじめ国の方針に従ってこれまで定員管理というものが行われてきたと。そういった中で、類似団体との比較というところをもってどういったところに着手すべきなのかというところが、果たしてどこまで明確になるのかなというような懸念も一つは持っているわけでありまして、その上でちょっと申し上げたいと思いますが、これまで私どもといたしましては、震災後、一定凍結はされてきたものの定員適正化の流れ、あるいは、退職者不補充と、その大本には当然国の方針があるわけでありまして、そういった中で職員の方がどんどん減っていくという中で、ある意味では行政のあらゆる部分に一定の弊害が出てきたんではないかというような心配を、指摘をしてきたわけでありまして。

そうした点で、例えば、福祉、あるいは、災害時の対応とこういったところ、あるいは、通常の窓口業務も含めまして、あらゆる場面で今、現場が疲弊しきっているのではないかなというような思いもあるわけでありまして。そういった中で、例えば、長時間労働、これは当然、公務労働に限らず言われていることではあります、公務労働においても長時間労働、あるいは、メンタル不調による休職と、さらに言うならば、若い年代の退職者の増という中に今一つは大きな表れが見えているのではないかなとも捉えているわけでありまして。そういった点を踏まえまして、組織の在り方、考え方、こういった点について、どのように捉えどのようにしていくのか、その点について、お聞きをしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 まさに今、委員がおっしゃったような現状も確かにございます。そういったところをやっぱり一つ一つ分析するといいますか、内容、事情を確認していく必要がまずあると。他市町、その他の類似団体の比較についても様々な分野で、あるいは、事業形態別の人数の違いがあったりとか、本市が特徴的なものと、それから各市が特徴的なものの中での違いをはっきりした上で、本市の定員とはどうあるべきなのかというところをちゃんと見定めていきたいと思っております。

確かに長時間労働の部分については、これは働き方改革内で強くその辺の提言というものが

非常に大事になっておりますので、そういった時間外労働についての管理の徹底はするといふところ、それから、場合によっては、長時間勤務をしている職員に対してのストレスのチェックでありますとか確認でありますとか、あるいは、医師による面談でありますとか、そういったきめ細かな対応の中でもちゃんと職員の労働環境というものをきちんと捉えた中で、適正規模だったりとか一番効率的な業務というものはどういうものかというものを、常に追求していくという姿勢でいきたいと思っております。

以上です。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 補足をさせていただきます。大変重要な視点でございますので、言葉にも気をつけながらその辺ちょっと補足という形に言わせていただきます。

職員定数に一つこだわりを持つと、職員定数は抑えてきたけれども、一方で任用職員が増えているという現実も塩竈市役所にはあります。あります。その辺の比較も非常に重要になってくるだろうと思っております。それと同時に働き方改革という考え方は、一つの基準としてあろうかと思っております。ただ、その働き方改革も、四六時中私どもがじゃあ職員の皆さんの仕事を監視できるのかといたら、現実的にはそうじゃない部分もあろうかと思っております。仕事の質の中身、こういったことも大変私どもとしては重要な点として見ていかなければいけない。あまり定数管理にだけ、正職員の定数管理にだけこだわっていくと、一方で任用職員が増えている。じゃあ、適正な職員定数というのは、どこにあるのかという一つの基準を決めなきゃいけない。それに沿った形で、任用職員さんの一つの基準も決めていかなきゃいけない。そのところが曖昧だったところが塩竈市役所にはあります。ですから、今、僕とすれば、その辺のところをどのように、適正な規模とは、じゃあどうなんだということについて、庁内で議論をしていただくようお願いをいたしました。

その一方で、職員の方の仕事の中身や内容、状況、それに合わせてどの程度任用職員の方々が必要になってくるのか、それは一概では言えないところがありますけれども、やはり同規模、レベルの自治体と比べてどうなんだということは、一つの判断基準になるかと思っております。そういったことを、やっぱりしっかりこの機に調整すべき問題だと思っております。そう簡単には言えません。人様の生活もかかっていますし、状況もかかっていますので、安易なことは言えませんが、ただ無理をすると固定費でございますので、市に占める固定費の割合は皆様方のほうがご承知の上だと思いますが、圧迫をしてしまうところもあります。た

だ、無理な労働を強いることでその職員に過度に比重がかかったり、いろんな問題を醸し出すような当然働き方はあってはならないとも思っておりますので、そのところをしっかりと見極める必要性がこの機にあるのではないのかなと今考えておりますので、今、小高委員ご指摘いただいた部分については、デリケートだけれども、しっかりと材料を集めて対応させていただきなさいいけないだろうと思います。塩竈市がピークのときの職員とかアルバイトの方の人数と、今現在での正職員の方と任用職員の方の人数のバランスって実はそんなに変わっていないんです。じゃ、それはどうなんだということの分析も私としては、ぜひさせていただきたいと。6万4,000人いたときの人口のとき、今5万3,000人に減った塩竈市の状況の職員さんなり任用職員さんの数、これをしっかりと精査しないとまずいと今は思っておりますので、丁寧にそういった議論もさせていただきたいと考えております。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 お答えを頂戴いたしました。

それで、先ほども申し上げましたとおり、この長期総合計画の中身を見ますと、非常に大変な中身だと。一定現実を踏まえながらも協働というお言葉もございましたとおり、市民の皆さんとともにある意味では夢を描き、そして実現に努力をしていくと。まさにそういった中身でなければならない。そういった中で、その達成のためにどういう組織にしていくのかというところでは、先ほどお話ございましたとおり、業務量、あるいは、時間と必要な人員、さらに言うならば、まさにこうしたところで現場の意見というものが非常に重要になってくるんだろうと、上から押しつけるだけの計画ではまさに絵に描いた餅といいますか、思ったような結果は導き出せないだろうという中で、これまでの計画、例えば、行財政改革、推進計画、あるいは、定員適正化、退職者不補充、こういったところについては、ある意味ではこれが理想に向かって突き進む中で一つの縛りといいますか、そういったところになっていた現実もあるんだろうと思います。そういった点では、こういった市政からの転換をぜひ果たしていただきたいと。

先ほど市長から正職員、あるいは、会計年度任用職員の数についても言及がございましたけれども、仮に検証した結果、どうしても足りないということであれば、例えば、正規職員の採用の増も辞さない、結果として、先ほど固定費というお話ございましたが、結果として人件費が増えてしまうが、そうしなければ計画が達成できないということも十分に考えられるわけでありまして、そういったある意味では覚悟も含めて今回の計画を達成していくとい

うご覚悟があるのかどうか、ちょっとその辺りをお聞きしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 ちょっと先ほども市長からもお話ありましたように、物事を達成するための人、人事管理というのが非常に大切だという当然ながらのお話だと承っております。

私たちもそのような考えで、これからできるだけ効率的にやるために業務の見直しなども必要だと思っております。効率的にというのは、例えば、ルーチン的なものは機械化していくと、その中で市の職員の役割というのは、もっとプランニングにシフトしていくとか、そういった考え方の整理が必要かなと思っております。ただ一方で、先ほどのお言葉にもありましたように、当然ながら人事管理だけでは一般的な会社というのはつぶれてしまいます。いわゆる財務管理という点も当然ながら必要になってまいります。この両立というものが長期総合計画の実現のためには両方絶対的に必要な分野であるということの理解もありますので、両方の中でどういった中身が必要になってくるかというところを、詳細な分析の中で基準的なものをきちんと決めていくというふうになるかと考えております。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 決意のほどについては、お聞かせをいただいたわけでありませう。

ただ一方で、であるならば、そうしたある意味では、市長をはじめとしたその覚悟について、国の方針そのものがある意味ではブレーキをかけてしまう現実がまさに目の前にあるんだらうと、そこについては、この場ですので申し上げるだけにしておきますが、まさにそういった現実についても立ち向かっていく、そういったこともある意味では必要なんだろうと思っております。

そして、先ほど、その後半部分に今度はアウトソーシングという言葉が入ってくるわけですが、例えば、別冊4の資料の65ページなんかを見ますと、いわゆる第5次長期総合計画の総括と今後に向けた課題の中で、組織のスリム化を進めるためのアウトソーシングの推進ということで、今後の課題がなっていると。そして、今後の方向性としてアウトソーシングを推し進めていくことで行政コストの削減を図るというような記載がございます。そういった点で、この点についても改めてこのアウトソーシングの考え方について、まず初めにお伺いしたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 アウトソーシングという考え方というのは、単に人を減らすという話だけではございません。やはり、私たちでなかなか気づかない民間のノウハウというものを十分に生かす中での行政サービスの向上というのも一方では考え方としてございます。その両立の中で一番いいものは何かとなったときに、委託でありますとかアウトソーシングに向けた整理は絶対的に必要になってくるということです。そこは、先ほどもお話ししましたように、一定程度アウトソーシングによる財務事情の優位性というのものもある程度はございます。まず両方、それを担っていきける、かなえられるという方法の一つでもありますので、もちろん安易なアウトソーシングという考え方ではなくて、まずは市民サービスの向上にきちんと寄与するかどうか、そしてそれが財務的にも非常に有利なものであるか、両方の結果をちゃんと見定めた上で、これを推進していくという考え方でございます。

以上です。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 ただいま考え方について、お話をいただいたわけではありますが、当然全てのことについて、全て公でやれというようなことを申し上げるつもりはありません。ただ一方で、例えば、先ほど財務上の優位性というようなお話もございましたけれども、その財務上の優位性、あるいは、民間活用分の向上、ここに対してはうなずける点もあるんですけども、ある意味ではアウトソーシング神話ではないんですがあまりにも偏重してきた部分も、塩竈市だけということではなくて全体の考え方の中であつたのではないかなと捉えております。そういった中で、これもこれまで指摘申し上げさせていただいてきたことではありますが、例えば、福祉、あるいは、保育、教育等、特にあつてしかるべきものと権利として位置づけられてきた中で、そうした中で、どうしても利潤という部分で縛りのかかる民間に安易に任せるということは、果たしてこれは権利の侵害にもつながりかねないですよということ、これまでも指摘をさせていただいてきたわけでありまして。そういった点で、公として守るべきものについては、これは必ずそこに存在をするわけでありまして、その点にまで踏み込んで、あまりにも組織のスリム化というところに偏重するのはいかがなものかなということも併せて申し上げておきたいと思うわけでありまして。

それで、本市がということではなくてちょっと全体的なお話だと思っておりますが、あくまで一つの手段であつて、そこが目的化すれば目的化してしまうということ、これは決してよくないことだろうと。そうした中で、これまで例えば、国を含めた議論なんかを見てきた中で、

なぜか民営化すれば人も集まると、あるいは、質もよくなると、その根拠については、なかなか分からない部分もあったわけであります。そういった中で、その流れの中で組織のスリム化を図りなさいと、あるいは、こうしたところにお金をかけちゃ駄目ですよと。さらに言うならば、民間のほうが、助成が手厚いんだからとか、こうした理由でのアウトソーシング、本市がということではないですよ、全体的な流れの中でそういったケースというのも多々見受けられたかなと捉えているわけであります。そういった中で、適正な定員管理、あるいは、アウトソーシングという一つの組織管理の考え方が今回この計画の中に示されているわけですが、先ほどその市長の決意のほども聞かせていただいていた一方で、果たしてそのご決意は、まさにそのとおりなんだろうと思うんですが、その一方で、国を含めた全体の流れの中で今回の計画の立ち位置、そういったものを見たときに、現実的になかなかこれまでの考え方と変わっていかないのかなというような懸念もあるわけであります。

果たして、今回、理想を掲げてこうした計画について、実現をしていくんだというようなお話もありましたが、まさにそこに掲げられた目的ですとか、まさに100の暮らしに象徴されるような市民の願い、市民の皆さんの願いを達成するための取組というものがまさにその流れに大きく縛られることを心配はしているわけであります。そういった中で、結局のところ、例えば、人員を減らす、減らさざるを得ないと、あるいは、民営化をとにかく推し進めていくと、そうした中で人件費について、私は行政コストという表現もいかなものかなと思っておりますが、そうした人件費等の削減が一つの大きな流れとなってしまって、結果として、この長期総合計画の目指すところについて、結果として、市民の願いと逆行しかねないことになりはしないかというような心配を持っております。その点について、ちょっと申し上げておきたいなと思うんですが、最後にこの点について、何かあればお答えをいただいて、質疑を終わりたいと思います。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 重要なお視点だと思いますので、私から述べさせていただきます。

まず一つ、最初の問題で、例えば、指定管理者とか業務委託とか、民間にそのような形で事業をお願いする場合に一つ重要な点がこの2年ちょっとの間に感じました。それを監視したり指導したりするチェックを、当然市には監査事務局がございすけれども、それ以外に民間の方々のやっぱり監視は必要だろうと思うのが一つと、あと物すごく感じているのは、その皆さんをチェックするという言い方はおかしいですが、大切な公金を使わせていただくの

でそこは重要なんですが、そのスキルを職員の中に、しっかりとそのスキルがない人をあてがうというのはあり得ないかと正直思っています。調べられません。民間の方々に、例えば、ごみ収集を業務委託します。ごみ収集の、例えば、トータル的なものとか個別みたいなどころも含めて、経費も含めてですね。それをしっかりと職員の中でこれが適正なのか適正じゃないのか、分かる職員いなければ話にならないと思っているところがあります。じゃあ、そういった職員をどうやって育てるか、これまた時間がかかるから、その間、外部の、例えば、有識者の方々に外部監視、外部審査をしていただかなきゃいけないんじゃないのかなと。ですから、安易に何でもかんでも指定管理者だ、業務委託だ、民間アウトソーシングだ、これだけでも駄目だろうと物すごく痛感をしています。そこをやはりしっかりとお任せする以上は、チェックは塩竈市役所が責任を持ってやっていかなきゃいけない。そのためのスキルアップをした職員を育てていかなきゃいけない。やはり、このバランスをうまく取っていかないと、そう簡単に民間、民間、民間というわけにはいかないだろうと。民間のいい部分をしっかりと受けつつ、受けつつも市役所でしっかりと業者さんを監視する、管理する、指導する、そこをやっていかないと駄目だと、この2年ちょっとで気づかせていただきましたので、安易に縮小する、民間に任せる、人を減らす、そういう感覚ではなくて、もう一方で必要なものをどうやって補ってかということについてもしっかりと議論をさせていただきながら、慎重に対応させていただきたいと考えてございます。

○土見委員長 小高委員。

○小高委員 先ほど質疑を終わると申し上げたんですが、今のお答えを聞いて一言だけ。

先ほど、市長のほうで大変重要なことをおっしゃられたかなと受け止めております。であるならばできれば、できればよかったんですが、今回の計画の中の、特にその組織の在り方の部分について、そういった考え方について、ぜひこういった議論の場だけではなくて、そういったお考えがあったのであれば、ぜひここに改めてもう少しボリュームのある記載として、しっかりと位置づけていただきたかったなということを、ちょっと最後に申し上げて終わりたいと思います。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 それでは、私からも何点か質疑をさせていただきたいと思います。

今回、第6次塩竈市長期総合計画の基本構想、前期基本計画ということで、3日目、4日目ということで、今まで説明、あと答弁等も聞かせていただいた中で重複する点もあるかと思

いますけれども、私もちょっと触れておきたい部分がありますので、ちょっとお聞かせ願えればなと思います。

資料No.28と29を使って、ちょっとお聞きをしたいと思います。私も、この資料No.28、29と資料等をちょっと何回か読み込ませていただきました。それで、これは、資料No.29の44ページの第6次塩竈市長期総合計画の策定経過についてというところを見ますと、この審議会も9回、また、世代間分科会とかワークショップとか、いろいろ展開されてきてまして、庁内の取組としても、市長、副市長、各部で構成され、いろいろ行われてきていまして、聞いていまして、なかなか説明、答弁を聞いても伝わってこないというか、そういうところもあったかなという私自身感じを持っていました。それで、先ほどもございましたけれども、この長期総合計画は、塩竈市の5年先、10年先、そういった目標の展開、または施策の事業の基本的な計画、そういったものの計画の最上位を示すこういった長期総合計画ということでありまして、これも23年には法の改正で策定義務がなくなったと。そういうところで、自治体の判断で議会の議決を受けて作成していてもいいよということになっていると思いますが、そういつて塩竈市で第6次長期総合計画をつくるというそういったところを打ち出されてから、それであればこの長期総合計画にこだわらず、別な形で示されてもいいんじゃないのというようなそういった声もあった中で、塩竈市としてはこの長期総合計画を選ばれたということでありまして、これは塩竈市においては、この長期総合計画が必要だということをもって、今回この長期総合計画をここまで作成されてきたということによろしいんですね、そういった形で。その辺ちょっと。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 先ほどの答弁とも重複してしまうところがあるかもしれませんが、やはり今委員がおっしゃったように、今回の長期総合計画10年というものと、それから基本計画について、やっぱり時代の変化が激しいということで、前期5年、後期5年というような中で整理をさせていただいたと。様々、やはり事例も、我々で各自治体の研究もさせていただいた中で、例えば、市民相互のアクションプランのような簡潔なものであったりとか、あるいは、いわゆる基本構想、基本計画が一体型であったりとか様々なものがございました。ただ、共通として、こちらとして言えることというのは、やはり市民の皆さんとの様々な方向性とか政策については、やっぱり一定程度、先ほど言ったように目的だったり目標は定める必要はあるんだという考えの下にまず進めさせていただいた中で、外部組織の審議会の委員の皆

様では、結局はこれまでと同じような構想がいいのではないかというご意見の中で、今回このような形に至っているということでございます。

以上です。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 分かりました。

資料No.28、29を見させていく中で、この基本構想から資料No.28の6ページにまちづくり目標と方向性ということを書かれていまして、これを見ていく中で資料No.29には16ページから8つの塩竈物語ということが書かれていまして、これページをめくっていく中で、分野、子供編、この7ページ、子供の笑い声があふれるまち、子供という、これを一つ一つ照らし合わせていくと、ああ、なるほどなということに理解をしているんですね。この文章を読むよりも、資料No.29のこの物語を見ながら資料No.28の文章に触れていくと、大体こういうものなのかなということに理解できます。また、資料No.28の35ページの子供たちの笑い声あふれる町からいくと、子供編とかありますけれども、これはみんなで描いた100の暮らし、こういった100の暮らしを照らし合わせて、こっちの資料No.28のこの文章を読んでいく中で、ああ、こういうものなのかなということに理解はできると思うんです。

だから、ここまでつくり上げてきたということでありまして、この基本構想、前期基本計画がこの部分を塩竈市としてやっぱりこういったものを意識しながら、この5年、10年という部分で、これを今度は実施計画に展開をしていくと思うんですけれども、基本構想、基本計画、そして実施計画ということで、長期総合計画はこの3層でできているわけで、これができて実績が展開していくというのが、当局であれ、私たちも一般質問で提案して、そして、この具体的な施策というのがこれから展開されていくということで私はそう考えています。この基本構想、基本計画、先ほどもありましたが、理念であり、また、理想であり、または夢でありロマンでありということで、そういったものを今後一体となって施策展開していくということで、こういったものを本当に意識して途中でずれることなく、社会情勢も変わってくるでしょうから、その辺を見ながらしっかりとこの実施計画の展開をやっていくというそういったことでいいのかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 今お話ししましたように、いわゆる基本計画は、5年、5年とさせていただいております。一方、実施計画は、3年間でそれをローリングして毎年見直していくとい

うものでございます。したがいまして、必ず計画的に、まずは、実施計画上は3年間をきちんと見据えた上で予算計上、その事業の構築であったりとかそういったものをきちんと整理しております。ですから、あくまでも前期基本計画の各施策に応じた形の実施計画事業という形で組立てをさせていただく。そして、さらに計画年度もきちんと整理をさせていただくとしてございます。

以上です。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 分かりました。しっかり、せっかくつくっていくわけですから、これを基にしっかりと。今は、何かあまりつくっても、つくって終わりというか、全く触れないということは、意識はないということはないですけれども、途中でもう施策がばらばらというかずれというか、こういう構想をせっかくつくったのにあれというような、そういうところもあったと私は受けているんですけれども、そういったところをしっかりと審議会の人とか市民の方とかせっかく提案されて、それを今度は具体的な施策に展開するというのが我々のそういった役目というか、あると思うので、しっかりその辺をお願いしたいなと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

それで、ちょっと中身に触れますけれども、資料No.28の15ページの将来人口の5万人ということで、全国的に人口が減っていく中で、推計では塩竈市4万7,000、4万8,000人ぐらいのそういったところになっていると思いますけれども、そこをあえて5万人ということになっているわけですが、そういったところ、資料No.29の41、42ページの第6次長期総合計画の答申の部分にも審議会の思いというのが書かれておりますけれども、42ページ、全国的にも人口減少が進んでいく中、将来人口5万人の確保に向けては厳しい道のりが続くと思われますとあって、一つ一つ施策を着実に実施していくこと、また、より広い視野を持ち、分野横断的に施策を展開するなど、たゆまぬ努力により少しずつ道が開かれていくものと信じているということで書かれておりますけれども、こういう思いの部分でよろしいんですね、この5万人の設定というのは。この辺を教えてください。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 審議会の会長からの強いお願いということのおりでございまして、やはり人口推計上は4万8,000人であったものを、やはりこれからのまちづくりの継続だったりとか、塩竈市がこれから将来にわたって持続可能な市であり続けるということのためにも5万

人という目標をさせていただいたというところでございますので、やはりここに書かれておるとおり、様々な横断的な事業を一つ一つ丁寧に着実に実施できるように、そういった実施計画の組立でも行っていきたくと思います。

以上です。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 分かりました。しっかりとこの設定どおり達成できるように、我々も努力をしながら一緒に取り組んでいきたいなと思っておりました。

あと人口、ただに人口5万人となっていますけれども、これは何世帯で5万人なんだというそういったところの、この世帯の表示等のそういった議論はなかったんでしょうか。その辺をお聞きしたいと思います。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 今回、人口の議論をするに当たりましては、ただいまご説明にありました人口の動態というのを総括はさせていただいております。ただ、そこに世帯数という部分については、やはり1世帯が平均何人とかという議論とはちょっとならないとは思いますが、ただ、一番我々が今回その5万人を目指して取り組む際に、一番力をやっぱり入れなければならないのは、先ほどの答申にもございましたように、生産年齢人口の部分ということ、この方々を塩竈に入ってきていただく、そして住み続けていただいて、次の世代をつくっていただく子供たちを育てていただくという大きい目標にはしているところではございますが、1世帯当たりの平均が何人というところまでの議論というのは、そこでは行ってはおりませんでした。よろしく申し上げます。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 分かりました。その世帯まで入れて作成している自治体もあって、ちょっと見たときに、あ、世帯も入っていると何かこの人口何人とやるよりも、世帯が、1世帯がこれで何人でこうなんだなというようなそういったのがちょっと浮かんだというか、それもいいのかなと思ったものですから、本市ではどのようなあれだったのかなと思ってお聞きをいたしました。

じゃ、次に行きますと、資料No.28の27ページで4つの実感プロジェクトについてということでもありますけれども、この14目標を達成しよう、K G Iということで、前期計画目標70%ということで、この根拠はということで質疑させていたところもありますけれども、そのとき

には、毎年1%ずつで基準値65ですから毎年1%で、5年で70%だというそういう答弁だったと思うんですけれども、令和13年といくと目標値80%ということなんですが、前期5%、後期というか、そうするとこれ10%になっているんですが、前期は上昇というか、やはり後期には加速をさせるというそういった見方でいいのでしょうか。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 まさにそのとおりでございます、基準値65%元年度の数値からスタートしていきます。前期の5年間で1年間当たり1%上げていこうというものでございますが、最終10年後につきましては、後期で加速をさせ80%まで、合計15%上昇ということで取り組んでまいろうという考え方でございます。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 分かりました。

これ、その下に住みよさ、喜び、やりがい、にぎわいということで、これも前期の計画だと、これ全部5%ずつということですが、全部5%というのは分かりますけれども、この4つの中で、多少5%じゃなくて少し違いがあってもいいのかなということを感じたわけですが、この点はどう考えてこうなっているのでしょうか。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 議論の途上では、様々なやはり目標値をどう設定するかというのは、内部的にも議論はさせていただいたところでございます。しかしながら、やはり着実性というところを、それから今回は計画としまして、前期5年、後期5年と分けているということもございます。ここでの着実なステップアップをしていくということでは、こちら指標のはかり方というのをまちづくりに関する市民アンケートというところに据えておりますので、それぞれの項目につきまして、1%ずつ計5%上げていくというところを共通の目標とさせていただいたところでございます。

以上でございます。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 共通目標ということで。ただ、その目標値設定の根拠というのが本当にあるのかなのか、そういったところをちょっと感じる点がございました。

それで、じゃあ、そういうことで、後半の35ページからのまちづくりの方向性というところにずっと入ってきて施策の体系というところ。そして39ページ、ここにも指標名と基準値と

目標値ということであるんですけれども、これを見ると、4番の一時預かり保育利用者数935人の基準値で目標値が950人と。また、児童相談件数も基準値が108で目標値が108、あと7番の授業内容はよく分かるという回答した児童生徒の割合ということで、この目標値を見ると、ここから下は県平均を上回る、県平均を上回る、県平均を上回る等々書かれているわけですね。あと45ページ頃に行くと、成果指標2番、介護予防に資する「通いの場」へ参加する高齢者の割合、基準値10.9%、目標値に行くと前年度を上回る。あとは、6番のがん検診精密検査受診率、このがん検診率基準値を上回る。精密検査、これはまだ出ていますけれども、そういったことで、このがん検診も塩竈市の計画でいくと70%以上の目標ということで、平成のあれからいくと35年までということになっていると思うんですけれども、この辺何かもうちょっと違う表現の仕方だったり書き方というか、この後もそういった感じで書かれていますけれども、あるのではないかと。曖昧なところもある。この基準値もべらぼうに高くという、実現できないようなそういったものを示すところでもないということは理解していますけれども、そういったところをどうお考えでこのような目標値としているのか、その辺をお聞きしたい。

○土見委員長 佐藤政策調整監。

○佐藤市民総務部政策調整監兼政策課長 これらの、今、ご紹介を幾つかいただきましたけれども、今ご覧いただいているところだと資料No.28の45ページかと思います。こちら、それぞれの、これは成果指標ということで、この第3節、安心できる地域医療体制の充実というものを目指すために、指標として何を設定し、その基準値をどこに置いて、そして目標としてどこを定めていくかということ、これを一覧にしたものということになります。

今、ご質疑いただきましたように、様々な表現の方法といいますか、目標値の設定の表現の仕方ということはあるところがございます。これは、実はそれぞれの担当課に委ねて、基準値をどこに設定し、目標値をどこに置くかということは確認させていただいたところがございますが、今委員からもございましたように、本当にべらぼうにどんというところで、必ず100を目指すんだというようなことを申し上げるのも、これはある意味簡単なのかもしれません。ですが、やはり着実性というところで、一步一步進んでいくという表現の中で、例えば、前年度を上回る数値というような表現とかも出てきているのかと思います。

また、がん検診、それから精密検査、これも様々な要因があつての数字ということが受け取れるかと思うので、考え方といたしまして、やはり目標値として、この5年間の中で、

どこを目指していくかという意味では、前の年を、例えば、前年度を上回るというのは、確実に一步一步上がっていきましょうということの表れということも言えるかと思しますので、そのような表現を一部取らせていただいているというようなことをご理解いただければと思います。

○土見委員長 小野委員。

○小野委員 そのように言うんですから、そのような思いで私も受け止めるしかないのかなと思って。もうちょっと県平均を上回るとかこうだとかという部分で、ちょっとそれでも通用というか、ああと分かるところもあると思いますけれども、分からない点も、何で県平均を上回る、ある程度の数字が出ないのかというそういった部分も感じましたので、その辺だけ伝えておきたいと思います。

いろいろと質疑はこれくらいにしておきたいと思いますが、この基本構想、前期基本計画をここまで作り上げられてきましたので、これには、審議会、また、市民の方の思いが込められて、このように提案されてきていると思いますので、何とかこういったものもしっかりと形にしていきたいなと思っているところでございます。

この8つの物語の29ページにも示されている、こういったところとか、8つの塩竈物語、また、みんなの描いた100の暮らし、この絵も聞くところによると、ワークショップの中で市民から話ししているその場で絵を描くと、描く方が職員の中にいるということで、あ、すごいなということで感じておりましたし、やっぱりそういった人たちの思いもこういった絵をその場で描くということで、おお、すごいなとそういった職員の方もいらっしゃるんだなということで、私もすごく感動をいたしました。

また、この基本計画の構想に携わっていた方とお話をしたときもあるんですけど、こういった長期総合計画の製本というか、それを考えているということで話したときに、やっぱりあらゆる世代の方がぱっと開いたときに、この文章がいっぱいあるんじゃないかと、開いたとき一目で塩竈の将来の方向性、将来図をそういったものがそれだけでぱっと分かるような、そういったものにしたいというそういうお話をしながら私も注目をしておりましたので、しっかりとこういったものを誰でも分かる、または我々も当局と一緒に、施策の展開へ努力をしていきたいと。あとはしっかり作り上げていただきたいということをお願いして、私の質疑を終わります。

○土見委員長 暫時休憩といたします。再開は、11時25分。5分間ですけれども、11時25分より

再開いたします。

午前 11 時 19 分 休憩

午前 11 時 25 分 再開

○土見委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

伊勢委員。

○伊勢委員 私からも資料No.28の72ページに関わって、確認と質疑をさせていただきます。

それで、全般的に基本構想での5万人想定とか、あるいは、100の物語ですか、こういうものについて、これは一つの理想に向かって、塩竈市が5年、10年のスパンで進めていくかという点では、私たちは非常に夢があるというか、しかし現実には、5万人想定というのはかなりハードルが高いというのは初日の質疑でも言いましたので、ひとつその挑戦は引き続き臨んでいただきたいと思います。

4つの実感プロジェクトというのが資料No.28、27ページから31ページのところに入れられておいて、私も基本計画に沿って様々な関係で市民の皆様のアンケートをよりどころに、いわば施策の目標とかこういうものを示したんだなと思っているところです。これも例えば、テーマとしては、27ページのところで住みやすさ実感プロジェクト、喜びの実感プロジェクト、やりがいのある実感プロジェクト、にぎわいの実感のあるプロジェクトと、それぞれパーセンテージは凸凹あるものの、これに向かって行くんだなというような私たちも認識したところです。恐らく、これは、アンケートをよりどころにこういった指標を示したものではないのかなと思います。これは、ひとつそういうことでの関係で、私たちもこういった少しでも塩竈市がよりよい方向に進めばいいのかなと思います。

そこで、先ほど72ページに触れられておいて、それを前提にしつつ、その72ページのところで様々な議論があったし重要な答弁があったと思うんですね。それで、72ページのところで、小高委員のところから、例えば、今言ったような関係で今後どうするかという点で、例えば、アウトソーシングの課題とか、あるいは、定員適正化の課題とかこういった問題が出て、市長の回答では、非常にデリケートな問題だと。あるいは、民間のノウハウについて、安易なアウトソーシングではなくて両方を見定めていくとこういうような回答があったかと思います。そして最後のくだりで、全体として総括的に市長も答えたのは、慎重な対応を進めていきたいと。これはやっぱりそうだと思うんですね。つまり、第6次長期総合計画を市民の皆

様とステージを一緒にして活動していくということと併せて、やっぱりそれを後押しするのが市の職員さんなわけですから、やっぱりそれは大事な課題、案件ではないかなと思うところなんです。それで、その答えを踏まえて、ちょっと何点か確認をさせていただきたいと思うんですが、例えば、きめ細やかな持続可能な行政経営というのが示されておって、①のところで計画的な財政運営、適正な定員管理というものが示されております。

ちょっと確認でお聞きしたいのは、この4つのプロジェクトは、まずアンケートと何だろうな、そういったそれを根拠にした示し方ですので、それはそれでいいのかなと思いますが、この(2)の①の計画的な行政運営、適正な定員管理と、これ、根拠になるべきものは何なのか、最初にそれを示していただきたいと思います。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 計画的な財政運営と、それから適正な定員管理というのがあります。これは第4次行財政改革推進計画の中の位置づけにもございますけれども、例えば、一つは定員管理適正化計画でありますとか、あとそれから計画的な財政運営というのが、いわゆる財政見通しというものを議会にもお示ししたとおりある中で、一緒にこれらを総合した中での行革計画というのがつくられています。ただ数字的には毎年動いていますので、そういったところをローリングして見直ししながら、こういうものを整理しているという計画でございます。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 そうすると、これは、言ってみれば第4次行財政推進計画を踏まえた表現ということになるわけですね。そうしますと、改めてその当時の第4次行財政推進計画をちょっと見させていただいたんですが、あの当時の関係でいうと、2018年4月1日、469人の職員を2023年4月1日で456人、マイナス13人と減とすると示しております。これは、そういうものがあるんだということを皆さんのところでも承知はしているかと思うんですが、そうしますと、先ほど回答でいただいた関係上こういったものも慎重な対応、市長のお言葉を借りると、やはり慎重な対応ということでの関係になってくるのかなと。当然、市長自身も第6次長期総合計画に関わって、諮問、答申を受けて、それを議会に示したわけですし、慎重な対応とは、この第4次行財政推進計画との関係でどのように捉えていけばよいのか、市長ご自身からひとつご回答をよろしくお願いします。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 まず大前提に、第4次の計画時点と、この第6次の計画の時点では、全く状況が変わってきているということがあろうかと思えます。第4次の時点での策定状況のときと、それが10年たってどういう状況だったのかということ、第5次の策定、そしてまた、第5次の結果、第6次の状況、こういった変化の中で常に動いている、生きている状況だと思っておりますので、その変化に臨機応変にどう対応していくか。また、少し先を見据えた塩竈の状況を考えたときに、今何をすべきか、何が必要で、ちょっと先にどういうものやっつけていかなきゃいけないのか、こういうことを常に変化の中で考えていかなきゃいけないだろうと思えます。もう第6次の時点ですら、ある意味では今こうやって市議会の皆様方と議論させていただいています。実行計画の中で、どのようにこのお考えなり、市民の皆様方の思いなり、策定をさせていただいた後にどう進めていくか、こういったことも常に変化の中で行われていくべきものだと私は思っております。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 私、聞いたのは、要するに第4次、分かります。第4次長期総合計画とか第5次、第6次、恐らく長期総合計画のことだと思うんですが、私が課題にしたのは、要するに第4次行財政推進計画について、市長として、この当時策定した絡みの関係でどのようにお考えになっているか。先ほど慎重な対応等々についてもご見解は述べられましたので、そこら辺のちょっと関係で、この辺の前段をお聞きしたいなというところでした。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 お答えをさせていただいたと思いますが、第6次の状態で、当然、過去の経緯を踏まえた上で現時点があって、第6次の計画で委員会の、第4次の話を今伊勢委員からおっしゃっていただいて今どうなんだということだと思いますが、私が市長に就任して2年ちょっとになりますけれども、その時点で現実が今どうであるのか、そしてこの2年の動きの中でどのような形で職員の方々が働きになっていて、任用の職員の方々が働きになっていて、それと同時に過去の経緯の中でどのように職員の正職員の方々が管理をされていて、アルバイトの方々が管理をされていたのか。例えば、人件費を含めてどのような管理をした上で役所が動いてきたのか、こういったことの違いが大きくあろうかと思っております。私は、当然、過去の経緯は過去の事実として今受け止めながら、現時点で何をすべきかということ踏まえてお答えをさせていただいております。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。

要するに、当時の到達点、あるいは、当時つくった第4次行財政計画と、それから今般、市長が就任した2年間との関係で、やはりちゃんとした正職員、あるいは、任用職員、アルバイト、こういうものが、管理がちゃんと行き届いたのかどうかも含めた、改めて精査しなければならない案件というかな、そんな感じで、それとの第6次長期総合計画との実際上の計画を進行管理していく上で、やはり先ほどデリケートな問題とご発言はされていまして、やはりそれは非常に大事なポイントだと思うんですね。せっかくこのような形で様々な計画が示されたり、理念が示された中で、やっぱり後押しするのは職員の皆様の様々なスキルアップというかな、そういう話がありましたから、やっぱりそこも含めて定員の管理等について、ぜひ進めていただければと思います。私的には、やはり第4次行財政計画が底辺にずっと座っていると、やはりそれに私自身は、市の職員さんは縛られてしまうのではないかと。定員管理も先ほど述べたように、今後は減にしますよというそういう現実、そういうものが示されていて、やっぱりそれに縛られてしまうのではないのかなと、こう思うんですがどんなものなんでしょうか。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 計画というのは、あくまでも長期総合計画を含めまして大きな目標、大事なものであると捉えております。したがって、第4次行革推進計画も大きな目標として捉えているということは、変わりはありません。ただ、市長からもお話あったように、時代というのが、かなり潮流が最近すごく大きく変化している、そういう中で行政サービスを提供する内容も随分大幅に変わってきているという実態もございます。その中での計画、それが策定された年度のタイミングと現状と比べますと、差異が生じてきているというのもあると思いますので、やっぱりそれは現計画をきちんと総括なり分析をした上で、現状とそれから今後に向けてどう変わっていくかという予測の中で一定の見直しという考え方は必要かなと考えております。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。

一つ、そういう見直しというかな、やっぱり総括が私はあらゆる場面で必要だと思うんです

ね。ですから、特別委員会でこういった議論をしているというのは、そういうことも含めて大事ではないかと。ただ、このまま第4次行財政推進計画がずうっとレールを敷いた方向でこのまま進むとなると、どっかで矛盾が作り出されるのではないかと。やっぱり第6次長期総合計画のこういった理想を実現するには、かなりの私はエネルギーが必要だと思うんですね。当然スキルアップもしなきゃない、そこら辺も含めてその辺のくだりをしっかり見定めて、じゃ、何が適正な行財政運営であり、何が適正な第6次長期総合計画との関係で定員適正化が、何が必要なのか。当時と比べると、確かに会計年度任用職員というのは当時採用されていませんでしたしね。したがって、時代の潮流、変遷というのをやっぱり見据えながら、そこら辺の関係もやはりしっかりまとめていただいて、こういうものがあるよというところなどをしっかりと示していただきたいと思うところです。

改めて当時のやつを見ると、計画的な財政運営、定員管理、アウトソーシングの推進、業務の適正効率化、職員の育成、職員の育成はいいと思いますけれども、これは大いにやっていただいて、やっぱり全体として5つ並べられていて、しかし結果として、先ほど言ったように469人から456人に13人減らすという、この縛りが、目標設定がある限りは、やっぱり私は職員の皆さん、管理職の皆さんもやっぱりここにぎゅっと縛られてしまうんじゃないかというところを危惧するものですから、改めてその辺のところは、ぜひ第6次長期総合計画を議論して、そして今後の理念と計画を進めていく上でも一定の総括というのは、私は必要かなと思いますので、そこら辺ひとつよろしくお願いをしたいと思います。ただ、このまま第4次行財政計画がそのままという形だとすると、私たちとしては、やっぱりこれはちょっとこの見解と判断に立つならば、やっぱりそれは賛同できない案件なのかなという含みも持たせておきたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

次に、こちらでデジタル化という課題も一つ行財政推進計画の中で示されております。これは6月の議会で、ざっくりいえば、要するにデジタル化を通じて今までの行政運営の中で推進していきますよと、国の施策も大分細かく議論した経過を覚えていますので、そうしますと、新たにデジタル庁などもできて、いわばそれを前提にした様々なひもづけとあったらいいんでしょうかね。例えば、17の基幹業務について、地方自治体がDX化すると、令和7年度以降でそれを進めるんだという方向のようですが、今現在、例えば、デジタル化の庁から示されたデジタル化という関連と現時点でのこの対応について、どのように判断していけばよいのか。その辺だけ示してください。

○土見委員長 荒井市民総務部長。

○荒井市民総務部長 もう既に9月からデジタル庁ができて、あとデジタル推進のための手順書も国から来ております。それに向けて、おおむねは令和7年度から大きく変化するというものもあれば、来年4月から徐々に変わっていく部分もあります。現在、市では財政課内にデジタル推進室というものを、一応兼務発令でございますけれども、そういった組織を立ち上げて来年度以降の準備を今も進めていると。ただ、実際的に、本格的に稼働するのが来年度からになりますので、そういった意味ではさらに組織の、いわゆる専任化と、組織を強化して人数をちゃんと補充して、それを専任化するという組織の見直しも今現在進めてございます。あくまでもデジタル推進というのは、市民サービスに向けての非常に便利、利便性の向上というものを目的とした中で、我々としても、これを機に業務改革も併せてできればと考えております。

以上です。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 現状、分かりました。ちょっと懸念するのは、やはりデジタル全般について、あれこれ、それはそれで今の時代の潮流、流れですので、様々なそうしたシステム改修というのかな、やっぱりそういうものは大事だろうと思います。ただ懸念するのは、やっぱり個人情報、特にマイナンバーに絡んでの様々な整備、オンライン化というのも当時指摘をしていましたので、これ自身もやはり今後の国の施策との関係でどうしてもやらざるを得ないのかなと思いますが、改めてその辺の問題点などは当時討論もしたので、これ以上は避けませけれども、そういうところも含めて重要な今後のデジタル化に向けた関係で指摘をしておきたいなと思います。これは私どもの見解ですので、特に回答は要りませんので、どうぞよろしくをお願いします。

次に、ちょっと1点だけ別な項目で、ちょっとご質疑させていただきたいと思うんですね。

それで、例えば、志賀委員さんも水産業の様々な変遷、変化ということで、最初の段階で質疑されました。私は、59ページのところで、観光交流によるにぎわいづくりという点で何点かちょっと確認をさせていただきたいと思うんですね。塩竈でしか味わえない観光あるメニューというのが鹽竈神社と門前町と、それからマリングートだよと、市場だよと、浦戸ですよと。これは、これで非常にストーリー性を結びつけていく上で大事なところだと思います。

そこで、ちょっと私も改めて塩竈の観光拠点でちょっといろいろ調べてみましたが、例えば、

町の観光、本町だったり宮町の関係でいうと、一つは回遊性をどう高めるかと。門前町、今プロジェクトがありますからこれは避けておいて、現時点で、例えば、回遊性をどう高めるかということになるかと思うんですね。そうすると、鹽竈神社様があります。ただ、バスは向こうにぼんちやいます。そうすると、町場周辺の観光拠点となると、御釜神社さんなり、町の博物館なり、杉村惇美術館なり、亀井邸さんなりとこういうことになると思うんですね。ただ、やはり一番大事なことは、そういうところを生かしつつ、以前に、ちょっと具体論になるからお話だけにとどめておきますけれども、例えば、本町のくるくる広場に、たしか十数年前に観光バスを誘致したというようなくだりもあるんですよ。これは、担当の方、お分かりだと思えますよね。やはり本町を歩いたり、その店を訪問して、せっかくいい個店があつて、しかも一定の観光のそういったものもあつて、いい雰囲気醸し出すということも含めて非常に大事なスポットはあります。

それから、もう一つは壺番館ね。壺番館に小さい塩竈の、4階だか5階にあるんですよ、塩竈のシアターを一応造って。ただ、これも1991年、壺番館が造られた当時とそんなに変わっていない、やっぱり2021年、もうかれこれあれから何年たつんでしょうね。20年、30年たつて、今の歴史の変遷との関係でいうと、大分ちょっと少しイメージというか中身も古くなっているのかなと。そうすると、塩竈の訪れた皆様が塩竈の歴史を学ぶ、あるいは、そういった施設ですかね、文化的な風情を味わうという点でその辺の工夫も必要だし、ここに書かれているとおり、戦略的なプロモーションの推進ということがやっぱりどうしても必要かなと。ただ、それには行政だけのプロモーションでは駄目であつて、やっぱり地元の方々の熱意、発想、こういうものが私は必要かなと思えますが、その辺も含めて60ページ、61ページのところで、初日のたしか質疑の中でも市長自身も話合いをしていますというような回答があつたかと思えますが、そこも含めて塩竈のそういった、少しでも発展すべき案件としてどのように捉えていけばいいのか、その辺だけ確認させていただきたいと思えます。

○土見委員長 小山産業環境部長。

○小山産業環境部長 やはり塩竈にとって、第6次長期総合計画において、観光ということでやはりにぎわい、活気を呼び起こすということは、非常に大事なポイントだと私どもも考えてございます。そういった中で、やはり塩竈の観光メニューとしてご紹介いただきました鹽竈神社と門前町、マリゲート周辺ですね。そういったところを中心に観光拠点というものをどういうふうにしてプロモーションしていくか、そういったことを求められていると思いま

す。

あと、今ご質疑の中でありましたように、くるくる広場には震災前には観光バスをお呼びして、冬の七夕なんていうことでまち歩きなんかを楽しんでいただいたような経過もございますけれども、震災があり、その後、くるくる広場に中小企業庁の店舗なんかができたりとかしたような経過を踏まえて今に至っておりますけれども、やはりそういったもともと塩竈市が持っている門前町というブランド力というものを生かしていくということを、改めてここでもう一度認知いただくような努力というのをしていかなければならないと考えてございます。そういったことを一つ一つ積み重ねて、塩竈では観光ビジョンというのをつくってございまして、千年の歴史と美食にであうというキャッチフレーズございますので、そういった原点に返って、そういったものを一つ一つ積み上げて、魅力ある塩竈市ということで観光客の方々に訪れていただいて、そういったことに塩竈市民を挙げているんな方にご協力いただいて、プロモーション活動を進めていかなければならないんじゃないかなと考えてございます。

○土見委員長 伊勢委員。

○伊勢委員 分かりました。

一つ、これはこういう塩竈ブランドの確立ということとおもてなしの体制ですね。広域連携により、人口交流の拡大というところでのこういったテーマもありますので、ぜひ生かしていただければと。

ただ1点だけですね。私ちょっと、例えば、こういうものを進めていく上で、ちょっと残念だなと思う。これは致し方ないのかなと思うんですが、本町とか南町とか宮町の店舗の皆様のお休みが第2、第4日曜日かな。せっかくほかから来た方々が、やっぱりその日と重なっちゃって、ちょっとかわいそうだなという感じはするんですよね。やっぱりおいしいものを食べたいし、そういった博物館にも行ったり、塩竈のいいところを、歴史の関係でもいろいろとやっていく上で、しかし受入れ態勢が整わないとできない。もちろんお店の方も休まなきゃいけないというのは、私も理解するところですから無理はできないかもしれませんが、しかし、こういったせっかく訪れて塩竈で回遊して、そして買い物をしていただいて、やはり塩竈のよさを実感していただくということが今度次につながっていくんですよね。一度行ってみたい、一度来た、じゃあもう一回行ってみよう。松島の海岸通りと違って、やっぱり何ていうのかな、そこら辺の塩竈のよさを歴史上のよさを非常に実感できるものも私は塩竈市には兼ね備えているのではないかと思いますので、例えば、そういう観光客の(3)の②のと

ころで観光案内所や観光拠点の受入れ整備、ここの中にやっぱりお店の、何ていうのかな、休みは保障しなきゃいけないと思いますが、しかしやはり、せっかく休日を使って訪れた方々をいつでもお受けできるような仕組みも意見交換したらどうかなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 今、大変重要なお指摘をいただいたと思っております。というのも、そういったところも含めて、今回このような形でご提案をさせていただいているという部分は大きいであろうかと思いますが、一つ考えたのが、例えば、イベントもそうなんですけれども、鹽竈神社のみならず祭とか花まつりとかそういったこともあろうかと思いますが、それを統一的にトータルプロデュースする人がいないんですよね。ですから、毎年同じような行事をさせていただく場合、もしくは、それ以外にいろんな方々から、いろいろご指導をいただいてイベントも最近は多くさせていただいています。それをトータルでどなたか管理する人さえいれば、もっと違った形になっていくだろうと。それは結果的に今、伊勢委員ご指摘のとおり休みの日の統一化だったり、門前町とかあの周辺でどのようなお客様にサービスをご提供させていただけるかということに全てつながっていくのかなと思っております。その辺は、行政としても今後大きな課題として捉まえたほうが物すごく重要だと、今感じたところでございます。

○土見委員長 浅野委員。

○浅野委員 では、3分間で質疑させていただきます。

資料No.29の43ページに、この審議会の会長さんのお言葉がいろいろありますが、この中の(2)のしおがま未来創生プロジェクト、この中に今回の前期基本計画の中にあって、原動力という位置づけの中に市民の方々の住みよさ、それから喜び、やりがい、にぎわいを感じていただき、最終的に塩竈市への愛着と誇りを高めていくことを目指していますというお言葉がありますが、まさにそのとおりだと思いますが、今回のこの計画の中に、前のページの24ページからみんなで描いた100の暮らし、これは大変私もずうっと一つ一つ見ましたけれども、本当に今現在、塩竈市の夢物語といたらそうかもしれません、昔こういったことがあった、また、これを復活したいという思いもありますし、また、私がしょっちゅう言っています空き家対策のこともたくさん含まれておりまして、やはり市民の感覚の中には、そういった塩竈市の持っている今現在問題となっていることも、裏を返せば、これが希望につながるんだということも皆さんよくご存じだと思っております。

私、一つ考えたのは、当事者感覚、ここは審議会だったり市民の皆さんのご意見を伺って、また、国の様々な施策と併せて、SDGsと併せてというような感じで見えていますと、材料いっぱいあって、それを統合的にして、その中で構想を考えているという感覚ですけれども、私たちは今現在塩竈市に住んでいて、日々ここで生活をして、これから年を取って、また、介護を受けるか、また、亡くなっていくか、また、病気にもなるかもしれません。子供たちも巣立って行って帰ってこないかもしれない。そういった様々な現実問題の当事者として、だったらこの塩竈市にどれだけ長く住みやすいまちにしていくか。また、子供たちがこのまちから出ないで、ここで就職して結婚して子供を産むには、どういったようなまちになっていけばいいのかというこういった当事者感覚がこの第6次長期総合計画、いわば10年間というだけでなく、これからの塩竈にとって大変必要だと思っております。そういった意味で、この100の暮らしは大変参考になりますし、当事者感覚というものを失わずに、この計画を一つ一つ積み上げていけばいいかなと思っておりますが、市長のお考えをお聞かせください。

○土見委員長 佐藤市長。

○佐藤市長 私もこの100の暮らしをイラストで拝見させていただいて、非常に分かりやすいと思ったのが実情でございますし、皆様ご承知のとおり、前にも答弁させていただきましたが、今回の長期総合計画については、報告は逐一受けておりましたけれども、私は最初の二、三回だけで、あとはもうお任せさせていただきました。市民の皆様方がどのような目線でこれからの塩竈を考えていらっしゃるのか、先入観を持たずにぜひご提案をいただきたいという主目的がございました。そしたら、このような形で分かりやすい中身のあるものを表現していただけたと、そのワークショップの中でその絵面を見ながら、本当にイラストを描いていただいた方には非常に興味を持って、ぜひこういったものもカラーで表現したら面白いし、これでカードを作ったら面白いんじゃないかなと思ったところでございます。こういった形で市民の方々が実際に自分たちのお考えを示していただいて、その示していただいた中身について、行政がどれだけ実現をしていくか、そのことがここに参加していただいた方々に対する最低限の儀礼だと思いますし、全ては無理かもしれませんが、この思いをしっかりと受け止めて、10年間という一つの区切りの中で目標を持って取り組んでいくという強い気持ちが市役所の中にも必要だということでございますので、しっかりと取組をさせていただきたいと、このような形になるように努力をし続けたいと思っております。

○土見委員長 ほかにございますでしょうか。（「なし」の声あり）

では、お諮りいたします。以上で、議案第64号第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについてに対する質疑の一切を終結することにご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 異議なしと認め、議案第64号第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについてに対する質疑の一切を終結いたします。

暫時休憩いたします。

議会運営委員会が北側委員会室にて開催されますので、委員の皆様はよろしくお願いたします。

午前11時57分 休憩

午後0時00分 再開

○土見委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論の通告がありませんので、討論を終結いたします。

続いて、採決いたします。

議案第64号について、原案のとおり可決することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○土見委員長 起立全員であります。よって、議案第64号は原案のとおり可決されました。

以上で全ての審査は終了いたしました。

委員の皆様には審査に終始ご協力を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。また、当局、三役の方々のご協力に対しても心より感謝を申し上げます。

なお、委員長報告案文の作成については、正副委員長にご一任いただきたいと思います。ご異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○土見委員長 では、異議なしと認め、さよう決定いたしました。

これにて、塩竈市長期総合計画特別委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後0時02分 閉会

塩竈市議会委員会条例第29条第1項の規定によりここに署名する。

塩竈市長期総合計画特別委員会委員長 土 見 大 介